

3 専 門 科 目

(1) 看 護 学 科

専門科目（看護学科）

※令和4年度以降入学生科目

科目名	頁	科目名	頁
※看護学概論	91	※精神看護学概論	149
※基礎看護技術論Ⅰ（生活の援助技術）	92	※精神看護方法論Ⅰ	151
※基礎看護技術論Ⅱ（診療の援助技術）	96	精神看護方法論	153
※看護倫理	98	※精神保健学実習	155
※看護理論	99	精神看護学実習	156
※看護過程論	100	※在宅看護概論	157
※看護人間関係論	101	※在宅看護方法論Ⅰ	158
※フィジカルアセスメント論	102	在宅看護方法論Ⅱ	159
※家族看護学	104	在宅訪問看護実習	160
※基礎看護学実習Ⅰ	105	在宅看護連携実習	161
※基礎看護学実習Ⅱ	106	※公衆衛生看護学概論	162
※小児看護学概論	107	※保健医療福祉政策論	163
小児看護方法論	108	保健統計学	165
※小児看護学実習Ⅰ	110	ケアシステム論	166
小児看護学実習Ⅱ	111	学校保健論	167
※母性看護学概論	112	産業保健論	168
※妊娠分娩期看護方法論	113	公衆衛生看護方法論Ⅰ	169
母性看護方法論Ⅱ	115	対象別公衆衛生看護論	170
母性看護学実習	117	公衆衛生看護方法論Ⅱ	171
※助産プロフェッショナルリズム	118	ヘルスコミュニケーション論	172
※リプロダクティブヘルスケア	119	コミュニティ活動展開論	173
妊娠期助産方法論	120	公衆衛生看護管理論	175
分娩期助産方法論	121	地域看護診断実習	176
産褥期助産方法論	123	公衆衛生看護活動実習	177
地域母子保健	126	看護教育学	179
助産管理	127	看護管理学	180
妊娠期助産実習	128	健康危機管理論	181
分娩期助産実習	129	総合看護学実習Ⅰ	182
分娩産褥期助産実習	131	総合看護学実習Ⅱ	183
※成人看護学概論	133	※研究方法論Ⅰ	184
※急性期看護方法論Ⅰ	134	研究方法論Ⅰ	185
成人急性期看護方法論Ⅱ	136	研究方法論Ⅱ	186
※慢性看護方法論Ⅰ	138	卒業研究	187
成人慢性期看護方法論Ⅱ	140	終末期看護論	188
成人急性期看護学実習	142	国際看護論	189
成人慢性期看護学実習	143	※英語論文読解	190
※老年看護学概論	144	欧文原著講読	191
老年看護方法論	145	※ジェネラリズム看護論	192
※高齢者生活探究実習	147		
老年看護学実習Ⅱ	148		

授 業 科 目 名		学 科 (科目区分)	担 当 教 員 職・氏名	必修・選 択の別	学年	開講 時期	単位 数	先修条件 指定科目	科目等 履修生
看護学概論		看護学科 (専門科目)	教授・沼澤 さとみ	必修	1	前期	2	非該当	可
授業概要	看護を構成する概念、看護の対象となる人間をどのように捉えるかを学習し、看護の概念的定義、看護とは何かについて理解を深める。また、保健・医療・福祉のシステムや、看護の法的側面や倫理、看護の専門性、国際看護や災害看護、看護職のキャリアについても学習する。								
一般目標	1. 看護を構成する概念、看護の対象となる人間、看護の概念的定義を理解し、看護とは何かについて考える 2. 保健・医療・福祉のシステムや、看護の法的側面、倫理、看護の専門性、看護職のキャリアについて理解できる								
到達目標	1. 看護の概念的定義について説明でき、看護とは何かを考えることができる 2. 看護を構成する概念、看護の対象となる人間について説明できる 3. 看護の法的側面と倫理について説明できる 4. 保健・医療・福祉のシステム、多職種連携、チーム医療における看護の役割について説明できる 5. 国際看護や災害看護の基本的な考え方を説明できる 6. 看護の専門性について理解し、看護職を目指す者としてのキャリアを考えることができる								
成績評価方針 評 価 方 法 および基準	テスト 60% (目標について、知識の理解度で判断する) 課題・授業中のワーク・授業への参加態度等 40% (目標について、自分の考えを論理的に述べているかで判断する。ミニッツペーパー等も参考にする)								
授業計画									
回	日付	授業項目・学習課題	学習内容・学習方法				授業外学習など	担当	
1	5. 4. 12 (水) 3	ガイダンス	基礎看護学の学習内容				各回の学習課題に 応じて、以下の 学習をする ・課題に関する 書籍や配付資 料を読む ・課題に関して ネット検索な どをして収集 した資料を読 む。 ・授業でディス カッションや ワークを行い、 自分の考えを まとめる。	沼澤	
2	5. 4. 19 (水) 3	看護とはなにか	ナイチンゲールの看護について理解する					沼澤	
3	5. 4. 26 (水) 3	看護とはなにか	ヘンダーソンの理論から看護を考える					沼澤	
4	5. 5. 10 (水) 3	看護とはなにか	看護の定義(目的・対象・機能)を考える					沼澤	
5	5. 5. 17 (水) 3	人間と健康	健康と病気 ・健康の定義					沼澤	
6	5. 5. 24 (水) 3	人間の健康と環境	環境/社会環境の変化と健康問題					沼澤	
7	5. 5. 31 (水) 3	看護の対象としての人間の 多面的な理解	統合体としての人間 人間の欲求、成長・発達する人間					沼澤	
8	5. 6. 7 (水) 3	看護の対象としての人間の 多面的な理解ー自立ー	人間の自立を考える					沼澤	
9	5. 6. 14 (水) 3	看護実践の法的側面	看護の法的規定(保健師・助産師・看護師法) 看護実践の基盤となる看護過程					沼澤	
10	5. 6. 21 (水) 3	看護活動の場と保健・ 医療・福祉における看護	保健・医療・福祉のシステム、医療の提供体制 地域包括ケアシステム					沼澤	
11	5. 6. 28 (水) 3	多職種連携・チーム医療に おける看護の役割	チーム医療に期待される成果・看護の役割 様々なチーム医療と専門職					沼澤	
12	5. 7. 5 (水) 3	国際社会と看護	看護の国際協力 ・国際看護					沼澤	
13	5. 7. 12 (水) 3	災害と看護	災害医療 ・災害看護					沼澤	
14	5. 7. 19 (水) 3	看護の専門性とキャリア	専門職とは何か 認定看護師・専門看護師制度					沼澤	
15	5. 7. 26 (水) 3	まとめ	知識の確認					沼澤	
教 科 書 参 考 図 書	教科書(2と3は、後期の科目「看護理論」でも使用します) 1. 志自岐康子他編：看護学概論，メディカ出版，2022 2. V. ヘンダーソン著，湯楨ます・小玉香津子訳：看護の基本となるもの，日本看護協会出版会 3. F. ナイチンゲール著，小玉香津子・尾田葉子訳：看護覚え書-本当の看護とそうでない看護，日本看護協会出版会								
履 修 上 の 注 意	初めて聞く言葉や分からない言葉、専門用語がたくさん出てくると思います。上記教科書だけでなく辞書や用語辞典、ウェブサイトでの検索なども活用してください。 この授業科目は、①急性期看護学実習、②慢性看護学実習、③老年看護学実習、④精神看護学実習、⑤母性看護学実習、⑥小児看護学実習Ⅱ、⑦訪問看護実習、⑧地域包括支援実習、⑨周産期生活支援実習においてあらかじめ修得しておかなければならない科目に指定されています。								
学 生 へ の メ ッ セ ー ジ	看護学を学ぶ最初の授業です。看護のみならず人間や社会への興味・関心をもって、授業に臨んでください。また、疑問をもち考える、調べる、議論する姿勢を身につけましょう。								
e-mail・研究室 (連 絡 先)	沼澤さとみ：研究室 11 snumazawa@yachts.ac.jp								

授 業 科 目 名		学科 (科目区分)	担 当 教 員 職・氏名	必修・選 択の別	学年	開講時期	単位 数	先修条件 指定科目	科目等 履修生
基礎看護技術論Ⅰ (生活の援助技術)		看護学科 (専門科目)	准教授・南雲美代子 准教授・半田 直子 助 教・齋藤 愛依 講 師・高橋 直美	必修	1	後期	3	非該当	否
授業概要	看護を実践するための看護技術を教授する。看護技術の概念および構成要素、基本となるバイタルサインの測定、感染防止等の基本技術と日常生活の援助技術を教授する。								
一般目標	すべての看護技術の基本となる技術と日常生活援助技術に必要な基礎知識を理解し、学生同士で実施できる。学生同士で看護師および患者役割体験をしながら、対象への配慮や状況判断、安全・安楽の視点が理解できる。								
到達目標	1. 各看護技術の目的、意義が説明できる。 2. 各看護技術の根拠、原理原則、実施手順や留意事項を具体的に説明できる。 3. 各看護技術を安全、安楽、自立性、個別性を配慮し学生同士で実施できる。 4. 学生同士で看護師および患者役割を体験して気づいたことを配慮、工夫しながら実施できる。								
成績評価方針 評 価 方 法 および基準	・記録物の内容及び提出状況・授業態度等 20%、看護技術チェック 20%、定期試験（筆記）60%を総合して評価します。								
授業計画									
回	日付	授業項目・学習課題	学習内容・学習方法・授業外学習など					担当	
1	5. 9. 27 (水) 5	授業ガイダンス（授業スケジュール、学習方法について）	[講義] 場所：講義室 授業概要、スケジュール、看護技術の学習方法（服装・態度も含む）等について実習室ガイド等を用いて実施。					南雲 齋藤	
2	5. 9. 29 (金) 3	実習室オリエンテーション	[演習] ユニフォームを着用し、基礎看護学実習室内の備品やリネン等を取り扱いながら、収納場所や使用方法を理解する。					齋藤 南雲	
3	5. 9. 29 (金) 4	看護における技術とは①/ 感染防止の技術Ⅰ①	【看護における技術とは①】教員：南雲 [演習] 場所：基礎実習室 看護ケアにおけるコミュニケーション キネステティクス：インタラクション					南雲 齋藤	
4	5. 9. 29 (金) 5	看護における技術とは①/ 感染防止の技術Ⅰ①	【感染防止の技術Ⅰ①】教員：齋藤 [講義] 場所：講義室 感染成立過程と感染経路、標準予防策、手指衛生の方法 ＊学生を半数ずつに分けて、授業を行う						
5	5. 10. 4 (水) 5	ボディメカニクス・ベッド メイキング①	[講義・演習] 看護職にとってのボディメカニクスの必要性和意義について、ベッドメイキングという作業を通して、良いボディメカニクスを活用した場合と活用しない場合を比較しながら、身体的負荷について考える。 ベッドメイキングの目的、実施。 [DVD 視聴]ベッドメイキング					南雲 齋藤	
6	5. 10. 5 (木) 5	看護における技術とは ②	[講義] 場所：講義室 看護技術とは何か、看護技術の特徴、構成要素（安全、安楽、自立性、個別性）					南雲	
7	5. 10. 6 (金) 3	感染防止の技術Ⅰ ②	[演習] 手指衛生（石けん手洗い、手指消毒）と個人防護具の着脱					齋藤 南雲 半田 高橋	
8	5. 10. 6 (金) 4	体位・体位変換 ①	[講義][演習] 体位とは何か、体位変換の必要性および目的。 各体位では身体の各部分の重さがどのような位置関係にあるのか、体位変換をするときには、その重さをどのように移動したらよいのかを体験学習する。 体圧分布測定器を活用し、体位の違いを確認する。					南雲 齋藤	

9	5.10.11 (水) 5	ボディメカニクス・ ベッドメイキング ②	[事前学習]ベッドメイキングを一回実施 [演習]ベッドメイキングの実際 ・教員の指導のもと実施する *技術を学習する方法も学ぶ	南雲 半田 高橋 齋藤
10	5.10.13 (金) 3	体位・体位変換 ②	[演習] ベッド上で横への水平移動、頭側方向への移動、仰臥位から側臥位への体位変換等について、ボディメカニクス活用、スライディングシート活用、キネステティクス概念を活用した方法を比較しながら学習する。また、身体の機能と構造を考慮しながら、安楽な仰臥位、側臥位、ベッド上座位のポジショニングを実施する。	南雲 半田 高橋 齋藤
11	5.10.13 (金) 4	〃 ③		
12	5.10.18 (水) 5	車いす・ストレッチャーでの移動の援助 ①	[講義] 移動の意義、援助の目的、援助方法。車いす、ストレッチャーの点検および使用方法 [デモンストレーション] 車いす、ストレッチャーの点検・使用方法	南雲 齋藤
13	5.10.20 (金) 3	車いす・ストレッチャーでの移動の援助 ②	[演習] 車いすの移乗・移送、ストレッチャーの移乗と移送を2～3人一組で看護師・患者役割を交代しながら実施	南雲 半田 高橋 齋藤
14	5.10.20 (金) 4	〃 ③		
15	5.10.25 (水) 5	ボディメカニクス・ ベッドメイキング③	[演習]ベッドメイキングチェック 作業姿勢・作業域、ベッドメイキング方法、仕上がり状況等をチェックする。	南雲 半田 高橋 齋藤
16	5.10.27 (金) 3	褥法 ①	[講義]褥法の目的・効果・適応・禁忌、観察・アセスメント、褥法（温枕・氷枕）の作成方法	半田
17	5.10.27 (金) 4	〃 ②	[演習] 褥法（温枕・氷枕）作製して実施する。	
18	5.11. 1 (水) 5	環境を整える技術 ①	[講義] 病床環境整備の意義、患者を取り巻く生活環境の構成因子と看護師が行わなければならない病床環境整備	南雲
19	5.11. 8 (水) 5	環境を整える技術②/衣生活の援助①	【環境を整える技術②】教員：南雲 [演習1]病床環境の観察・整備 基礎看護学実習室 患者の病床環境を観察し、必要な援助を考える。 [演習2]病床環境の測定 基礎看護学実習室 病床を設定し、学生自身が患者となり、室内・寝床気候、騒音、採光・照明等の測定しながら環境整備について考える。 【衣生活の援助①】教員：齋藤 [講義] 場所：講義室 病床での衣生活の援助の基礎知識。リネン交換・寝衣交換の方法。 [DVD 視聴] 臥床している患者のリネン交換 *学生を半数ずつに分けて、授業を行う	南雲 齋藤
20	5.11.10 (金) 3	バイタルサインの測定 ①	[講義] バイタルサイン（体温、脈拍、血圧、呼吸）とは 血圧計・聴診器・体温計の使用方法、観察・アセスメント、バイタルサインの測定技術の実際	半田 齋藤
21	5.11.10 (金) 4	〃 ②		

22	5.11.15 (水) 5	環境を整える技術②/衣生活の援助①	【環境を整える技術②】教員：南雲 [演習1] 病床環境の観察・整備 基礎看護学実習室 患者の病床環境を観察し、必要な援助を考える。 [演習2] 病床環境の測定 基礎看護学実習室 病床を設定し、学生自身が患者となり、室内・寝床気候、騒音、採光・照明等の測定しながら環境整備について考える。 【衣生活の援助①】教員：齋藤 [講義] 場所：講義室 病床での衣生活の援助の基礎知識。リネン交換・寝衣交換の方法。 [DVD 視聴] 臥床している患者のリネン交換 ＊学生を半数ずつに分けて、授業を行う	南雲 齋藤
23	5.11.17 (金) 3	バイタルサインの測定 ③	[演習] バイタルサインの測定の基本を理解し、バイタルサインの測定を実施する。	半田 齋藤 高橋 南雲
24	5.11.17 (金) 4	〃 ④		
25	5.11.22 (水) 5	清潔の援助 ①	[講義] 清潔の目的・効果、清潔に関する観察、援助方法	齋藤
26	5.12. 1 (金) 3	衣生活の援助 ②	[事前学習] リネン交換・寝衣交換の手順書を作成 [演習] リネン交換・寝衣交換を実施	齋藤 南雲 半田 高橋
27	5.12. 1 (金) 4	〃 ③		
28	5.12. 6 (水) 5	環境を整える技術 ③	[事前学習] 基礎看護学実習Ⅰを通して、病床環境について自分の考えを記録してくる。 [ワークショップ] 5～6 人グループ 自分の記録をもとに、グループでよりよい病床環境を考える。	南雲 齋藤
29	5.12. 8 (金) 3	清潔の援助 ②	[体験学習] 清潔の援助に関する体験、手浴の体験を実施する。 [DVD 視聴：足浴]	齋藤
30	5.12.15 (金) 3	清潔の援助 ③	[演習：足浴] 足浴の援助を実施する。 [DVD 視聴：洗髪]	齋藤 南雲 半田 高橋
31	5.12.15 (金) 4	〃 ④		
32	5.12.19 (火) 3	清潔の援助 ⑤	[演習：洗髪] 洗髪車、ケリーパッドを使って洗髪の援助を実施する。	齋藤 南雲 半田 高橋
33	5.12.19 (火) 4	〃 ⑥		
34	5.12.22 (金) 3	清潔の援助 ⑦	[DVD 視聴：清拭] [演習：清拭] 清拭の援助を実施する。 [まとめ] 清潔の援助について	齋藤 南雲 半田 高橋
35	5.12.22 (金) 4	〃 ⑧		
36	5.12.26 (火) 3	排泄の援助 ①	[講義] 排泄の目的と意義、排泄のアセスメント 排泄の援助における看護師の役割、排泄の援助の種類 実施ポイント（根拠にもとづいた） おむつの種類・コスト、選択基準 [DVD：便器を用いた排泄の援助・おむつ装着] [事前体験学習] おむつを装着して動いてみる 臥床で便器をあて腹圧がかかる体位を探す	南雲 齋藤

37	6. 1. 9 (火) 3	排泄の援助 ②	[演習] 臥床患者への便器を用いた排泄の援助 臥床患者のおむつ交換	南雲 齋藤 半田 高橋
38	6. 1. 9 (火) 4	〃 ③	[講義] 陰部洗浄とは 実施ポイント [DVD:陰部洗浄]	
39	6. 1.16 (火) 3	排泄の援助 ④	[演習] 臥床患者への陰部洗浄(便器を用いる方法とおむつを使用する方法)	南雲 齋藤 半田 高橋
40	6. 1.16 (火) 4	〃 ⑤	[講義] まとめ:排泄の援助における看護師の役割とは	
41	6. 1.19 (金) 3	食事の援助・口腔ケア ①	[講義] 食事の目的、栄養、咀嚼と嚥下に関する基礎知識、観察・アセスメント、安全に食事するための体位と角度	半田
42	6. 1.19 (金) 4	〃 ②	[講義] 口腔機能と口腔ケアの意義・目的、観察、口腔を清潔にする方法、口腔ケアの物品 [体験学習]安全に食事摂取するための体位と頸部角度を実際に水分や固形物を嚥下して確認する。	
43	6. 1.23 (火) 3	食事の援助・口腔ケア ③	[演習] 食事の援助・口腔ケアの援助を実施する。	半田 齋藤
44	6. 1.23 (火) 4	〃 ④		
45	6. 1.26 (金) 3	まとめ	[事前課題] 授業で記載した自分の記録を読んで「患者の視点」「看護師の視点」で日常生活援助技術を再考する。また、授業当初と現在の自分の学習姿勢、看護観を振り返る。 [ディスカッション] 事前課題をテーマにワールドカフェ方式で行う。	南雲 齋藤
教科書 参考文献		教科書 茂野香おる著者代表:系統看護学講座 基礎看護技術Ⅰ, 医学書院, 2023. 任和子著者代表:系統看護学講座 基礎看護技術Ⅱ, 医学書院, 2023.		
履修上の注意		看護技術の習得が、段階的に積み上げられるようにプログラムしています。 また、毎回、学習する技術が異なりますので体調を整えて出席してください。 この授業科目は、①急性期看護学実習、②慢性看護学実習、③老年看護学実習、④精神看護学実習、⑤母性看護学実習、⑥小児看護学実習Ⅱ、⑦訪問看護実習、⑧地域包括支援実習、⑨周産期生活支援実習においてあらかじめ修得しておかなければならない科目に指定されています。		
学生へのメッセージ		技術を修得するためには、主体的に参加すること、創造的に考えながら学習すること、そして、自己学習が必須となります。今までの学習方法とは異なり、はじめは戸惑うかもしれませんが、誠実に主体的に取り組むことによって看護技術のおもしろさを実感できると思います。		
e-mail・研究室(連絡先)		南雲:研究室12 mnagumo@yachts.ac.jp 半田:研究室3 nhanda@yachts.ac.jp 高橋:研究室21 ntakahashi@yachts.ac.jp 齋藤:第2共同研究室 asaito@yachts.ac.jp		

授 業 科 目 名		学 科 (科目区分)	担 当 教 員 職・氏名	必修・選 択の別	学年	開講 時期	単位 数	先修条件 指定科目	科目等 履修生
基礎看護技術論Ⅱ (診療の援助技術)		看護学科 (専門科目)	講 師・高橋 直美 准教授・半田 直子 助 教・齋藤 愛依 准教授・南雲美代子	必修	2	前期	2	非該当	否
授業概要	療養している対象への治療や検査に伴う基礎的な看護技術である与薬の技術、創傷管理技術、検査に伴う援助技術、呼吸を整える技術、排泄援助技術等を学習する。								
一般目標	治療や検査に伴う看護技術の実施に必要な基礎的知識を理解し、根拠と原理に基づき対象の安全と安楽に配慮して、学生同士またはモデルに各看護技術が実施できる。								
到達目標	1. 各看護技術の目的や意義を説明できる 2. 各看護技術の根拠、原理原則、実施手順や留意点を説明できる 3. 各看護技術を説明し同意を得たうえで、学生またはモデルに実施できる 4. 各看護技術を安全や事故防止に配慮し、学生またはモデルに実施できる 5. 各看護技術を安楽に配慮し、学生またはモデルに実施できる								
成績評価方針 評 価 方 法 および基準	・各単元毎の課題提出状況および記載内容 40％ ・定期試験 60％								
授業計画									
回	日付	授業項目・学習課題	学習内容・学習方法				授業外学習 など	担当	
1	5. 4. 13 (木) 1	授業ガイダンス					授業項目毎に 指示します。	高橋 齋藤	
2	5. 4. 13 (木) 2	看護技術と医療安全	[講義] ・医療安全を学習する重要性 ・看護技術における事故防止の考え方					南雲	
3	5. 4. 20 (木) 4 5. 4. 20 (木) 5	感染防止の技術Ⅱ ①②③④ ー滅菌物の取り扱い・無菌操作ー	[講義] 滅菌・消毒・洗浄の基礎知識と対策、無菌操作の基礎知識と実際 [演習] 滅菌手袋の着脱、滅菌物の取扱いと無菌操作					齋藤 高橋 半田 南雲	
4									
5	5. 4. 27 (木) 4 5. 4. 27 (木) 5		[演習] 創傷処置における無菌操作（滅菌ガーゼ・消毒綿球の受け渡し）					齋藤 高橋 半田 南雲	
6									
7	5. 5. 11 (木) 4 5. 5. 11 (木) 5	創傷管理技術①②	[講義] 創傷とその治癒過程、創傷処置の基礎知識、創洗浄と創保護 [演習] テープの貼り方・剥がし方、創洗浄 包帯法（巻軸帯の巻き方・三角巾を用いた包帯法）の実施					半田	
8								半田 齋藤 高橋	
9	5. 5. 18 (木) 4 5. 5. 18 (木) 5	呼吸を整える技術 ー酸素療法・吸引ー ①②	[講義] 酸素療法の目的・効果、観察、酸素吸入の種類と実施方法 [講義] 吸引の目的・効果、適応、観察、実施方法					半田	
10									
11	5. 5. 25 (木) 4 5. 5. 25 (木) 5	呼吸を整える技術 ー酸素療法・吸引ー ③④	[演習] 中央配管による酸素吸入の準備、酸素ボンベの取り扱いの実施 [演習] シミュレータ人形を使用した気管内吸引・口腔・鼻腔吸引					半田 齋藤 高橋 南雲	
12									
13	5. 6. 1 (木) 4 5. 6. 1 (木) 5	与薬の技術①② ー注射・持続点滴ー	[講義] 薬剤の基礎知識、与薬の技術における看護師の役割（経口・吸入・点眼・点鼻・経皮的・直腸内与薬・注射）、注射の基礎知識 [演習] 学生同士での注射部位の選定					高橋	
14								高橋 半田 齋藤 南雲	

15	5. 6. 8 (木) 4 5. 6. 8 (木) 5	与薬の技術③④ －注射－	[演習] 学生が看護師役・患者役となり、筋肉内注射を実施する（モデル使用）。	高橋 半田 齋藤 南雲	
16					
17	5. 6. 15 (木) 4 5. 6. 15 (木) 5	与薬の技術⑤ －注射・持続点滴－	[講義] 点滴静脈内注射の基礎知識 [演習] 点滴静脈内注射の準備、滴下速度の調整		高橋 半田 齋藤 南雲
18		与薬の技術⑥ －輸血－	[講義] 輸血の基礎知識		高橋
19	5. 6. 22 (木) 3 5. 6. 22 (木) 4	検査に伴う援助技術 ①② －検査・静脈血採血－	[講義] 検査時の看護、静脈血採血の方法 [演習] 採血針などの取り扱い、静脈の怒張の方法と走行の確認		高橋 齋藤
20					
21	5. 6. 29 (木) 3 5. 6. 29 (木) 4	検査に伴う援助技術 ③④ －静脈血採血－	[演習] 採血に用いる器具の取扱いと無菌操作、血液検体の取扱い、針刺し事故予防の方法、シミュレータを用いた採血練習		高橋 半田 齋藤 南雲
22					
23	5. 7. 6 (木) 4 5. 7. 6 (木) 5	検査に伴う援助技術 ⑤⑥ －静脈血採血－	[演習] 学生が看護師役・患者役となり、静脈血採血を実施する（モデル使用）。		高橋 半田 齋藤 南雲
24					
25	5. 7. 13 (木) 4 5. 7. 13 (木) 5	排泄援助技術①② －浣腸－	[講義] 排便困難に対する援助方法 [演習] 学生が看護師役・患者役となり、グリセリン浣腸を実施する（モデル使用）		齋藤 高橋 半田 南雲
26					
27	5. 7. 20 (木) 3 5. 7. 20 (木) 4	排泄援助技術①② －導尿－	[講義] 排尿障害に対する援助方法 [演習] 学生が看護師役・患者役となり、一時的導尿を実施する（モデル使用）		齋藤 高橋 半田 南雲
28					
29	5. 7. 27 (木) 3 5. 7. 27 (木) 4	看護技術まとめ	事例による技術演習		高橋 齋藤
30					
教科書		教科書：任和子他：系統看護学講座 基礎看護技術Ⅱ，医学書院。 参考図書：茂野香おる他：系統看護学講座 基礎看護技術Ⅰ，医学書院。			
履修上の注意		授業ごとに学習内容や方法、時間、服装等についての提示がありますので、注意してください。 また、実技演習のほとんどは学生同士で行います。欠席や遅刻をしないよう体調を整えてください。 この授業科目は、①急性期看護学実習、②慢性看護学実習、③老年看護学実習、④精神看護学実習、⑤母性看護学実習、⑥小児看護学実習Ⅱ、⑦訪問看護実習、⑧地域包括支援実習、⑨周産期生活支援実習においてあらかじめ修得しておかなければならない科目に指定されています。			
学生へのメッセージ		臨床で実践頻度の高い看護技術を取り上げています。安全かつ確実な実施に向けて常に根拠を考えながら学習しましょう。また、学生同士の他、モデルや視聴覚教材なども活用して繰り返し練習し、技術の習得を目指しましょう。			
e-mail・研究室（連絡先）		高橋：研究室 21 ntakahashi@yachts.ac.jp 半田：研究室 3 nhanda@yachts.ac.jp 齋藤：第 2 共同研究室 asaito@yachts.ac.jp 南雲：研究室 12 mnagumo@yachts.ac.jp			

授 業 科 目 名	学科 (科目区分)	担 当 教 員 職・氏名	必修・選 択の別	学年	開講時期	単位 数	先修条件 指定科目	科目等 履修生
看護倫理	看護学科 (専門科目)	教授・沼澤 さとみ	必修	1	後期	1	非該当	可
授業概要	倫理や看護倫理に関する概念、倫理原則など、看護倫理の基礎知識を学習する。また、看護実践の場で生じる倫理的課題の解決についてディスカッションなどを行う。これらの学習から自己の倫理的な思考をする力をつける。							
一般目標	1. 看護実践における倫理の重要性を理解する。 2. 看護倫理の基本的知識と関連する重要概念を理解する。 3. 看護実践における倫理的問題を解決するための考え方を理解する。							
到達目標	1. 看護倫理の基本的知識と関連する重要概念を説明できる。 2. 看護職が直面する倫理的問題及び解決するための考え方を説明できる。 3. 倫理的問題と看護実践における倫理の重要性についての自分の意見を述べることができる。							
成績評価方針 評価方法 および基準	・レポート・試験（70％）：知識の理解度、課題に対する知識と理解度、自分の考えを述べているかで判断する ・授業中のワーク・課題・参加状況（30％）：ディスカッションやワークの記録等で判断する（ミニッツペーパーも参考にする）。							
授業計画								
回	日付	授業項目・学習課題	学習内容・学習方法			授業外学習など		担当
1	5.11.16（木）2	倫理の基礎	倫理とは何か 看護倫理を学ぶ意義 生命倫理と看護倫理			各回の学習課題に応じて、以下の学習をする。		沼澤
2	5.12. 7（木）3	専門職の責任と看護倫理	看護職の倫理的責任 看護職の法的責任			・用語について自己学習する。		
3	5.12.14（木）2	倫理を理解するための重要概念	人権・患者の権利 アドボカシー			・課題に関する書籍や配付資料を読む。		
4	5.12.21（木）2	倫理を理解するための重要概念	倫理原則、倫理綱領			・課題に関してネット検索などをして収集した資料を読む。		
5	6. 1. 4（木）2	倫理を理解するための重要概念	パターンリズムとインフォームド コンセント			・実習体験や事例をもとに、授業でディスカッションやワークを行い、自分の考えをまとめる。		
6	6. 1.11（木）2	倫理を理解するための重要概念	守秘義務と個人情報・プライバシーの保護					
7	6. 1.18（木）2	看護実践で体験する倫理的問題を解決する方法	倫理的課題の事例検討					
8	6. 1.25（木）2	まとめ	知識の確認 自分の考えをまとめる					
教科書 参考図書	1.教科書：前期の看護学概論テキスト（志自岐康子他編：看護学概論，メディカ出版，2022）を使用 参考書：サラT. フライ他：看護実践の倫理第3版，日本看護協会，2010 日本看護倫理学会編：看護倫理ガイドライン その他、授業の中で適宜紹介します。また、図書館などで倫理に関する本を自分で探して読んでください。							
履修上の注意	この授業科目は、①急性期看護学実習、②慢性看護学実習、③老年看護学実習、④精神看護学実習、⑤母性看護学実習、⑥小児看護学実習Ⅱ、⑦訪問看護実習、⑧地域包括支援実習、⑨周産期生活支援実習においてあらかじめ修得しておかなければならない科目に指定されています。							
学生への メッセージ	倫理は知識として身につけることは必須であるが、そのうえで常に人間としてどうあるべきか考え続けるものだと思います。							
e-mail・研究室 (連絡先)	沼澤さとみ：研究室 11 snumazawa@yachts.ac.jp							

授 業 科 目 名		学 科 (科目区分)	担 当 教 員 職・氏名	必修・選 択の別	学年	開講 時期	単位 数	先修条件 指定科目	科目等 履修生
看護理論		看護学科 (専門科目)	教授・沼澤さとみ	必修	1	後期	1	非該当	否
授業概要		看護実践の基盤となる看護理論の意義を学習する。また、代表的な看護理論を取り上げ、理論の構成要素と主要概念などを学習する。							
一般目標		看護実践の基盤となる看護理論の意義を理解し、主要な看護理論の特徴について理解する。							
到達目標		1. 看護理論の意義について説明できる。 2. 主な看護理論の構成要素と看護の主要概念について説明できる。 3. 主な看護理論の実践への応用について事例をもとに記述できる。							
成績評価方針 評 価 方 法 および基準		テスト 60％（知識の理解度で判断する） 課題・授業中のワーク、レポート等 40％（自分の考えを論理的に述べているかで判断する。ミニッツペーパーも参考にします）							
授業計画									
回	日付	授業項目・学習課題	学習内容・学習方法			授業外学習など		担当	
1	5. 9. 28（木）2	ガイダンス 看護理論とは	看護理論の意義、理論の構成要素（前提、概念、命題）、理論の分類、理論の変遷と発達			各回の学習課題に応じて、以下の学習をする ・課題に関する書籍や配付資料を読む ・授業でディスカッションやワークを行い、自分の考えをまとめる。		沼澤	
2	5. 10. 5（木）2	主な看護理論と特徴①	ナイチンゲール ヘンダーソン					沼澤	
3	5. 10. 12（木）2	主な看護理論と特徴②	トラベルビー					沼澤	
4	5. 10. 19（木）2	主な看護理論と特徴③	ロイ					沼澤	
5	5. 10. 26（木）2	主な看護理論と特徴④	オレム					沼澤	
6	5. 11. 2（木）2	主な看護理論と特徴⑤	レイニンガー					沼澤	
7	5. 11. 9（木）2	主な看護理論と特徴⑥	ケアリング ワトソン					沼澤	
8	5. 12. 7（木）2	まとめ	知識の確認 理論をもとに、看護についての自分の考えを述べる					沼澤	
教科書 参 考 図 書		教科書：なし（授業内容をよく理解するために以下の参考図書を活用するか、各理論の単行本を読んでください。） 参考図書（1と2は看護学概論で使用した図書です） 1. V. ヘンダーソン著，湯楨ます・小玉香津子訳：看護の基本となるもの，日本看護協会出版会 2. F. ナイチンゲール著，小玉香津子・尾田葉子訳：看護覚え書-本当の看護とそうでない看護-，日本看護協会出版会 3. 志自岐康子他編：看護学概論，メディカ出版，2022（前期の看護学概論テキスト） 4. ミルトン・メイヤロフ著，田村真，向野宣之訳：ケアの本質 生きることの意味，ゆみる出版 5. 筒井真優美編：看護理論家の業績と理論評価 第2版，医学書院 6. 筒井真優美編：看護理論 看護理論 21 の理解と実践への応用改訂第3版，南江堂							
履 修 上 の 注 意		この授業科目は、①急性期看護学実習、②慢性看護学実習、③老年看護学実習、④精神看護学実習、⑤母性看護学実習、⑥小児看護学実習Ⅱ、⑦訪問看護実習、⑧地域包括支援実習、⑨周産期生活支援実習においてあらかじめ修得しておかなければならない科目に指定されています。							
学 生 へ の メ ッ セ ー ジ		看護理論は、看護とは何かを考える基盤になります。また、サイエンスとして看護を実践するときに理論を活用することができます。難しく考えずに学んで、皆さんが考える看護と理論家が考える看護の共通点をみつけましょう。							
e-mail・研究室 （ 連 絡 先 ）		沼澤さとみ：研究室 11 snumazawa@yachts.ac.jp							

授 業 科 目 名	学科 (科目区分)	担 当 教 員 職・氏名	必修・選 択の別	学年	開講時期	単位 数	先修条件 指定科目	科目等 履修生
看護過程論	看護学科 (専門科目)	講 師・高橋 直美 准教授・南雲美代子 准教授・半田 直子 助 教・齋藤 愛依	必修	2	前期	1	非該当	否
授業概要	看護実践を科学的に行うための問題解決過程を基盤に看護過程を学習する。看護の対象者を全人的に理解し（アセスメント）、健康上の問題を明らかにした上で（看護診断）適切な看護実践につなげていく為の計画の立案（看護計画立案）、実施、評価までの看護過程の各段階を個人およびグループメンバーと学びを深めながら習得する。							
一般目標	1. 看護過程の概要と意義を理解する。 2. 看護過程の各段階の意味と考え方を理解する。 3. 事例をもとに看護過程の各段階における思考過程を理解する。							
到達目標	1. 看護実践における看護過程の意義が理解できる。 2. 問題解決過程およびクリティカルシンキングが理解できる。 3. 看護過程の構成要素が説明できる。 4. 科学的思考を意識し、看護過程の各段階の学習に取り組むことができる。 1) 情報を収集し整理することができる。 2) 情報を基に関連図を示すことで思考過程を可視化することができる。 3) 情報の解釈・分析、関連図を基に看護問題を明確化（看護診断）することができる。 4) 看護診断に優先順位をつけ、その根拠を考察することができる。 5) 看護診断に対する目標（期待される成果）を挙げ、看護計画を立案しその根拠を示すことができる。 6) 看護計画の評価の視点を理解することができる。							
成績評価方針 評 価 方 法 および基準	評価方針: 定期試験、看護過程の各段階における記録物（個人ワークおよびグループワーク）から評価する。 評価方法: 定期試験、記録物、個人ワークおよびグループワークに取り組む姿勢等から総合的に評価する。							
授業計画								
回	日付	授業項目・学習課題	学習内容・学習方法			課題学習など	担当	
1	5. 4. 12 (水) 3	授業ガイダンス 看護過程の概要①	・看護過程の基盤となる考え方 ・看護過程の構成要素 ・アセスメントの枠組み			・既習講義で 得た知識を復 習し事例患者 が抱える疾病 の病態・治療・ 検査・症状等 に関する予習 をして授業に 臨むこと ・課題は授業 毎に随時指示 する	高橋 南雲 半田 齋藤	
2	5. 4. 19 (水) 3	看護過程の概要②						
3	5. 4. 26 (水) 3	事例による看護過程①	・事例で学ぶ看護過程の各段階 情報の整理-解釈分析-関連図 -全体像-看護問題-看護目標 -看護計画					
4	5. 5. 10 (水) 3	事例による看護過程②						
5	5. 5. 17 (水) 3	事例による看護過程③						
6	5. 5. 24 (水) 3	事例による看護過程④						
7	5. 5. 31 (水) 3	事例による看護過程の展開①	・事例で学ぶ看護過程の展開 情報の整理-解釈分析-関連図 -全体像-看護問題-看護目標 -看護計画-実施評価					
8	5. 6. 7 (水) 3	事例による看護過程の展開②						
9	5. 6. 14 (水) 3	事例による看護過程の展開③						
10	5. 6. 21 (水) 3	事例による看護過程の展開④						
11	5. 6. 28 (水) 3	事例による看護過程の展開⑤						
12	5. 7. 5 (水) 3	事例による看護過程の展開⑥						
13	5. 7. 12 (水) 3	事例による看護過程の展開⑦						
14	5. 7. 19 (水) 3	事例による看護過程の展開⑧						
15	5. 7. 27 (木) 2	事例による看護過程の展開⑨ まとめ						
教 科 書 参 考 図 書	＊教科書・阿部俊子他監修：病態関連図が書ける観察アセスメントガイド, 照林社。 ・茂野香おる他著：系統看護学講座基礎看護技術Ⅰ, 医学書院。(基礎看護方法論Ⅰで使用) ＊参考図書・永田明, 石川ふみよ監修：看護が見える vol.4 看護過程の展開, メディックメディア ・NANDA-I 看護診断 定義と分類 2021-2023, 医学書院。 その他、随時紹介します。							
履 修 上 の 注 意	講義と演習（個人およびグループワーク）を併用しますので、欠席はしないでください。 この授業科目は、①急性期看護学実習、②慢性看護学実習、③老年看護学実習、④精神看護学実習、⑤母性看護学実習、⑥小児看護学実習Ⅱ、⑦訪問看護実習、⑧地域包括支援実習、⑨周産期生活支援実習においてあらかじめ修得しておかなければならない科目に指定されています。							
学生へのメッセージ	看護学概論・理論・基礎看護技術論等の他、生体形態学・組織学・機能学・防御学、疾病科学、薬理学、疾病論等で得た知識および技術を基盤として学習してください。							
e-mail・研究室 (連 絡 先)	高橋：研究室 21 ntakahashi@yachts.ac.jp 南雲：研究室 12 mnagumo@yachts.ac.jp 半田：研究室 3 nhanda@yachts.ac.jp 齋藤：第2共同研究室 asaito@yachts.ac.jp							

授 業 科 目 名		学科 (科目区分)	担 当 教 員 職・氏名	必修・選 択の別	学年	開講時期	単位 数	先修条件 指定科目	科目等 履修生
看護人間関係論		看護学科 (専門科目)	准教授・南雲 美代子	必修	1	前期	1	非該当	可
授業概要	人間関係構築のために必要な知識やコミュニケーションスキル、基本となる要素について演習を交えて教授する。これにより共感的態度や人間の尊厳について理解できるようにする。さらに、学生が自己洞察することの重要性について考えられるように教授する。								
一般目標	看護の対象者に看護を提供するために必要な人間関係の基本となる要素を理解する。 演習を通して、自己のコミュニケーションについて考察する。								
到達目標	1. コミュニケーションの特徴と、医療におけるコミュニケーションの重要性が説明できる。 2. コミュニケーションの構成要素と成立過程を理解し、ミスコミュニケーションを避け、適切なメッセージを伝える方法が説明できる。 3. 自己のコミュニケーションをリフレクションし、記述することができる。 4. コミュニケーションの基本的な方法を活用し、学生同士で実践できる。 5. 人間関係を構築するためのコミュニケーションとは何かを記述することができる。								
成績評価方針 評 価 方 法 および基準	・定期試験50%、記録物の提出状況・内容と授業態度30%、課題レポート20%を総合して評価します。								
授業計画									
回	日付	授業項目・学習課題	学習内容・学習方法				授業外学習など	担当	
1	5. 5. 26 (金) 3	授業ガイダンス コミュニケーションの 意義と目的	【講義】 ・授業の位置づけ ・コミュニケーションとは ・看護・医療におけるコミュニケーション				・授業中に コミュニケーシ ョンの【ミニ体 験】を実施します	南雲	
2	5. 6. 2 (金) 3	コミュニケーションの 構成要素と成立過程	【講義】 ・コミュニケーションの手段 ・構成要素と成立過程 ・リフレクション プロセスレコード（日常生活場面） DVD：コミュニケーションの基本要素						
3	5. 6. 23 (金) 3	関係構築のためのコミ ュニケーションの基本	【講義】 ・接近的コミュニケーションの原理 ・接近的行動の前提となる基本的な態度 ・接近的行動と非接近的行動 ・DVD：効果的なコミュニケーションスキルⅠ						
4	5. 6. 30 (金) 3	効果的なコミュニケー ションの実践	【講義】 ・傾聴の技術 ・情報収集の技術 ・説明の技術 ・アサーティブネス ・DVD：効果的なコミュニケーションスキルⅡ						
5	5. 7. 7 (金) 3	医療面接場面における コミュニケーション	【演習】基礎看護学実習室 ・学生同士のロールプレイによる医療面接						
6	5. 7. 14 (金) 3	コミュニケーション障 害への対応	【講義】 DVD: ケアに生かすコミュニケーション						
7	5. 7. 21 (金) 3	多様なコミュニケーシ ョン	【講義・ミニ演習】 看護ケアにおけるコミュニケーション タクティールケア・ユマニチュード・キネス テティクスの紹介						
8	5. 7. 25 (火) 3	まとめ	【講義・ディスカッション】						
教 科 書 参 考 図 書		【教科書】茂野香おる著者代表：系統看護学講座 基礎看護技術Ⅰ・Ⅱ，医学書院。 【参考図書】石川ひろの他；系統看護学講座 基礎分野 人間関係論，医学書院。							
履 修 上 の 注 意		演習を取り入れて授業を進めますので、欠席しないようにしてください。 この授業科目は、①急性期看護学実習、②慢性看護学実習、③老年看護学実習、④精神看護学実習、 ⑤母性看護学実習、⑥小児看護学実習Ⅱ、⑦訪問看護実習、⑧地域包括支援実習、⑨周産期生活支 援実習においてあらかじめ修得しておかなければならない科目に指定されています。							
学 生 へ の メ ッ セ ー ジ		看護は患者さんや家族との良好な人間関係の基盤のもとに成り立ちます。人間関係の始まりは、身 近な社会です。授業の始めは、皆さんの日常生活でのコミュニケーション場面を振り返り考えてい きます。							
e-mail・研究室 (連 絡 先)		南雲美代子：研究室 12 mnagumo@yachts.ac.jp							

授 業 科 目 名		学科 (科目区分)	担 当 教 員 職・氏名	必修・選 択の別	学年	開講 時期	単位 数	先修条件 指定科目	科目等 履修生
フィジカル アセスメント論		看護学科 (専門科目)	准教授・半田 直子 助 教・齋藤 愛依 講 師・高橋 直美	必修	2	前期	1	非該当	否
授業概要	対象者がよりよい生活を目指し、健康回復や健康維持・増進のために必要な身体的・心理社会的な健康状態のアセスメントができるよう基本的知識と技術を教授する。								
一般目標	さまざまな健康レベルにある対象者を身体的および心理社会的側面から情報収集し、ヘルスアセスメントに必要な基本的知識と技法を理解する。								
到達目標	1. フィジカルアセスメントの概念について説明できる。 2. 日常生活行動の視点から対象者の状態や状況を把握するためのヘルスインタビュー（問診）ができる。 3. 対象者の身体的面を把握するため基本となるフィジカルイグザミネーション（視診・触診・打診・聴診）の方法が説明できる。 4. 対象者の身体的面を把握するため基本となるフィジカルイグザミネーション（視診・触診・打診・聴診）が実施できる。 5. フィジカルアセスメントを活用して観察・情報収集し、記録ができる。 6. 情報からアセスメントして看護実践（ケア）につなげる過程がわかる。 7. 学生同士で実施する際、対象者に礼接した態度や配慮で対応できる。								
成績評価方針 評 価 方 法 および基準	定期試験 50％：到達目標が達成されたかどうかを判断します。 演習課題・レポート 50％：フィジカルアセスメントの知識の修得程度や、演習課題の記載内容から情報をもとにアセスメントして看護実践（ケア）を考えられているか。事前・事後学習のレポートを評価します。								
授業計画									
回	日付	授業項目・学習課題	学習内容・学習方法		授業外学習など		担当		
1	5. 5. 26 (金) 4 5. 5. 26 (金) 5	授業ガイダンス フィジカルアセスメントの概要	講義：フィジカルアセスメントの目的と意義、ヘルスインタビュー（問診）・フィジカルアセスメントの目的と基本技術（視診・触診・打診・聴診）、報告		・事前学習：「生体形態学」「生体機能学Ⅰ」「病理学」「成人老年疾病論Ⅰ・Ⅱ」の復習		半田		
2		バイタルサインの測定（2）	講義：バイタルサインのアセスメント・シミュレータ人形「フィジコ」の使用に関するオリエンテーション						
3	5. 6. 2 (金) 4 5. 6. 2 (金) 5	腹部のアセスメント	講義：腹部の形態と機能、アセスメント方法、アセスメント技術、DVD視聴 演習 ・シミュレータ人形を活用したヘルスアセスメント ・2～3人1組で実技を実施する		・事後学習：事前学習と講義や演習で学習したことをレポートにまとめる。		半田 齋藤		
4									
5	5. 6. 16 (金) 4 5. 6. 16 (金) 5	呼吸器系のアセスメント	講義：呼吸器系の形態と機能、アセスメント方法、アセスメント技術、DVD視聴 演習 ・シミュレータ人形を活用したヘルスアセスメント ・2～3人1組で実技を実施する				半田 齋藤		
6									
7	5. 6. 23 (金) 4 5. 6. 23 (金) 5	循環器系のアセスメント（1）	講義：循環器系の形態と機能、アセスメント方法、アセスメント技術、DVD視聴 演習 ・シミュレータ人形を活用したヘルスアセスメント ・2～3人1組で実技を実施する				半田 齋藤		
8									
9	5. 6. 30 (金) 4	循環器系のアセスメント（2）	講義：心電図 演習：シミュレータ人形を活用したヘルスアセスメント 心電図の測定/動脈の血流測定				半田 齋藤		

10	5. 7. 7 (金) 4	筋・骨格系のアセスメント	講義：ADL・歩行・関節可動域・筋力のアセスメント方法 演習：関節可動域・筋力の測定		高橋 齋藤
11	5. 7. 14 (金) 4	栄養のアセスメント	講義：栄養のアセスメント方法、アセスメント技術 演習：皮下脂肪厚の測定		半田
12	5. 7. 21 (金) 4	神経系のアセスメント 感覚器(眼・耳・鼻・口)のアセスメント	講義：神経系・感覚器の形態と機能、アセスメント方法、アセスメント技術 演習：振動覚・運動覚・瞳孔反射・腱反射等の観察 演習：問診2(まとめ)		齋藤 半田
13	5. 7. 21 (金) 5				
14	5. 7. 28 (金) 4	事例を用いたヘルスアセスメント・まとめ	アセスメントと看護技術統合演習		半田 齋藤
15	5. 7. 28 (金) 5				
教科書 参考図書		教科書：茂野香おる：系統看護学講座 基礎看護技術Ⅰ，医学書院, 2022. (基礎看護方法論Ⅰで利用したもの) 教科書以外に授業項目に関係する資料を配布			
履修上の注意		演習では学生同士で実技を行います。体調を調え欠席や遅刻にご注意ください。 講義室は基礎看護学実習室です。 この授業科目は、①急性期看護学実習、②慢性看護学実習、③老年看護学実習、④精神看護学実習、⑤母性看護学実習、⑥小児看護学実習Ⅱ、⑦訪問看護実習、⑧地域包括支援実習、⑨周産期生活支援実習においてあらかじめ修得しておかなければならない科目に指定されています。			
学生への メッセージ		ヒトが日常において生活し行動する「からだ」に興味を持ち学習しましょう。			
e-mail・研究室 (連絡先)		半田：研究室3 nhanda@yachts.ac.jp 齋藤：第2共同研究室 asaito@yachts.ac.jp 高橋：研究室21 ntakahashi@yachts.ac.jp			

授 業 科 目 名		学 科 (科目区分)	担 当 教 員 職・氏名	必修・選 択の別	学 年	開講時期	単位 数	先修条件 指定科目	科目等 履修生
家族看護学		看護学科 (専門科目)	助 教・齋藤 愛依	必修	1	後期	1	非該当	可
授業概要		家族看護における家族の概念と理論、健康問題を抱える家族のアセスメント、看護の援助方法を教授する。							
一般目標		1. 家族の概念および家族看護の概念や基礎知識を理解する。 2. 現代の家族の特徴、家族の形態や機能を理解する。 3. 家族を看護の対象としてとらえ、家族看護における看護者の役割を理解する。 4. 家族の発達段階における健康問題と家族への影響を学び、看護援助の方法について考察する。							
到達目標		1. 家族の概念および家族看護の概念を説明できる。 2. 家族の特徴や家族の発達段階が説明できる。 3. 家族看護における看護者の役割を説明できる。 4. 家族の発達段階に応じた健康問題と看護の必要性が説明できる。 5. 家族を支援する基本姿勢を説明できる。							
成績評価方針 評 価 方 法 および基準		課題レポート 30%、定期試験 40%、講義に関する課題の評価 30%とする。 レポートは、家族に関するテーマについて自分の考えを論述する。 定期試験は、講義で行った基本的な知識を問うものとする。							
授業計画									
回	日付	授業項目・学習課題	学習内容・学習方法			授業外学習 など	担当		
1	5. 9. 25 (月) 5	授業ガイダンス 家族看護学とは 家族の特徴、家族看護の対象	家族看護学の特徴と理念、家族の形態 と機能、家族構造、現代の家族の特徴、 家族の生活と健康、家族のセルフケア 機能				齋藤		
2	5. 10. 2 (月) 5	家族の「自明性」の相対化	家族について「当たり前」と思われて いることに距離をとり、家族の曖昧 性・社会的規定性を理解する。				(スポット) 安藤		
3	5. 10. 16 (月) 5	家族看護の諸理論 家族看護アセスメント	家族を理解するための理論 家族周期と発達課題、家族システム理 論、家族ストレス対処理論 家族の看護に必要な情報収集とアセス メント				齋藤		
4	5. 10. 23 (月) 5	家族看護の援助方法①	家族看護における看護者の役割、患 者・家族を援助する際の基本姿勢				齋藤		
5	5. 10. 30 (月) 5	事例から学ぶ家族看護①	患者と家族、医療職者とのかかわりの 場面を通じて、家族への看護を考える				齋藤		
6	5. 11. 6 (月) 5	事例から学ぶ家族看護②	患者と家族、医療職者とのかかわりの 場面を通じて、家族への看護を考える。				齋藤		
7	5. 11. 13 (月) 5	家族看護の援助方法②	かかわりの場面を通して考えたこと を、グループディスカッションする。				齋藤		
8	5. 11. 20 (月) 5	まとめ	家族看護学のまとめ				齋藤		
教 科 書 参 考 図 書		教科書：上別府圭子著 系統看護学講座 家族看護学, 医学書院							
履 修 上 の 注 意		家族について興味を持ち、積極的に参加してください。場所は基礎看護学実習室です。 この授業科目は、①急性期看護学実習、②慢性看護学実習、③老年看護学実習、④精神看護学実習、 ⑤母性看護学実習、⑥小児看護学実習Ⅱ、⑦訪問看護実習、⑧地域包括支援実習、⑨周産期生活支援 実習においてあらかじめ修得しておかなければならない科目に指定されています。							
学 生 へ の メ ッ セ ー ジ		患者だけでなく家族全体を視野に入れ、看護の対象としての「家族」について考えていきましょう。							
e-mail・研究室 (連 絡 先)		齋藤愛依：第2 共同研究室 asaito@yachts.ac.jp							

授 業 科 目 名		学科 (科目区分)	担 当 教 員 職・氏名	必修・選 択の別	学年	開講 時期	単位 数	先修条件 指定科目	科目等 履修生
基礎看護学実習Ⅰ		看護学科 (専門科目)	准教授・南雲美代子 教 授・沼澤さとみ 准教授・半田 直子 講 師・高橋 直美 助 教・齋藤 愛依	必修	1	後期	1	非該当	否
授業概要		3つの病院での実習を通して、病院の機能と役割、対象者の入院生活の状況と提供されている看護サービスの内容、他の医療従事者との連携について理解できるように指導する。また、看護学生として臨地で学習するための基本姿勢を身につけさせる。							
一般目標		〔実習目的〕 3つの病院での実習を通して、病院の機能と役割、対象者の入院生活の状況と提供されている看護サービスの内容、他の医療従事者との連携について理解できる。また、看護学生としての責任を自覚し行動することができる。							
到達目標		〔実習目標〕 1. 病院の機能と役割が理解できる。 2. 対象者の入院生活の状況と提供されている看護サービスの内容が理解できる。 3. 他の医療従事者との連携について理解できる。 4. 看護の対象者とコミュニケーションをとりながら、信頼関係を築くためのコミュニケーションについて考えることができる。 5. 看護学生としての責任を自覚し、行動できる。							
成績評価方針 評 価 方 法 および基準		評価は、実習状況（カンファレンス参加状況・実習態度も含む）、記録物（毎日の記録・レポートの提出の状況とその記載内容）等とし、具体的な評価項目は基礎看護学実習Ⅰの要項に示す。							
授業計画									
回	日付	授業項目・学習課題	学習内容・学習方法			授業外学習など		担当	
	5.11.24（金） ～ 5.11.30（木）	〔実習施設・見学場所〕 1. 初日 午前：学内実習 午後：山形県立中央病院 ・病院概要説明、電子カルテの説明、病院見学 2. 2日目～5日目は、①～③をローテーションする ①山形県立中央病院：2日間 ・一般病棟（8つの病棟） ②医療法人 篠田好生会 篠田総合病院：半日、大学：半日 ・回復期リハビリテーション病棟2ヶ所、脳外科・外科病棟（3つの病棟） ③医療法人 敬愛会 尾花沢病院：1日間 ・一般病棟、精神一般病棟2ヶ所、認知症治療病棟（4つの病棟） 〔実習期間〕2023年11月24日（金）、27日（月）～30日（木） ＊実習オリエンテーション：11月2日（木） 講義室 〔実習内容・方法〕 1. 病院の機能と役割についての説明を受け、病院内の見学を行う。 2. 病棟で看護援助場面を見学し、指導を受けながら一部実施する。 3. 対象者とコミュニケーションをとる。 4. 他の医療従事者の仕事を見学する（PT、OT、ST、介護職等）。 5. カンファレンスで学びを共有する。 6. 学習内容を毎日の記録およびレポートにまとめる。 事前レポート：病院の機能と役割、病院で働く専門職の業務内容							
教 科 書 参 考 図 書									
履修上の注意		この授業科目は、①急性期看護学実習、②慢性看護学実習、③老年看護学実習、④精神看護学実習、⑤母性看護学実習、⑥小児看護学実習Ⅱ、⑦訪問看護実習、⑧地域包括支援実習、⑨周産期生活支援実習においてあらかじめ修得しておかなければならない科目に指定されています。							
学 生 へ の メ ッ セ ー ジ		健康に十分留意して実習に臨んでください。 本科目は、教員と実習指導者（看護師等）の指導の下、病院において医療・看護の実践および多職種連携について学ぶ科目であり、高等教育の負担軽減制度の要件に定める「実務経験のある教員による科目」としてしています。							
e-mail・研究室 （連絡先）		南雲：研究室12 mnagumo@yachts.ac.jp 沼澤：研究室11 snumazawa@yachts.ac.jp 半田：研究室3 nhanda@yachts.ac.jp 高橋：研究室21 ntakahashi@yachts.ac.jp 齋藤：第2共同研究室 asaito@yachts.ac.jp							

授 業 科 目 名	学 科 (科目区分)	担 当 教 員 職・氏名	必修・選 択の別	学年	開講 時期	単位 数	先修条件 指定科目	科目等 履修生
基礎看護学実習Ⅱ	看護学科 (専門科目)	教 授・沼澤さとみ 准教授・南雲美代子 准教授・半田 直子 講 師・高橋 直美 助 教・齋藤 愛依	必修	2	後期	2	非該当	否
授業概要	学生各自が患者を受け持ち、指導者の助言や指導のもと、対象を全体的存在として理解し、必要なケアを考えて実施する。							
一般目標	看護の対象を身体的・心理社会的な存在として捉え、看護過程を展開・実践する。指導者の助言・指導のもと必要なケアを実施し、対象へのケア提供を通して看護実践の基本的能力を養う。また、コミュニケーション能力を身につけ、対象との援助的関係を成立させて発展させる努力をする。							
到達目標	(1) 基礎看護学で学習した知識を活用して、受け持ち患者の看護過程の基本的な展開方法を理解して実践できる。 (2) 看護過程の展開方法の基本を理解した上で、健康上の問題のある対象とその生活について、情報収集、アセスメントにより身体的・心理社会的な側面から全体像を捉え、対象の健康問題に対する反応を診断し、立案した計画によりケアを行い、評価する過程を実践する。 (3) 対象の意思を尊重し、的確な看護実践を行う基本的能力を習得する。 (4) 対象との援助的人間関係を成立させて発展させる努力をする。 (5) 看護の職業倫理に基づき、看護専門職を目指す者として責任ある行動がとれる。 (6) 看護活動の体験を通して看護についての考えを深めることができる。							
成績評価方針 評 価 方 法 および基準	4/5 以上の出席を条件とし、実習態度、実習内容、実習記録等について、実習評価表（実習要項掲載）に示した項目で評価する。							
授業計画								
回	日付	授業項目・学習課題	学習内容・学習方法				授業外学習など	担当
	5. 9. 1 (金) ～ 5. 9. 13 (水)		詳細は実習要項に記載 実習場所： ・山形県立中央病院(5 東・5 西・6 東・6 西・7 東・7 西・8 東・8 西・9 西病棟) ・篠田総合病院(2 病棟・3 病棟・7 病棟・8 病棟) ・山形済生病院（調整中） ※ いずれの病院も病棟は変更することあり 実習内容： ・病棟で行われている患者の看護を看護師とともに実践（シャドーイング）する ・受持ち患者について、指導者の助言・指導のもと、看護過程を展開・実践する ・カンファレンス					沼澤 南雲 半田 高橋 齋藤
教 科 書 参 考 図 書		教 科 書：なし 参考図書：看護診断・疾患・病態・検査・薬剤・看護等に関する必要な図書や医学用語辞典などは、自分で探して持参してください。看護過程論、基礎看護技術論Ⅰ・Ⅱ、フィジカルアセスメント論、専門基礎科目で使用・紹介した図書や資料も活用してください。						
履 修 上 の 注 意		実習までに学習した科目の復習、看護技術の練習をして実習に臨んでください。 また、実習では、学内でまだ学習していない知識や技術を活用して実践することも多くありますので、自己学習が必須です。 この授業科目は、①急性期看護学実習、②慢性看護学実習、③老年看護学実習、④精神看護学実習、⑤母性看護学実習、⑥小児看護学実習Ⅱ、⑦訪問看護実習、⑧地域包括支援実習、⑨周産期生活支援実習においてあらかじめ修得しておかなければならない科目に指定されています。						
学 生 へ の メ ッ セ ー ジ		学内の授業では学ぶことができない貴重な学習の機会です。主体的かつ積極的に学習することを期待します。また、社会人としての態度と行動が求められます。健康に留意し、遅刻欠席のないようにしてください。 本科目は、教員と実習指導者（看護師等）の指導の下、病院での臨床において看護過程を展開する科目であり、高等教育の負担軽減制度の要件に定める「実務経験のある教員による科目」としています。						
e-mail・研究室 (連 絡 先)		沼澤：研究室 11 snumazawa@yachts.ac.jp 南雲：研究室 12 mnagumo@yachts.ac.jp 半田：研究室 3 nhanda@yachts.ac.jp 高橋：研究室 21 ntakahashi@yachts.ac.jp 齋藤：第 2 共同研究室 asaito@yachts.ac.jp						

授 業 科 目 名		学 科 (科目区分)	担 当 教 員 職・氏名	必修・選 択の別	学年	開講時期	単位 数	先修条件 指定科目	科目等 履修生
小児看護学概論		看護学科 (専門科目)	講 師・槌谷由美子	必修	2	前期	1	非該当	可
授業概要		小児看護の対象となる子どもや家族の特徴について、対象の成長・発達に影響を及ぼす要因について、また子どもの人権を尊重した小児看護の役割・機能について教授する。							
一般目標		・小児看護の対象と特徴を理解する。 ・子どもの成長発達について理解する。 ・子どもや家族をとりまく社会環境について理解する。 ・子どもに関する法律や政策について理解する。 ・子どもや家族が健康な生活をおくるために必要な援助方法を考察する。							
到達目標		①小児看護の対象と目的について述べることができる。 ②小児期の身体発育の特徴について説明できる。 ③小児看護領域で特に留意すべき子どもの権利について説明できる。 ④子どもの権利を尊重した看護について述べることができる。 ⑤小児期の生理機能、運動機能、心理・社会的機能の発達の特徴について説明できる。 ⑥小児期の日常生活行動（睡眠・食事・排泄・清潔・衣服の着脱・遊び等）の発達の特徴について説明できる。 ⑦子どもが育つ環境としての家族や社会の特徴について説明できる。 ⑧乳幼児の発達評価の目的や方法を説明できる。 ⑨子どもや家族をとりまく課題と看護の役割を考察できる。							
成績評価方針 評 価 方 法 および基準		・定期試験（80％）：上記に示した到達目標の①～⑦の達成度を評価する ・演習課題（10％）：到達目標の⑧の達成度を評価する ・レポート（10％）：課題に関する知識・考察が記載されているかを評価基準とし、到達目標⑦・⑨を評価する							
授業計画									
回	日付	授業項目・学習課題	学習内容・学習方法			授業外学習など		担当	
1	5. 4. 6（木）2	小児看護とは	小児看護の目的 小児看護の対象と特徴			授業で示す課題について自己学習を行う		槌谷	
2	5. 4. 20（木）2	小児看護における倫理	子どもの権利、インフォームドコンセント・インフォームドアセント、プレパレーション						
3	5. 4. 27（木）2	子どもの成長発達と看護 1	身体発育、生理機能の発達						
4	5. 5. 11（木）2	子どもの成長発達と看護 2	運動機能、心理・社会的機能の発達						
5	5. 5. 18（木）2	子どもの成長発達と看護 3	日常生活行動の発達と看護						
6	5. 5. 25（木）2	子どもの成長発達と看護 4	乳幼児の発育評価（演習）						
7	5. 6. 1（木）2	子どもの成長発達と看護 5	遊びと保育					外部講師	
8	5. 6. 8（木）2	子ども・家族と社会	子ども・家族を取り巻く社会環境 小児保健の動向					槌谷	
教 科 書 参 考 図 書		教 科 書：系統看護学講座 小児看護学概論 小児臨床看護総論 医学書院 参考図書：必要時講義の中で紹介する							
履 修 上 の 注 意		教科書および配布資料を必ず持参して、授業に臨みましょう。 この授業科目は、小児看護学実習Ⅰにおいてあらかじめ修得しておかなければならない科目に指定されています。							
学 生 へ の メ ッ セ ー ジ		身近な子どもの成長発達に注目し、子どもに関連するニュースに関心を持ちながら受講してください。							
e-mail・研究室 （ 連 絡 先 ）		槌谷由美子：研究室 29 ytsuchiya@yachts.ac.jp							

授 業 科 目 名		学 科 (科目区分)	担 当 教 員 職・氏名	必修・選 択の別	学年	開講時期	単位 数	先修条件 指定科目	科目等 履修生
小児看護方法論		看護学科 (専門科目)	講 師・樋谷由美子 助 教・貝野瀬友希	必修	3	前期	2	非該当	否
授業概要		健康障がい子どもや家族に及ぼす影響や、子どもや家族の健康レベルに応じた看護について教授する。子どもの発達段階や家族のニーズ、疾病や障がいの状態に合わせた看護方法を検討するために、演習を活用した授業方法を取り入れる。							
一般目標		・健康レベルに応じた子どもと家族に対する看護について理解する。 ・健康障がい子どもとその家族に及ぼす影響を理解する。 ・健康障がいをもつ子どもや家族に対する安全で安楽な看護方法を理解する。 ・健康障がいをもつ子どもの成長発達にあわせた看護方法を習得する。 ・小児看護の課題を探究する姿勢を身につける。							
到達目標		①子どもの成長発達に応じた看護について述べることができる。 ②健康障がい子どもとその家族に及ぼす影響と看護について説明できる。 ③疾病に伴う症状のアセスメントの視点と必要な看護ケアについて説明できる。 ④急性期・慢性期・終末期にある子どもとその家族の状況および必要な援助について説明できる。 ⑤検査や処置を受ける子どもとその家族の状況および必要な看護ケアについて説明できる。 ⑥フィジカル・アセスメントの方法や留意点について説明できる。 ⑦小児看護を実践するための自己の課題を述べることができる。 ⑧課題学習・演習に主体的に参加できる。 ⑨対象に合わせた基本的看護方法を説明することができる。 ⑩紙上患者の看護過程を展開することができる。							
成績評価方針 評 価 方 法 および基準		1. 定期試験（60％）：到達目標①～⑤の達成度を判断する 2. 演習後の提出物（40％） ・演習後提出課題（20％）⑥～⑨の達成度を判断する ・看護過程演習の記録一式（20％）：到達目標⑦～⑩の達成度を判断する							
授業計画									
回	日付	授業項目・学習課題	学習内容・学習方法			授業外学習など	担当		
1	5. 4. 14（金）1	子どもの成長発達と看護	小児看護方法論概要説明 子どもの成長発達（DVD 視聴）			小児看護学概論の復習をして臨む	樋谷		
2	5. 4. 14（金）2								
3	5. 4. 21（金）1	健康障がいをもつ子どもと家族への看護	健康障がい子どもと家族に及ぼす影響と看護				樋谷		
4	5. 4. 21（金）2	健康障がいの経過と看護	急性期にある子どもと家族の看護				樋谷		
5	5. 4. 28（金）1		慢性期にある子どもと家族の看護				樋谷		
6	5. 4. 28（金）2		終末期にある子どもと家族の看護				樋谷		
7	5. 5. 12（金）1	子どものフィジカル・アセスメント	アセスメントに必要な技術（講義）				樋谷		
8	5. 5. 12（金）2		アセスメントに必要な技術（演習）			演習記録提出	樋谷		
9	5. 5. 19（金）1	症状・行動の観察と看護	症状を示す子どもの看護①				樋谷		
10	5. 5. 19（金）2		症状を示す子どもの看護②				樋谷		
11	5. 5. 26（金）1		症状を示す子どもの看護③				樋谷		
12	5. 5. 26（金）2		症状を示す子どもの看護④				樋谷		
13	5. 6. 2（金）1	小児看護技術	検査や処置を受ける子どもと家族の看護ケア①（講義）				樋谷		

14	5. 6. 2 (金) 2	小児看護技術	検査や処置を受ける子どもと家族の看護ケア② (講義)		樋谷
15	5. 6. 16 (金) 1		検査や処置を受ける子どもと家族への看護ケア③ (演習)		樋谷 貝野瀬
16	5. 6. 16 (金) 2		検査や処置を受ける子どもと家族への看護ケア④ (演習)		
17	5. 6. 23 (金) 1	看護過程の展開	健康障がいをもつ子どもと家族への看護過程の展開 (説明・自己学習)		樋谷 貝野瀬
18	5. 6. 23 (金) 2		健康障がいをもつ子どもと家族への看護過程の展開 (グループワーク)		
19	5. 6. 30 (金) 1		健康障がいをもつ子どもと家族への看護過程の展開 (グループワーク)		
20	5. 6. 30 (金) 2		健康障がいをもつ子どもと家族への看護過程の展開 (グループワーク)		
21	5. 7. 7 (金) 1		健康障がいをもつ子どもと家族への看護過程の展開 (発表)		
22	5. 7. 7 (金) 2		健康障がいをもつ子どもと家族への看護過程の展開 (まとめ)		
23	5. 7. 14 (金) 2	まとめ	小児看護方法論まとめ 小児看護学実習について	看護過程 記録提出	樋谷
教科書 参考図書		教科書：系統看護学講座 小児看護学概論 小児臨床看護総論 医学書院 系統看護学講座 小児臨床看護各論 医学書院 参考図書：必要時講義の中で紹介する			
履修上の注意		小児疾病論や小児看護学概論をはじめ既履修科目の内容を確認しながら学んでください。 教科書を必ず持参して授業に臨みましょう。 この授業科目は、①成人急性期看護学実習、②成人慢性期看護学実習、③老年看護学実習Ⅱ、④精神看護学実習、⑤母性看護学実習、⑥小児看護学実習Ⅱ、⑦在宅訪問看護実習、⑧在宅看護連携実習、⑨妊娠期助産実習においてあらかじめ修得しておかなければならない科目に指定されています。			
学生へのメッセージ		学習過程を通して主体的にものごとに取り組む姿勢を身につけましょう。子どものよりよい成長発達をめざした看護実践とは何かを考える、柔軟で豊かな創造力を期待しています。			
e-mail・研究室 (連絡先)		樋谷：研究室 29 ytsuchiya@yachts.ac.jp 貝野瀬：第2共同研究室 ykainose@yachts.ac.jp			

授 業 科 目 名		学 科 (科目区分)	担 当 教 員 職・氏名	必修・選 択の別	学年	開講時期	単位 数	先修条件 指定科目	科目等 履修生
小児看護学実習Ⅰ		看護学科 (専門科目)	講師・槌谷由美子 助教・貝野瀬友希	必修	2	後期	1	該当	否
授業概要		健康な子どもの人的・社会的環境を踏まえた日常生活行動を理解し、成長発達の個別性を理解しながら、健康な子どもへの支援について実習を通じて教授する。							
一般目標		・幼児期にある子どもの身体的成長、情緒的・社会的発達状態を理解する。 ・幼児期にある子どもと個々の特徴を踏まえた人間関係を成立する。 ・健康な子どもの日常生活を理解する。 ・幼児保育の技術を理解する。 ・健康教育や保育環境、施設における危機管理について考察する。							
到達目標		認知領域 ・幼児の成長発達の特徴を具体的に記述できる。 ・幼児の反応（訴え・感情など）とその対応方法を記述できる。 ・幼児とのコミュニケーションのとり方や個別性にあった生活支援について列記できる。 ・科目の到達目標に照らし合わせて評価できる。 情意領域 ・学生個々に日々の目標を持つことができる。 ・幼児に与える影響を考慮し、責任ある行動をとることができる。 ・カンファレンスにおいて報告・情報の提供等の発言ができる。 精神運動的領域 ・幼児の発達段階や状況に応じた関わり方ができる。 ・幼児の日常生活（睡眠・食事・排泄・清潔・衣服）の援助に参加できる。 ・事故防止・感染予防等の安全の視点で幼児の環境を整えることができる。							
成績評価方針 評 価 方 法 および基準		実習態度と提出された記録物の内容から到達目標の達成度を総合的に判断して評価する。 ※実習指導者の評価を加味する。							
授業計画									
回	日付	授業項目・学習課題		学習内容・学習方法		授業外学習など		担当	
	5. 9. 14 (木) ～ 5. 9. 21 (木)	幼児の成長発達の理解 幼児の生活の実状の参観 幼児の日常生活援助の実践 幼児保育の体験		実習期間：一週間 実習場所：山形市内の幼稚園、保育園、 認定こども園 実習内容：小児看護学実習Ⅰの要項に 提示する		既習の知識・技術等 を復習しておくこ と		槌谷 貝野瀬	
教 科 書 参 考 図 書		必要なものを自分で探してください。							
履 修 上 の 注 意		子どもは、免疫系の発達が未熟で感染を起こしやすく、学生自身が感染の媒体とならないために、予防接種などの健康診断結果が必要になることも考えられます。また、子どもは種々の伝染性疾患に罹患していることも多く、学生が罹患する危険性もあります。感染に関する対策の必要性を自覚し、健康管理に留意して実習に臨んでください。 以下の科目を修得しておくこと ・小児看護学概論 この授業科目は①急性期看護学実習、②慢性看護学実習、③老年看護学実習、④精神看護学実習、⑤母性看護学実習、⑥小児看護学実習Ⅱ、⑦訪問看護実習、⑧地域包括支援実習、⑨周産期生活支援実習においてあらかじめ修得しておかなければならない科目に指定されています。							
学 生 へ の メ ッ セ ー ジ		子どもの表面的な言動や行動で判断するのではなく、子どもの体験している内面世界を感じ取れることを期待しています。子どもとのふれあいを十分に楽しんでください。 本科目は、教員と実習指導者（幼稚園教諭等）の指導の下、幼稚園において幼児教育の技術等について実習する科目であり、高等教育の負担軽減制度の要件に定める「実務経験のある教員による科目」としています。							
e-mail・研究室 (連 絡 先)		槌谷 ：研究室 29 ytsuchiya@yachts.ac.jp 貝野瀬：第2 共同研究室 ykainose@yachts.ac.jp							

授 業 科 目 名		学 科 (科目区分)	担 当 教 員 職・氏名	必修・選 択の別	学年	開講時期	単位 数	先修条件 指定科目	科目等 履修生
小児看護学実習Ⅱ		看護学科 (専門科目)	講 師・樋谷由美子 助 教・貝野瀬友希	必修	3	後期	1	該当	否
授業概要		健康問題をもつ子どもとその家族とのかかわりを通して、対象の身体的・心理的・社会的変化を理解し、対象のよりよい成長発達をめざした看護について実践を通じて教授する。							
一般目標		- 健康問題をもつ子どもと家族との人間関係を成立する。 - 健康問題をもつ子どもとその家族の身体的・心理的・社会的変化を理解する。 - 健康問題をもつ子どもやその家族に対する看護方法を判断する。 - 健康問題をもつ子どもやその家族に対する看護援助を実践し評価する。 - 看護チームや他職種および地域保健・福祉との連携を考察する。 - 看護者として社会的責務を果たすための自己の課題を考察する。							
到達目標		認知領域 - 健康問題が及ぼす子どもの身体的な変化について説明できる。 - 健康問題が子どもや家族に及ぼす心理的・社会的影響について説明できる。 - 看護上必要な情報を収集し、整理して記述することができる。 - 子どもの成長発達および健康上の看護問題を抽出できる。 - 子どもの成長発達を促し、健康生活を目指した看護目標を設定できる。 - 子どもの成長発達や状況に応じた具体的な援助方法を示すことができる。 - 実施したケアについて評価することができる。 - 看護職チームの一員として目標や計画を共有する方法を記述することができる。 - 他職種・他機関と看護職チームとの協力体制の必要性を記述することができる。 - 看護職者として社会的責務を果たすための自己の課題を示すことができる。 - 課題に対する看護の質向上に向けた改善策を示すことができる。 - 自己を振り返り到達目標に照らし合わせて評価することができる。 情意領域 - 健康管理に留意し主体的に実習に臨むことができる。 精神運動領域 - 子どもや家族との援助的な対人関係を築くことができる。 - ケアの実施時、子どもや家族に目的と方法を説明し同意を得ることができる。 - 子どもや家族の反応を確かめながら安全に看護を実践することができる。							
成績評価方針 評 価 方 法 および基準		目標達成度、学習内容、実習記録、実習態度により総合的に判断して評価する。							
授業計画									
回	日付		授業項目・学習課題	学習内容・学習方法			授業外学習など		担当
	5. 9. 19 (火) ～ 6. 2. 16 (金)		小児看護学実習Ⅱ 要項参照	実習期間：一週間 実習場所：山形県立中央病院 実習：小児看護学実習Ⅱの要項に提示する			既習の知識・技術等を復習しておくこと		樋谷 貝野瀬
教 科 書 参 考 図 書		必要なものを自分で探してください。							
履 修 上 の 注 意		子どもは種々の伝染性疾患に罹患していることも多く、学生が罹患する危険性もあります。感染に関する対策の必要性を自覚し、健康管理に留意して実習に臨んでください。 以下の科目を修得しておくこと 看護学概論、基礎看護方法論Ⅰ、基礎看護方法論Ⅱ、看護倫理、看護理論、看護過程論、看護人間関係論、ヘルスアセスメント論、家族看護学、基礎看護学実習Ⅰ、基礎看護学実習Ⅱ、成人看護学概論、成人急性期看護方法論Ⅰ、成人慢性期看護方法論Ⅰ、成人急性期看護方法論Ⅱ、成人慢性期看護方法論Ⅱ、老年看護方法論、老年看護学実習Ⅰ、精神看護学概論、精神看護方法論、母性看護学概論、母性看護方法論Ⅰ、母性看護方法論Ⅱ、小児看護方法論、小児看護学実習Ⅰ、在宅看護概論、在宅看護方法論Ⅰ、在宅看護方法論Ⅱ							
学 生 へ の メ ッ セ ー ジ		既習の学習を活用して主体的に学び、自己の課題を見出してください。 本科目は、教員と実習指導者（看護師等）による指導の下、病院（臨床）における小児看護について実習する科目であり、高等教育の負担軽減制度の要件に定める「実務経験のある教員による科目」としています。							
e-mail・研究室 (連 絡 先)		樋谷 : 研究室 29 ytsuchiya@yachts.ac.jp 貝野瀬 : 第2 共同研究室 ykainose@yachts.ac.jp							

授 業 科 目 名	学 科 (科目区分)	担 当 教 員 職・氏名	必修・選 択の別	学年	開講 時期	単位 数	先修条件 指定科目	科目等 履修生
母性看護学概論	看護学科 (専門科目)	教授・遠藤 恵子	必修	2	前期	1	非該当	可
授業概要	次世代の育成に関わる看護の特徴と、実践に必要な概念および理論を教授する。また対象の特徴や社会の変化を踏まえた母性看護の役割と課題について教授する。							
一般目標	1. 母性看護学の目的、対象を理解する。 2. 次世代を育成するための看護実践の基盤となる概念および理論を理解する。 3. 社会の変化を踏まえて母性看護学が果たす役割を理解する。							
到達目標	1. 母性看護の対象と目標を理解し、母性看護の目的を考察できる。 2. 母子保健に関する動向を理解し、母子と家族の健康を支えるために必要な法律および施策と看護のあり方を考察できる。 3. 母性看護の実践に必要な概念および理論を理解し、実践へ適用方法が考察できる。 4. 親役割獲得過程や家族の発達過程・機能を理解し、実践へ適用方法が考察できる。 5. 母性看護学における倫理的課題を理解し、看護の役割を考察できる。 6. 母性看護学領域における、目標達成への課題と看護の役割を考察できる							
成績評価方針 評 価 方 法 お よ び 基 準	到達目標の達成状況を、5回のレポートで評価する							
授業計画								
回	日付	授業項目・学習課題	学習内容・学習方法			授業外学習 など	担当	
1	5. 4. 19 (水) 4	母性看護学の目的、対象、目標	母性看護の目的 母性看護の対象と目標 (グループワーク)			レポート①	遠藤	
2	5. 4. 26 (水) 4	母子保健の動向	国内外の母子保健の動向と課題				遠藤	
3	5. 5. 10 (水) 4	母子の健康を支える法律や制度	母子保健法、母子保健に関連する法規				遠藤	
4	5. 5. 17 (水) 4	母子の健康を支える施策	母子保健体系、子育て支援 生涯を通じた女性の健康に関する施策			レポート②	遠藤	
5	5. 5. 24 (水) 4	母性看護の実践に必要な概念および理論①	ヘルスプロモーション、健康行動			レポート③	遠藤	
6	5. 5. 31 (水) 4	母性看護の実践に必要な概念および理論②	親役割獲得過程、母性、父性、母子相互作用、家族の発達			レポート④	遠藤	
7	5. 6. 7 (水) 4	母性看護学における倫理的課題	母性看護学領域の倫理的課題の特徴 DVD視聴			レポート⑤	遠藤	
8	5. 6. 14 (水) 4	まとめ	母性看護学領域における課題				遠藤	
教科書 参考図 書	教：中込さと子他：ナースングラフィカ、母性看護学①、概論・リプロダクティブヘルスと看護、メディカ出版、 最新版 参：◎母子保健の主なる統計 最新版 参：◎松本千明：健康行動理論の基礎、医歯薬出版、2002 年 参：◎国民衛生の動向							
履 修 上 の 注 意	この授業科目は、①急性期看護学実習、②慢性看護学実習、③老年看護学実習、④精神看護学実習、⑤母性看護学実習、⑥小児看護学実習Ⅱ、⑦訪問看護実習、⑧地域包括支援実習、⑨周産期生活支援実習においてあらかじめ修得しておかなければならない科目に指定されています。							
学 生 へ の メ ッ セ ー ジ	母性看護学の特徴を学ぶとともに、自分自身の次の世代を生み育てる健康について考える機会にしてください。							
e-mail・研究室 (連 絡 先)	遠藤恵子：研究室 20 kendo@yachts.ac.jp							

授 業 科 目 名		学科 (科目区分)	担 当 教 員 職・氏名	必修・選 択の別	学年	開講 時期	単位 数	先修条件 指定科目	科目等 履修生
妊娠分娩期看護 方法論		看護学科 (専門科目)	教 授・遠藤 恵子 助 教・前田のぞみ	必修	2	後期	1	非該当	否
授 業 概 要		妊娠期、分娩期における生理的現象である形態機能と精神的社会的特性、妊婦・胎児・産婦とその家族に対する妊娠期、分娩期の基本的看護方法を主に講義により教授する。 妊娠期・分娩期におこりやすい異常の発生機序、症状、治療方法、看護援助を講義により教授する。							
一般目標		・妊娠期、胎児期、分娩期における生理的現象である形態機能の変化と、精神的社会的特性を理解できる。 ・妊娠期、分娩期の特徴・特性をふまえ、健康レベルを査定する方法を理解できる。 ・妊婦とその家族が、胎児の発育発達を促進し、妊娠に適応できる基本的看護方法を理解できる。 ・産婦とその家族にとって、安全で円滑、満足できる分娩に向けた基本的看護方法を理解できる。 ・妊娠期・分娩期におこりやすい異常の発生機序、症状、治療方法、基本的看護方法を理解できる。							
到達目標		1. 胎児の成長発達と胎児付属物の機能と、妊娠経過に伴う妊婦の身体的・心理社会的変化を説明できる。 2. 胎児の成長発達を促し、妊婦の妊娠への適応を促す基本的看護方法が説明できる。 3. 妊婦とその家族の、出産や親役割準備をすすめる基本的看護方法が説明できる。 4. 妊娠期に起こりやすい異常と、切迫早産で入院している妊婦に対する基本的看護方法が説明できる。 5. 分娩開始から分娩終了までの生理的経過とアセスメント内容・方法を説明できる。 6. 分娩進行が産婦および胎児に及ぼす影響を踏まえて、安全・安楽な分娩のための看護方法が説明できる。 7. 分娩に立ち会う家族の心理を踏まえて、産婦／家族にとって満足な分娩のための看護方法が説明できる。 8. 出生直後の新生児のアセスメントに必要な情報と看護方法を説明できる。 9. 分娩期におこりやすい異常の症状、処置、看護方法を説明できる。							
成績評価方針 評 価 方 法 および基準		筆記試験 80% 到達目標 1 から 9 について、知識の理解、基本的看護方法の理解の達成度を評価する レポート① 10% 妊娠時期の特徴をふまえた妊婦のアセスメントができるかを評価する レポート② 10% 専門的知識を踏まえて、分娩期看護のあり方を考察できているかを評価する							
授業計画									
回	日付	授業項目・学習課題	学習内容・学習方法			授業外学習など		担当	
1	5. 9. 25 (月) 3	胎児と胎児付属物	・胎児の時期別発育発達の特徴 ・胎児付属物の種類と機能 DVD					遠藤	
2	5. 10. 2 (月) 3	妊娠に伴う母体の身体的変化	・妊婦の時期別身体の形態機能の特徴					遠藤	
3	5. 10. 16 (月) 3	妊婦の心理社会的変化と親になることの支援	・妊婦の心理的社会的変化 ・妊婦健康診査					遠藤	
4	5. 10. 23 (月) 3	妊婦の日常生活とセルフケアを支える看護①	・胎児の成長発達を促す看護 ・妊娠の変化に適応するための看護 ・親役割準備に向けた看護					遠藤	
5	5. 10. 30 (月) 3	妊婦の日常生活とセルフケアを支える看護②	・事例を用いて、アセスメント					遠藤	
6	5. 11. 6 (月) 3	妊娠期のフィジカルアセスメント	・妊娠期の情報収集に必要なフィジカルアセスメント技術 DVD					遠藤	
7	5. 11. 13 (月) 3	分娩期にある母子の生理	・分娩開始から分娩終了までの生理的経過 ・分娩の要素					前田	
8	5. 11. 20 (月) 3	分娩期にある母子の生理	・分娩進行が胎児および産婦に及ぼす影響 ・分娩経過の診断					前田	
9	5. 11. 27 (月) 3	分娩期にある母子の看護	・出生直後の新生児の看護 ・分娩 2 時間後までの生理的経過及びリスク状態のアセスメントと看護					前田	
10	5. 12. 4 (月) 2	分娩期にある母子の看護	・分娩経過に沿った看護 ・基本的ニーズに対する看護					前田	
11	5. 12. 4 (月) 3	分娩期にある母子の看護	・産婦と家族の状況に応じた看護 ・DVD			レポート① 「分娩期にある母子の看護を考察する」		前田	
12	5. 12. 18 (月) 3	妊娠期に起こりやすい異常	・妊娠期によくみられる異常と看護					遠藤	

13	5. 12. 25 (月) 3	ハイリスク妊婦の看護	・重症化を防ぐ基本的看護 ・入院生活の援助 ・切迫早産の看護	レポート② 「妊婦のアセスメント」	遠藤
14	6. 1. 15 (月) 3	分娩期にある母子の異常と看護	・分娩期にみられる異常 ・産科手術と産科処置		前田
15	6. 1. 22 (月) 3	分娩期にある母子の異常と看護	・ハイリスク産婦の看護 ・ハイリスク分娩・異常分娩における看護		前田
教 科 書 参 考 図 書	教：ナーシング・グラフィカ 母性看護②母性看護実践の実践，メディカ出版 ナーシング・グラフィカ 母性看護③母性看護技術，メディカ出版 参考書は、講義で紹介する				
履 修 上 の 注 意	この授業科目は、①急性期看護学実習、②慢性看護学実習、③老年看護学実習、④精神看護学実習、⑤母性看護学実習、⑥小児看護学実習Ⅱ、⑦訪問看護実習、⑧地域包括支援実習、⑨周産期生活支援実習においてあらかじめ修得しておかなければならない科目に指定されています。				
学 生 へ の メ ッ セ ー ジ	妊娠、分娩について、イメージを膨らませてください。				
e-mail・研究室 (連 絡 先)	遠藤：研究室 20 kendo@yachts.ac.jp 前田：第 2 共同研究室 nmaeda@yachts.ac.jp				

授 業 科 目 名	学科 (科目区分)	担 当 教 員 職・氏名	必修・選 択の別	学年	開講時期	単位 数	先修条件 指定科目	科目等 履修生
母性看護方法論Ⅱ	看護学科 (専門科目)	助 教・前田のぞみ 助 教・渡邊 礼子 准教授・菊地 圭子 教 授・遠藤 恵子	必修	3	前期	2	非該当	否
授業概要	母性看護学概論と母性看護方法論Ⅰにおける学習を基盤に、出産後の女性が健康を維持促進しながら子どもの養育を健康的に行う過程を支えるために必要な基礎的知識を学習する。また、母性看護学実習につながる科目として既習の知識を生かしながら看護過程を展開する基礎的能力を講義、グループディスカッションにて養うとともに、周産期における看護実践に必要な基本的看護技術を習得する。							
一般目標	1. 産褥・新生児期にある対象の特徴を理解する。 2. 褥婦および新生児が正常な経過をたどり、円滑に家庭生活へ移行することを促進するための基本的な看護援助方法を理解する。 3. 産褥・新生児期にある対象への看護過程展開方法を習得する。							
到達目標	1. 産褥期の身体的、心理的、社会的変化を説明できる。 2. 産褥期の正常な経過を維持・促進する看護援助を説明できる。 3. 育児の習得や産褥期の生活への適応を促す看護援助を説明できる。 4. 新生児の身体的特徴と子宮外生活への生理的適応過程を説明できる。 5. 新生児の子宮外生活への生理的適応を促す看護援助を説明できる。 6. 親子関係形成や新生児の成長・発達を促す看護援助を説明できる。 7. 新生児期に発生する主要な異常の症状と治療方法を説明できる。 8. 新生児の尊厳を踏まえ看護することの意義や援助のあり方を考察できる。 9. 産褥期および新生児期の特徴を踏まえて、事例の情報をアセスメントできる。 10. 事例のアセスメントより対象の状態にふさわしい看護課題と目標を導き出し、看護計画を立案できる。 11. 周産期特有の看護技術の目的と実施方法、留意点を説明できる。 12. 看護技術演習を通して、対象者の安全や安楽に配慮した看護援助方法を考察できる。 13. 母性看護学実習に向けた自己の現状を分析し、課題の克服に向けた方策を考察できる。							
成績評価方針 評 価 方 法 および基準	1) 定期試験 50% 筆記試験によって到達目標 1～7 の到達度を評価する。 2) 演習課題レポート 50% (1)産褥新生児期看護過程の展開演習での成果物 到達目標 9, 10 の到達度を評価する。 (2)妊娠・産褥・新生児期における基本的看護技術演習の課題（事前・事後レポート） 到達目標 8, 11～13 の到達度を評価する。							
授業計画								
回	日付	授業項目・学習課題	学習内容・学習方法			授業外学習など	担当	
1	5. 4. 11 (火) 3	新生児の生理	科目オリエンテーション 講義 ① 新生児の生理的特徴			妊娠期・分娩期に関する既習の知識を活用できるような状態にして参加すること。	渡邊	
2	5. 4. 18 (火) 5	新生児の生理	講義 ② 新生児期のアセスメント				渡邊	
3	5. 4. 20 (木) 4	新生児の看護	講義 ① 子宮外生活への生理的適応を促進する援助 ② 成長・発達を促進する援助				渡邊	
4	5. 4. 25 (火) 5	褥婦の看護	講義 ① 産褥の経過と特徴				前田	
5	5. 5. 9 (火) 5	褥婦の看護	講義 ② 産褥の経過と特徴				前田	
6	5. 5. 30 (火) 5	褥婦の看護	講義 ③ 産褥期のアセスメント ④ 褥婦と家族の看護				前田	
7	5. 6. 6 (火) 5	褥婦の看護	講義 ④ 褥婦と家族の看護 ⑤ 退院後の褥婦の看護				前田	
8	5. 5. 16 (火) 5	新生児に起こりやすい異常	講義 新生児の呼吸循環障害、黄疸等				スポット (饗場)	
9	5. 6. 13 (火) 3	産褥期・新生児期の異常と看護	講義 褥婦と新生児の異常とその看護				渡邊	
10	5. 6. 20 (火) 5	産褥新生児期看護過程①	講義 母性看護における看護過程の展開について				前田	

11	5. 6. 30 (金) 3	Aグループ 妊娠・産褥・新生児期における基本的看護技術演習	【看護技術演習】 シミュレーターを用いた演習 ＜妊娠期＞ 妊婦腹部触診、子宮底長・腹囲測定、胎児心音聴取、胎児の健康状態の診断、妊婦体験 ＜産褥期＞ 産褥子宮復古の観察、外陰部の観察、授乳確立への援助 ＜新生児期＞ 新生児のバイタルサイン測定と諸計測 演習を効果的に進めるため、 <u>演習前後</u> にレポートを提出する。 詳細は初回の講義で説明する。	看護過程展開の個人ワークでの質問等はFORMSで提出する	前田 渡邊 菊地 遠藤
12	5. 6. 30 (金) 4	Bグループ 産褥新生児期看護過程【個人ワーク】、提出			
13	5. 6. 30 (金) 5				
14	5. 7. 7 (金) 3	Aグループ 産褥新生児期看護過程【個人ワーク】、提出		看護過程展開の個人ワークでの質問等はFORMSで提出する	前田 渡邊 菊地 遠藤
15	5. 7. 7 (金) 4	Bグループ 妊娠・産褥・新生児期における基本的看護技術演習	【看護過程展開】 提示された課題について個人で取り組み、提出する。		
16	5. 7. 7 (金) 5				
17	5. 7. 11 (火) 3	産褥新生児期看護過程②③	演習【グループワーク】 アセスメント・看護課題の抽出 発表準備・課題提出		前田 渡邊
18	5. 7. 11 (火) 4				
19	5. 7. 13 (木) 4	産褥新生児期看護過程④	課題の共有		
20	5. 7. 20 (木) 4	産褥新生児期看護過程⑤⑥	演習【グループワーク】 看護目標の設定と具体的看護計画の立案 発表準備・課題提出		前田 渡邊
21	5. 7. 20 (木) 5				
22	5. 7. 25 (火) 4	産褥新生児期看護過程⑦	課題の共有 演習についての自己評価記入		
23	5. 7. 27 (木) 4	産褥新生児期看護過程⑧	講義 産褥新生児期看護過程のまとめ 看護過程課題の最終提出 母性看護学実習について	看護過程最終提出のために講義時間内に個人ワークの時間を設けます	渡邊 前田
教科書 参考文献		教科書：ナーシング・グラフィカ 母性看護学②母性看護の実践，メディカ出版 ナーシング・グラフィカ 母性看護学③母性看護技術，メディカ出版			
履修上の注意		看護過程展開演習および看護技術演習では事前事後の課題がありますので、計画的に学習してください。 看護技術演習は場所や時間、服装について別途連絡しますので、講義時間中のアナウンスに留意して臨んでください。また、遅刻、欠席をしないようにしてください。 この授業科目は、①成人急性期看護学実習、②成人慢性期看護学実習、③老年看護学実習Ⅱ、④精神看護学実習、⑤母性看護学実習、⑥小児看護学実習Ⅱ、⑦在宅訪問看護実習、⑧在宅看護連携実習、⑨妊娠期助産実習においてあらかじめ修得しておかなければならない科目に指定されています。			
学生へのメッセージ		母性看護方法論Ⅱでは講義・演習を通して、褥婦および新生児の身体的・心理社会的変化について学習し、母子が生活の変化に適応して健康で快適な生活を送ることができるように家族を含めた看護援助を行うための基礎知識と技術・態度を養いましょう。既習の知識をぜひ活用してください。			
e-mail・研究室 (連絡先)		前田：第2共同研究室 nmaeda@yachts.ac.jp 渡邊：第1共同研究室 rhiguchi@yachts.ac.jp 菊地：研究室5 kkikuchi@yachts.ac.jp 遠藤：研究室20 kendo@yachts.ac.jp			

授 業 科 目 名	学科 (科目区分)	担 当 教 員 職・氏名	必修・選 択の別	学年	開講時期	単位 数	先修条件 指定科目	科目等 履修生
母性看護学実習	看護学科 (専門科目)	助 教・渡邊 礼子 助 教・前田のぞみ 准教授・菊地 圭子 教 授・遠藤 恵子	必修	3	後期	2	該当	否
授業概要	周産期にある対象者への看護実践を通し、対象者の特徴を理解し次代を育むために必要な援助とそれに必要なチーム体制の基本を培う。さらに、ヒューマンケアの基本、自己研鑽の態度を修養する。							
一般目標	1. 母性看護の対象とその特徴を理解できる 2. 健康増進を目指した基礎的な看護を実践できる 3. 生涯を通じた母性看護の意義と看護者の役割を考察できる							
到達目標	ヒューマンケアの基本に関する実践能力 1. 対象者の価値観を尊重する行動をとることができる 2. 新生児に対して、人権を擁護する意識を持って行動できる 3. 看護の職業倫理に基づき、責任ある行動をとることができる 4. 対象者と意思疎通を重ね、信頼関係を築くための行動をとることができる 次代を育むための援助の実践に関する実践能力 1. 妊婦・産婦・褥婦および新生児の特徴を理解できる 2. 妊娠期・産褥期・新生児期の身体的・心理的・社会的特性と生理的变化を踏まえてアセスメントを行い、各期の対象者に適した看護上の課題を抽出できる 3. 対象者のセルフケア能力を活かし、各期の対象者に適した看護上の課題を抽出できる 4. 対象者の状況に合わせてタイミングや方法を工夫し、指導のもとに安全・安楽に看護を実施できる 5. 対象者の状況の変化に合わせて看護計画を随時評価し、修正できる 6. 妊娠に伴うリスクに応じた看護の特徴を考察できる 看護チームにおける協働・連携に関する能力 1. より適切な援助を行うために、医療チームの一員として連絡・報告・相談ができる 2. 対象者に関わる看護チームの役割・連携について表現できる 看護実践を通して研鑽する能力 1. 対象者の状況にあわせた適切で充実した看護ケアを目指し準備できる 2. 自分の行動を振り返り、課題の改善に向けた行動をとることができる							
成績評価方針 評 価 方 法 および基準	到達目標 14 項目について実習評価表を用い、実習内容や実習記録から総合的に評価する。							
授業計画								
回	日付	授業項目・学習課題	学習内容・学習方法		授業外学習など		担当	
	5. 9. 19 (火) ～ 6. 2. 16 (金)	周産期にある対象者を受け持ち、看護を実践する	詳細は母性看護学実習要項を参照 実習場所 県立中央病院、山形済生病院 産科病棟、産婦人科外来、小児科外来		事前学習課題を課す 詳細は実習オリエンテーション時に説明する		渡邊 前田 菊地 遠藤	
教 科 書 参 考 図 書	必要な図書・文献を自分で探し活用すること							
履 修 上 の 注 意	母性看護学はもちろん、これまで学んだ全てを復習して実習に臨むこと。 母性看護学方法論Ⅱで演習した技術を十分復習して実習に臨むこと。 以下の科目を修得しておくこと 看護学概論、基礎看護方法論Ⅰ、基礎看護方法論Ⅱ、看護倫理、看護理論、看護過程論、看護人間関係論、ヘルスアセスメント論、家族看護学、基礎看護学実習Ⅰ、基礎看護学実習Ⅱ、成人看護学概論、成人急性期看護方法論Ⅰ、成人慢性期看護方法論Ⅰ、成人急性期看護方法論Ⅱ、成人慢性期看護方法論Ⅱ、老年看護方法論、老年看護学実習Ⅰ、精神看護学概論、精神看護方法論、母性看護学概論、母性看護方法論Ⅰ、母性看護方法論Ⅱ、小児看護方法論、小児看護学実習Ⅰ、在宅看護概論、在宅看護方法論Ⅰ、在宅看護方法論Ⅱ							
学 生 へ の メ ッ セ ー ジ	妊娠出産育児をしている方がハイリスク化してきています。これまで学んだ知識や経験を活かして実習してきましょう。また、健康管理を充分行って臨んでください。 本科目は、教員と実習指導者の指導の下、病院（臨床）において周産期にある対象者に看護過程を展開する科目であり、高等教育の負担軽減制度の要件に定める「実務経験のある教員による科目」としています。							
e-mail・研究室 (連 絡 先)	渡邊：第1共同研究室 rhiguchi@yachts.ac.jp 前田：第2共同研究室 nmaeda@yachts.ac.jp 菊地：研究室5 kkikuchi@yachts.ac.jp 遠藤：研究室20 kendo@yachts.ac.jp							

授 業 科 目 名	学 科 (科目区分)	担 当 教 員 職・氏名	必修・選 択の別	学年	開講 時期	単位 数	先修条件 指定科目	科目等 履修生
助産プロフェッショナルリズム	看護学科 (専門科目)	教授・遠藤 恵子	必修	2	前期	1	非該当	否
授業概要	助産の基本概念と助産師の専門性について教授する。							
一般目標	1. 助産の基本概念と助産師の専門職者としての役割と責務を理解できる。 2. 助産師の専門性を獲得する教育制度とキャリア開発制度を理解できる。 3. 活動する場に応じた助産師の役割を理解できる。 4. 今後求められる助産師の役割を考察できる。							
到達目標	1. 法的根拠を踏まえ、助産の基本概念と助産師の専門職者としての役割と責務を説明できる 2. 医療機関、地域、助産所における具体的な助産実践活動を説明できる。 3. マタニティケア、ウィメンズヘルス、安全快適な分娩に向けた具体的な助産師実践活動を説明できる。 4. 多様な助産師教育制度を理解し、助産性の専門性を高めるキャリア開発の方策を考察できる。 5. 今後、助産師の専門性を発揮できる場や活動内容を考察できる。							
成績評価方針 評価方法 および基準	筆記試験 80% 到達目標 1 から 4 について、知識の理解の到達度を評価する。 レポート 20% 到達目標 5 の達成度を評価する。課題は講義内で提示する。							
授業計画								
回	日付	授業項目・学習課題	学習内容・学習方法			授業外学習 など	担当	
1	5. 4. 10 (月) 4	助産師制度	助産師の役割と制度、関連法規 海外の助産師制度				遠藤	
2	5. 4. 17 (月) 4	助産師の教育制度	助産師教育の変遷、多様な教育制度 キャリア開発				遠藤	
3	5. 4. 24 (月) 4	マタニティケア／ウィメンズヘルスにおける助産師の役割	妊娠期から育児期までの切れ目ない支援 思春期から更年期までの継続的ケア				遠藤	
4	5. 5. 1 (月) 4	安全・快適な分娩に向けた体制と助産師の役割	周産期医療体制、医療安全、チーム医療 ケア			レポート	遠藤	
5	5. 5. 8 (月) 4	助産師活動の実際①	助産所における助産師活動 (オンライン)				スポット (小嶋)	
6	5. 5. 15 (月) 4	助産師活動の実際②	地域における助産師活動				スポット (遠藤)	
7	5. 5. 22 (月) 4	助産師活動の実際③	医療施設における助産師活動				渡邊 前田	
8	5. 5. 31 (水) 1	根拠に基づく助産ケア	WHO 勧告、UNICEF				遠藤	
教 科 書 参 考 図 書	参考図書：助産師業務要覧 最新版							
履 修 上 の 注 意	この授業科目は、周産期生活支援実習においてあらかじめ修得しておかなければならない科目に指定されています。							
学 生 へ の メ ッ セ ー ジ								
e-mail・研究室 (連 絡 先)	遠藤恵子：研究室 20 kendo@yachts.ac.jp							

授 業 科 目 名	学科 (科目区分)	担 当 教 員 職・氏名	必修・選 択の別	学年	開講時期	単位 数	先修条件 指定科目	科目等 履修生
リプロダクティブ ヘルスケア	看護学科 (専門科目)	教授・遠藤 恵子	必修	2	後期	1	非該当	否
授業概要	全てのライフサイクルに関わる性と生殖をめぐる健康問題の早期発見・治療および健康の維持・増進・疾病予防における看護を展開するために必要な基本的看護方法を教授する。							
一般目標	1. 性と生殖の看護の目的と対象を理解する。 2. 性や生殖が人の健康や生活に及ぼす影響を理解し、性の健康を維持増進させる基本的看護方法を理解する。 3. 性と生殖をめぐる健康問題に対する基本的看護方法を理解する。							
到達目標	1. 性と生殖に関する基本的な概念について説明できる。 2. 性と生殖の看護に必要な理論を理解し、実践への適用が考察できる。 3. 多様な性のあり方を理解し、看護の役割を考察できる。 4. 性に関する意識や行動の特徴を説明できる。 5. 妊孕性や不妊を説明でき、妊孕性を高める看護方法と不妊症に対する基本的看護方法を説明できる。 6. 性感染症や避妊を説明でき、性感染症予防や適切な避妊行動を促す基本的看護方法を説明できる。 7. 疾患や治療によって損なわれる性と生殖や、障がいをもつ人の性や生殖の特徴を説明できる。 8. 性と生殖の看護領域の倫理的課題の特徴と看護者としての役割を考察できる。							
成績評価方針 評 価 方 法 および基準	1) 筆記試験 80％ 筆記試験によって到達目標 1～8 の到達度を評価する。 2) レポート 1回 20％ 「性の健康を高める看護」に関するレポート レポートによって到達目標 1～8 の到達度を評価する。課題は授業内で提示する。							
授業計画								
回	日付	授業項目・学習課題	学習内容・学習方法			授業外 学習など	担当	
1	5.11.17 (金) 4	性の概念 性と生殖の看護の対象・目標	性、ジェンダー、セクシャリティ、性の健康 Reproductive Health/rights Sexuality				遠藤	
2	5.11.24 (金) 4	多様な性	性自認、性指向、性の多様性を踏まえた看護				遠藤	
3	5.12. 1 (金) 4	性被害	性被害の実態、性被害を予防する看護				遠藤	
4	5.12. 8 (金) 4	不妊・避妊	避妊、家族計画、不妊治療に対する看護				遠藤	
5	5.12.15 (金) 4	性感染症	性感染症、性感染症の予防と看護				遠藤	
6	5.12.22 (金) 4	性の健康を高める看護	性教育、プレコンセプションケア			レポート	遠藤	
7	6. 1.19 (金) 4	障がいや疾患をもつ人の性と生殖の看護	障がいとセクシャリティ、妊孕性に影響を及ぼす疾患や治療とセクシャリティ				遠藤	
8	6. 1.24 (水) 3	リプロダクティブヘルスに関する倫理	リプロダクティブヘルスに関する倫理的課題と看護				遠藤	
教 科 書 参 考 図 書	教科書：ナーシンググラフィカ 母性看護学①概論・リプロダクティブヘルスと看護 最新版 その他、授業で随時提示します。							
履 修 上 の 注 意	既習の知識や科目を復習して授業に臨んでください。							
学 生 へ の メ ッ セ ー ジ	・性と生殖の看護の特徴を学ぶとともに、自身の性と生殖について考える機会にしてください。 ・この授業科目は、周産期生活支援実習においてあらかじめ修得しておかなければならない科目に指定されています。							
e-mail・研究室 (連 絡 先)	遠藤恵子：kendo@yachts.ac.jp (研究室 20)							

授 業 科 目 名		学 科 (科目区分)	担 当 教 員 職・氏名	必修・選 択の別	学年	開講 時期	単位 数	先修条件 指定科目	科目等 履修生
妊娠期助産方法論		看護学科 (専門科目)	教授・遠藤 恵子	選択	3	前期	1	非該当	否
授業概要		・妊婦・胎児とその家族の健康状態を診断するための基本的な知識と技術を講義により教授する。 ・模擬患者や妊婦に対する個人指導と集団指導を実施し、妊娠に適応し、分娩・育児に向けた準備を促進する効果的な保健指導の知識と技術を教授する。							
一般目標		・妊婦・胎児とその家族の健康状態を的確に診断し、今後の経過を予測するための基本的な知識と技術を習得できる。 ・妊婦とその家族が、妊娠に適応し、分娩・育児に向けた準備を促進する助産技術を習得できる。							
到達目標		1. 紙上事例で妊婦家族胎児の看護に必要な情報が収集できる 2. 紙上事例で妊婦胎児の現在の健康状態の診断・今後の経過の予測ができる。 3. 紙上事例で、助産計画を立案し、模擬妊婦に、生活に取り入れることが可能な援助が実施できる。 4. 模擬妊婦とその家族に対して、妊娠に適応し、分娩・育児に向けた準備を促進するための援助が実施できる。 5. 模擬妊婦の反応から援助の評価ができる。 6. 模擬患者に対し、対象者の安全や不快に配慮したケアを実施できる。 7. 既習した基本的ケアを、対象の状況に合わせたケアに向けてバリエーションを考えることができる。 8. 対象の状況にあわせた適切で充実した看護ケアを目指し準備することができる。 9. 超音波と胎児シミュレーターを用いて、胎児の健康状態を査定できる。							
成績評価方針 評 価 方 法 および基準		事前学習・演習提出物 50% 到達目標 1、2、7、8 の達成状況を評価する 演習における行動 20% 目標 3、4、5、6、7 の達成状況を評価する 筆記試験 30% 妊娠期の助産を展開するために必要な知識の理解度							
授業計画									
回	日付	授業項目・学習課題		学習内容・学習方法		授業外学習など		担当	
1	5. 4. 10 (月) 1	妊娠期のケア・ガイドライン		講義				遠藤	
2	5. 4. 10 (月) 2	妊婦に対する助産過程 妊娠初期の模擬事例①		講義 助産過程演習		事例に対する ①レポート ②アセスメント・診断 ③指導案 ④アセスメント・診断 ⑤計画・指導案			
3	5. 4. 17 (月) 1	妊娠初期の模擬事例②		助産過程演習					
4	5. 4. 17 (月) 2	妊娠初期の模擬事例③		助産過程演習					
5	5. 5. 1 (月) 1	妊娠初期の模擬事例④		助産過程演習					
6	5. 5. 1 (月) 2	妊娠中期の模擬事例①		助産過程演習					
7	5. 5. 8 (月) 1	妊娠中期の模擬事例②		助産過程演習					
8	5. 5. 8 (月) 2	妊娠中期の模擬事例③		助産過程演習					
9	5. 5. 15 (月) 1	妊娠末期の模擬事例①		助産過程演習					
10	5. 5. 15 (月) 2	妊娠末期の模擬事例②		助産過程演習					
11	5. 5. 22 (月) 1	妊娠期、授乳期における薬理						蓬田	
12	5. 5. 22 (月) 2	妊娠末期の模擬事例③		助産過程演習				遠藤	
13	5. 4. 24 (月) 1	超音波検査・妊婦健康診査の実際						前田	
14	5. 4. 24 (月) 2								
15	5. 5. 29 (月) 2	妊娠に関する異常と治療						スポット	
教 科 書 参 考 図 書		教：森恵美編：助産師基礎教育テキスト第4巻，妊娠期の診断とケア，日本看護協会出版会，最新刊。 参：日本産科婦人科学会/日本産婦人科医会：産婦人科診療ガイドライン産科編 2020，日本産科婦人科学会。 その他、授業内で紹介します。							
履 修 上 の 注 意		この授業科目は、妊娠期助産実習においてあらかじめ修得しておかなければならない科目に指定されています。							
学 生 へ の メ ッ セ ー ジ		既習事項は、充分理解したものとして講義を進めます。演習形式ですすめます。遅刻・欠席はしないようにしてください。							
e-mail・研究室 (連 絡 先)		遠藤恵子：研究室 20 kendo@yachts.ac.jp							

授 業 科 目 名	学科 (科目区分)	担 当 教 員 職・氏名	必修・選 択の別	学年	開講時期	単位 数	先修条件 指定科目	科目等 履修生
分娩期助産方法論	看 護 学 科 (専門科目)	助 教・前田のぞみ 准教授・菊地 圭子 助 教・渡邊 礼子 教 授・遠藤 恵子	選択	4	前期	2	非該当	否
授業概要	分娩期において、産婦と胎児／新生児および家族の健康状態を診断し、正常な分娩経過を維持・促進するための援助を教授する。分娩経過中に正常からの逸脱の可能性を早期発見し、適切な医療を提供するために必要な医学的知識と、ハイリスク分娩の看護について教授する。							
一般目標	1. 分娩期の産婦と胎児／新生児の身体的、社会的健康状態を診断する基本的な知識と技術を修得できる。 2. 分娩経過に伴う産婦と胎児の安全安楽および快適な分娩に向けた基本的な援助技術を修得する。 3. 分娩経過において産婦と胎児／新生児と家族が持つ能力を発揮するための援助技術を修得する。 4. 正常な分娩経過からの逸脱について、医学的知識とそれにとりまう看護を理解する。							
到達目標	1. 助産師の責務と助産ケア実践に関連した取り決めについて説明できる。 2. 分娩期の産婦と胎児の生理的経過と、分娩経過に伴う身体的・心理的变化を説明できる。 3. 分娩経過を把握するための診断技術と、分娩経過のアセスメントについて説明できる。 4. 分娩経過のアセスメントに基づき、安全、安楽、快適さに配慮した分娩のための援助方法を説明できる。 5. 出生直後の新生児の全身状態の観察および処置を説明できる。 6. 産婦と家族にとって満足度の高い分娩を目指した支援方法について説明できる。 7. 紙上事例について計画立案までの助産過程を展開し、看護実践の評価方法について説明できる。 8. 分娩期に起こりうる異常の発生機序、症状、処置、ハイリスク分娩の看護方法を説明できる。 9. 分娩介助モデルや模擬産婦に対して、安全、安楽、快適さに配慮して、分娩介助ができる。 10. 助産ケアと並行して対象者の意思・反応を把握し、状況に応じたケアが実践できるよう調整できる。 11. 分娩期ケアにおける各医療メンバーの役割を認識し、協働してケアが実践できるよう行動できる。 12. 学生間でお互いに、建設的な議論、批判、助言ができる。 13. 自分の課題を明確にし、限られた期間内に課題を克服する行動をとることができる。							
成績評価方針 評 価 方 法 および基準	筆記試験 50%：分娩期のケアを実践していく上で必要な知識について、理解度を評価する。 演習提出物 20%：紙上事例について展開した助産過程をもとに、産婦・胎児の状況に応じた助産過程が展開されているかを評価する。 技術試験 30%：授業期間の終了時期に技術試験を行い、分娩介助技術の習得度を、分娩期実習評価表に基づき評価する。評価項目は、技術の確実さだけでなく、分娩経過の状況判断やそれに対する対処、他者との協働などに及ぶ。							
授業計画								
回	日付	授業項目・学習課題	学習内容・学習方法			授業外学習など	担当	
1	5. 4. 7 (金) 3	分娩の生理	分娩に関する概念、分娩の生理的経過			助産師としての診断技術や介助手技を身につけ、状況に応じて臨機応変に対応するため、個人や小グループでの自主演習を必要とします。	前田	
2	5. 4. 7 (金) 4		分娩要素と分娩機転					
3	5. 4. 10 (月) 3		分娩における心理・社会的特徴 分娩が母子に及ぼす影響					
4	5. 4. 10 (月) 4	分娩期の助産診断	フィジカルアセスメント					
5	5. 4. 12 (水) 1		分娩の異常					
6	5. 4. 12 (水) 2		分娩期の助産診断と産婦のケア					
7	5. 4. 13 (木) 2	分娩介助法	分娩介助法					
8	5. 4. 14 (金) 3		出生直後の新生児のアセスメントとケア					
9	5. 5. 24 (水) 1	分娩介助技術①	分娩介助の手順と手技				前田 菊地 渡邊 遠藤	
10	5. 5. 24 (水) 2							
11	5. 5. 24 (水) 3							
12	5. 6. 1 (木) 1		技術チェック①					
13	5. 6. 15 (木) 1	技術チェック②						
14	5. 6. 19 (月) 3	分娩介助技術②	【実践演習】 フリースタイル分娩の介助法 破膜・巻絡の介助				渡邊	
15	5. 4. 24 (月) 3	分娩期のケア 入院時、潜伏期、活動期	【実践演習】 分娩進行に伴うケア、家族のケア 導尿の手技、内診 様々な産痛緩和法 産婦の産む力を引き出す援助				渡邊	
16	5. 4. 24 (月) 4							
17	5. 4. 26 (水) 3	出生直後～早期新生児の健康診査と援助	【実践演習】 出生前の状態予測と児を迎える準備				渡邊	

18	5. 4. 26 (水) 4		出生直後の新生児の全身観察 早期皮膚接触時の観察とケア 早期新生児の観察	前田	
19	後日連絡	産科手術と救急処置	急速遂娩術 産科出血 異常分娩の診断他		スポット (堤)
20	5. 6. 2 (金) 1	ハイリスク分娩時のケア	産科処置時の診療介助 ハイリスク分娩における看護 麻酔分娩		前田
21	5. 4. 17 (月) 1	事例展開①	分娩期の助産展開の実際		
22	5. 4. 17 (月) 2				
23	5. 4. 18 (火) 3				
24	5. 4. 19 (水) 1				
25	5. 4. 20 (木) 1				
26	5. 4. 21 (金) 3				
27	5. 5. 26 (金) 1	事例展開②	分娩期の助産展開の実際		
28	5. 5. 29 (月) 1				
29	5. 5. 31 (水) 1				
30	5. 6. 6 (火) 1	分娩期の助産師の役割	WHO: ポジティブな出産体験のための分娩期のケア フリースタイル分娩 胎児付属物の精査		
教科書 参考文献		《教科書》 ・町浦美智子責任編集：助産師基礎教育テキスト第 5 巻分娩期の診断とケア, 日本看護協会出版会, 2023. ・小林康江責任編集：助産師基礎教育テキスト第 7 巻ハイリスク妊産褥婦・新生児へのケア, 日本看護協会出版会, 2023. ・日本産婦人科学会編集：産婦人科診療ガイドライン産科編 2023, 日本産科婦人科学会. (8 月発刊予定) ・藤森敬也：胎児心拍数モニタリング講座, 改訂 4 版, メディカ出版, 2021. 《参考書》 ◎武谷雄二監修：プリンシプル産科婦人科学②, 第 3 版, メジカルビュー社, 2014. ◎綾部琢哉, 板倉敦夫：標準産科婦人科学, 第 5 版, 医学書院, 2021. ・日本産婦人科学会編集：産婦人科診療ガイドライン産科編 2020, 日本産科婦人科学会. ・細野茂春：日本版救急蘇生ガイドライン 2020 に基づく新生児蘇生法テキスト第 4 版, メジカルビュー社, 2021. ・仁志田博司：新生児学入門, 第 5 版, 医学書院, 2018. ・楠田聡：新生児学テキスト第 1 版, メディカ出版 2018. ・河野寿夫：ベッドサイドの新生児の診かた 第 3 版, 南山堂 2016. ・照井克生：硬膜外無痛分娩 安全に行うために第 4 版, 南山堂, 2022. ・福井トシ子編：新版 助産師業務要覧Ⅰ 基礎編第 3 版, 日本看護協会出版会, 2023. ・福井トシ子編：新版 助産師業務要覧Ⅱ 実践編第 3 版, 日本看護協会出版会, 2023. ・福井トシ子編：新版 助産師業務要覧Ⅲ アドバンス編第 3 版, 日本看護協会出版会, 2023. *その他周産期、助産学関連の専門書、専門雑誌、視聴覚教材等を積極的に活用すること。			
履修上の注意		予習・復習だけでなく、小グループ学習や自主学習など、授業外学習に多くの時間を必要とします。			
学生へのメッセージ		本科目は実習とつながっており、講義で作成する演習記録は助産学実習で活用できます。自分で考えて実践する形式で講義が進行しますので、各自、十分な準備をして積極的に参加してください。 演習はお互いに協力し、対象の産む力が引き出せるよう技術を獲得しましょう。			
e-mail・研究室 (連絡先)		前田：第 2 共同研究室 nmaeda@yachts.ac.jp 菊地：研究室 5 kkikuchi@yachts.ac.jp 渡邊：第 1 共同研究室 rhiguchi@yachts.ac.jp 遠藤：研究室 20 kendo@yachts.ac.jp			

授 業 科 目 名		学 科 (科目区分)	担 当 教 員 職・氏名	必修・選 択の別	学年	開講時期	単位 数	先修条件 指定科目	科目等 履修生
産褥期助産方法論		看護学科 (専門科目)	准教授・菊地 圭子 助 教・渡邊 礼子	選択	4	通年	2	非該当	否
授業概要		褥婦と新生児が正常な産褥期・新生児期経過をたどり新たな生活や役割に適応できるように、対象者のもつ力を引き出し、効果的に発揮させるための援助技術を教授する。さらに、正常からの逸脱を予防・早期発見するために必要な医学的知識と各専門分野の最新の知見を教授する。 本科目は母性看護学、基礎助産ならびに妊娠期助産方法論での学習を基盤とし、分娩産褥期助産実習へとつながる科目である。							
一般目標		1. 褥婦・新生児の現在の診断や今後の予測を適切に行い、家庭生活へ円滑に移行するために必要な看護援助を立案できる。 2. 育児や健康管理行動において対象者の力を効果的に発揮させるための援助方法を習得できる。 3. 褥婦・新生児への援助に必要な医学・医療に関する専門的知識・技術を理解できる。							
到達目標		1. 褥婦・新生児の現在の状態をアセスメント・診断し、今後の状態を予測できる 2. 褥婦・新生児の現在および今後の経過が正常を逸脱しないように予防的援助を含んだ計画を立案できる 3. 褥婦・家族のセルフケア能力や育児能力、親役割意識を高めるための援助計画を立案できる 4. 安全や安楽に配慮した適切な方法で援助を実施し、対象者の反応から実施した援助を評価できる 5. 褥婦と家族のセルフケア能力や育児能力、親役割意識を高めるために効果的な援助方法を考察できる 6. 新生児期の代表的な疾患・治療と基本的な看護援助を説明できる 7. 新生児医療における倫理的課題に対する自分の考えを考察できる 8. 母乳育児を促進するための基本的援助方法を説明できる 9. 超音波断層装置を用いて行う健康診査内容を説明できる 10. 会陰切開・裂傷縫合術の適応と縫合方法を説明できる 11. 自己の課題を明確にし、限られた時間内に課題を克服する行動をとることができる 12. 分娩産褥期助産実習に向けた自己の現状を分析し、課題の克服に向けた方策を考察できる							
成績評価方針 評 価 方 法 および基準		以下の1)～3)を合わせて100点満点として評価する 1)筆記試験1回20%（定期試験日程外に実施） 筆記試験で到達目標6,8,9,10の到達度を評価する。 2)演習70% (1)産褥期・新生児期助産過程展開演習における提出記録20% 到達目標1,2,3,4の到達度を評価する。 (2)「褥婦・家族のセルフケアと育児能力、親役割意識を高める援助」演習内容および提出記録50% 到達目標3,4,5,12の到達度について援助計画用紙と事後レポートを評価する。援助計画および事後レポートの評価基準は講義内で説明する。到達目標12は事後課題の中に記載することを求める。 3)新生児医療の倫理的課題レポート10% 到達目標7について、講義後にA41～2枚程度のレポートを課し、評価基準に基づき到達度を評価する。評価基準は講義時に説明する。 到達目標11は、上記2),3)について各種課題の提出期限を遵守し、不足を補う行動がとれたかどうかという視点で評価する。評価は2),3)の評価を含む。							
授業計画									
回	日付	授業項目・学習課題	学習内容・学習方法			授業外学習など		担当	
1	5. 4. 6 (木) 2	産褥期・新生児期助産過程展開演習①	授業の進め方と今後の演習概要・スケジュール説明 事例について、グループディスカッションを行いながら、助産計画を立案する			毎回助産過程の課題を課す 授業のため個人またはグループ単位での準備・練習を必要とする		菊地	
2	5. 4. 7 (金) 1	家族計画・受胎調節	講義・演習 ・産後の家族計画の意義と動向 ・受胎調節法の実際（各種避妊法）					菊地	
3	5. 4. 10 (月) 1	産褥期・新生児期助産過程展開演習②	グループディスカッションを行いながら、事例に対する助産計画を立案する 事例に基づくロールプレイ演習を行う					菊地	
4	5. 4. 10 (月) 2	産褥期の身体的課題と運動療法	講義・演習					永瀬	
5	5. 4. 12 (水) 3	産褥期・新生児期助産過程展開演習③	紙上事例展開・グループディスカッション・ロールプレイ演習					菊地	

6	5. 4. 20 (木) 5	新生児期の代表的疾患と治療	講義		スポット (饗場)
7	5. 4. 25 (火) 5	新生児期の代表的疾患と治療	講義		スポット (饗場)
8	5. 4. 13 (木) 1	産褥期・新生児期助産過程展開演習④	紙上事例展開・グループディスカッション・ロールプレイ演習		菊地
9	5. 4. 13 (木) 3	地域における母乳育児支援の実際	講義・演習 乳汁分泌・産生を促進する援助技術 直接授乳の援助技術 褥婦の身体的ケア	母乳育児に関する既習の知識・技術を復習して臨む	スポット (齋藤)
10	5. 4. 13 (木) 4				
11	5. 4. 18 (火) 4	超音波断層法による健康診査	講義		スポット (大貫)
12	5. 4. 24 (月) 1	産褥期・新生児期助産過程展開演習⑤	紙上事例展開・グループディスカッション・ロールプレイ演習		菊地
13	5. 4. 24 (月) 2	産褥期・新生児期助産過程展開演習⑥	紙上事例展開・グループディスカッション・ロールプレイ演習		菊地
14	5. 4. 25 (火) 3	母乳育児支援のスタンダード	講義・演習 母乳育児支援の基本		スポット (山田)
15	5. 4. 25 (火) 4				
16	5. 4. 26 (水) 1	産褥期・新生児期助産過程展開演習⑦	紙上事例展開・グループディスカッション・ロールプレイ演習		菊地
17	5. 4. 26 (水) 2	産褥期・新生児期助産過程展開演習⑧	紙上事例展開・グループディスカッション・ロールプレイ演習		菊地
18	5. 4. 27 (木) 1	産褥期の助産技術演習	演習		菊地 渡邊
19	5. 4. 27 (木) 2				
20	5. 4. 28 (金) 3	産褥期・新生児期助産過程展開演習⑨	紙上事例展開・グループディスカッション・ロールプレイ演習		菊地
21	後日連絡	ハイリスク新生児の成長・発達を支える看護	講義 NICU/GCUにおける新生児への援助、分離状態にある母子と家族への援助、ディベロップメンタルケア		スポット (植松)
22	後日連絡	会陰裂傷/会陰切開 会陰裂傷縫合術	講義・演習		スポット (杉山)
23	5. 5. 23 (火) 1	褥婦のセルフケアと育児能力、親役割意識を高める援助産褥期・新生児期助産技術演習	計画した保健指導のロールプレイ演習	演習後レポート：講義時に提示する	菊地 渡邊 前田 遠藤
24	5. 5. 23 (火) 2				
25	5. 6. 6 (火) 5	新生児医療における倫理的課題	講義・演習		スポット (饗場)
26	5. 6. 21 (水) 5	新生児医療における倫理的課題	講義・演習	講義後レポート：講義時に提示する	スポット (饗場)
27 28 29 30	後日連絡	新生児医療における倫理的課題 新生児蘇生法講習会 (Bコース)	講義・演習 日本周産期・新生児医学会新生児蘇生法普及事業小委員会公認の新生児蘇生法(NCPR)講習会 講義前試験/講義・実技/認定試験	「日本版救急蘇生ガイドライン 2020 に基づく新生児蘇生法テキスト」を各自準備し、事前学習をして臨む	スポット (饗場)

教科書 参考図書	教科書 最新版を購入すること 江藤宏美編：助産師基礎教育テキスト 2023 版、産褥期のケア／新生児期・乳児期のケア, 日本看護協会出版会. 小林康江編：助産師基礎教育テキスト 2023 版、ハイリスク妊産褥婦・新生児へのケア, 日本看護協会出版会. NPO 法人日本ラクテーション・コンサルタント協会：母乳育児支援スタンダード第 2 版, 医学書院. 参考図書 ◎水野克己, 水野紀子：母乳育児支援講座改定 2 版, 南山堂 ◎仁志田博司：新生児学入門, 医学書院. ◎河野寿夫編：ベッドサイドの新生児の診かた改定 3 版, 南山堂. ◎UNICEF/WHO：赤ちゃんとお母さんにやさしい母乳育児支援ガイドベーシックコース「母乳育児成功のための 10 か条」の実践, 医学書院. 「助産雑誌」, 「ネオネイタルケア」, 「周産期医学」などの専門雑誌も活用して下さい。
履修上の注意	講義日程が変更となる場合があります。随時連絡しますのでアナウンスに留意してください。 短期間で多くの課題提出がありますので、計画的に学習しましょう。
学生へのメッセージ	妊娠期・分娩期・産褥期・新生児期に関わる既習の知識・技術を十分理解し、習得していることが必要です。必ず予習復習してください。演習にあたっては、講義以外の時間で準備や自己学習が必要です。学内の教材や図書、AV 教材などを積極的に活用して主体的に学習してください。
e-mail・研究室 (連絡先)	菊地：研究室 5 kkikuchi@yachts.ac.jp 渡邊：第 1 共同研究室 rhiguchi@yachts.ac.jp

授 業 科 目 名	学科 (科目区分)	担 当 教 員 職・氏名	必修・選 択の別	学年	開講 時期	単位 数	先修条件 指定科目	科目等 履修生
地域母子保健	看護学科 (専門科目)	教授・遠藤 恵子	選択	4	後期	1	非該当	否
授業概要	母子保健に関する法制度、母子保健事業の内容と体系、地域特性をふまえた母子保健活動、保健医療福祉の連携協働のありかたを教授する。							
一般目標	1. 母子保健に関する法制度、母子保健事業の内容と体系を理解する。 2. 地域特性をふまえた母子保健活動を理解する。 3. 母子保健に関する保健医療福祉の連携協働のありかたを理解する。							
到達目標	1. 地域における母子保健活動の目的と意義を説明できる。 2. 母子保健に関する法を列挙できる。 3. 妊娠期・育児期の母子保健事業と、女性の生涯を通じた健康維持のための事業内容を説明できる。 4. 地域特性をふまえた活動を説明できる。 5. 児童虐待の現状と予防支援策を説明できる。 6. 行政が実施する母子保健活動を理解し、医療機関と地域との効果的な連携を考察できる。 7. 地域の母子保健における課題について、助産師としての役割を考察できる。							
成績評価方針 評 価 方 法 および基準	筆記試験 到達目標 1 から 7 の到達度を評価する							
授業計画								
回	日付	授業項目・学習課題	学習内容・学習方法			授業外学習 など	担当	
1	5. 9. 15 (金) 1-5	地域母子保健の意義 母子保健計画の実際	地域母子保健の意義・概念 母子保健計画			総合看護学実習Ⅱの実習市町村の特徴や実施する事業とあわせながら理解を深める 児童虐待や母子感染等、地域の母子保健に関するニュースに関心をもつ	遠藤	
2		母子保健に関連する 法と体系	母子保健法、労働基準法、男女雇用機会均等法他、母子保健体系				遠藤	
3		母子保健の動向 母子保健における課題と目標	出生、乳児死亡等の推移 健やか親子 21、子育て支援				遠藤	
4		妊娠期の母子保健活動	母子健康手帳交付、妊婦健康診査、相談等				遠藤	
5		育児期の母子保健活動 生涯を通じた支援の施策	乳幼児健康診査、保健指導、予防接種				遠藤	
6	5. 10. 18 (水) 2-4	児童虐待予防	児童虐待の実態と予防				遠藤	
7		母子保健活動の他職種連携	山形市内の育児支援施設での講義				スポット	
8		まとめ					遠藤	
教科書 参 考 図 書	教科書：助産師基礎教育テキスト 第3巻 周産期における医療の質と安全、日本看護協会出版会							
履 修 上 の 注 意	なし							
学 生 へ の メ ッ セ ー ジ	実習等の事例を思い出しながら、地域における母子保健活動における助産師の役割を考えてください。							
e-mail・研究室 (連 絡 先)	遠藤恵子：研究室 20 kendo@yachts.ac.jp							

授 業 科 目 名		学科 (科目区分)	担 当 教 員 職・氏名	必修・選 択の別	学年	開講時期	単位 数	先修条件 指定科目	科目等 履修生
助産管理		看護学科 (専門科目)	教 授・遠藤 恵子	選択	4	後期	1	非該当	否
授業概要		助産業務実践のために必要な知識として、助産師の法的責務、助産業務における労務管理、リスクマネジメント、情報管理、災害対策、施設内外の連携について教授する。							
一般目標		1. 助産業務に関連する法規から助産師の責務を理解できる。 2. 医療機関と助産所における助産業務管理を理解できる。 3. 周産期医療における医療安全と危機管理対策を理解できる。							
到達目標		1. 法規に基づく助産師の責務を説明できる。 2. 周産期医療機関における助産業務管理を説明できる。 3. 助産所における助産業務管理を説明できる。 4. 周産期医療における医療事故、危機管理対策を説明できる。 5. 周産期医療における感染対策を説明できる。 6. 周産期医療における災害対策を説明できる。 7. 周産期医療における助産師の質の向上に必要な管理業務の課題を考察できる。							
成績評価方針 評 価 方 法 および基準		筆記試験：助産業務実践のために必要な知識について、また助産業務の実際と課題について、理解度を評価する。							
授業計画									
回	日付	授業項目・学習課題	学習内容・学習方法			授業外学習など	担当		
1	5. 10. 20 (金) 1	助産師の業務にかかわる法と責任	助産業務に関連する法規・女性や母子の支援にかかわる関係法規			日ごろから社会の動向に関心を持つように心がけてください。また、実習中に医療施設における管理業務に注意を払うことも重要です。	遠藤		
2	5. 10. 20 (金) 2	助産管理業務	リスクマネジメント、産科医療制度、医療事故、危機管理対策				遠藤		
3	5. 10. 27 (金) 1	医療機関における助産業務管理の実際①	人事・物品・経済・情報・時間管理、情報・記録の管理				スポット (済生病院)		
4	5. 10. 27 (金) 2	医療機関における助産業務管理の実際②	周産期病棟、外来、院内助産の管理、オープンシステム混合病棟の管理				スポット (済生病院)		
5	5. 11. 10 (金) 1	医療機関における助産業務管理の実際③	産科と他科の混合病棟の助産管理				スポット		
6	5. 11. 10 (金) 2	医療機関における助産業務管理の実際④	周産期医療センターの助産管理				スポット		
7	5. 11. 17 (金) 1	助産所の管理運営の実際	助産所の管理者・設備、嘱託医や医療機関との連携、分娩基準(オンライン)				スポット (武藤)		
8	5. 11. 17 (金) 2	周産期や母子の災害対策	災害対策・支援活動				スポット (山田)		
教科書 参 考 図 書		参考書 ・ 工藤美子責任編集：助産師基礎教育テキスト第1巻 助産学概論、日本看護協会出版会、最新版 ・ 成田伸責任編集：助産師基礎教育テキスト 第3巻 周産期における医療の質と安全、日本看護協会出版会、最新版 新版 助産師業務要覧 第3版基礎編、日本看護協会出版会、最新版 新版 助産師業務要覧 第3版実践編、日本看護協会出版会、最新版 新版 助産師業務要覧 第3版アドバンス編、日本看護協会出版会、最新版 その他、授業で随時提示します。							
履 修 上 の 注 意									
学 生 へ の メ ッ セ ー ジ		助産業務管理や看護管理は、管理職だけでなくすべての助産師・看護師が携わるものです。管理に関する知識を身につけて、一人の助産師としてどのように行動すべきかを考察してください。							
e-mail・研究室 (連 絡 先)		遠藤恵子：研究室 20 kendo@yachts.ac.jp							

授 業 科 目 名	学科 (科目区分)	担 当 教 員 職・氏名	必修・選 択の別	学年	開講 時期	単位 数	先修条件 指定科目	科目等 履修生
妊娠期助産実習	看護学科 (専門科目)	教 授・遠藤 恵子 准教授・菊地 圭子 助 教・渡邊 礼子 助 教・前田のぞみ	選択	3	後期	1	該当	否
授業概要	妊婦とその家族の健康生活を援助するために、助産診断・技術の原理と技法を基盤にした助産過程を展開し、助産師としての基礎的実践能力を教授する。							
一般目標	・妊婦とその家族の健康生活を援助するために、助産診断・技術の原理と技法を基盤にした助産過程を展開できる。 ・妊婦とその家族が安定した妊娠生活を維持し、分娩や育児の準備が円滑にすすむためのケアについて、助産師が果たすべき役割について考えることができる。							
到達目標	1. 対象者の価値観を看護ケアに反映できる。 2. 新生児に対して、人権を擁護する意識を持ちながら看護援助ができる。 3. 対象者と意思疎通を重ね信頼関係を築くための行動ができる。 4. 倫理観に基づき、学生としての立場で責任ある行動をとることができる。 5. 妊娠経過の診断および今後の妊娠経過の予測に必要な情報を適切な方法で収集できる。 6. 妊婦と胎児の現在の状態を診断できる。 7. 現在の妊娠経過から、今後の妊娠経過および分娩・産褥期におよぼす影響を予測できる。 8. 助産診断に基づき、安定した妊娠生活の維持に向けた援助を実施できる。 9. 助産診断に基づき、出産・育児準備および親役割準備に向けた援助を実施できる。 10. 妊娠経過を総括し、実施した助産過程を評価できる。 11. 妊婦と家族に対する助産師の役割について考察できる。 12. 看護チームの一員であることを自覚し、対象者から得た情報や自分の行動を指導者や教員に時期を逃さず報告・連絡できる。 13. より適切な援助を行うために、指導者や教員に時期を逃さず相談できる。 14. 対象の状況にあわせた適切で充実した看護ケアを目指し準備することができる。 15. 自分の行動を振り返り、課題の改善に向けた行動ができる。							
成績評価方針 評 価 方 法 および基準	実習評価表に示した項目と基準で、実習態度・実習の内容、記録から総合して評価する。							
授業計画								
回	日付	授業項目・ 学習課題	学習内容・学習方法			授業外学習など		
	6. 1.22 (月) ～ 6. 2.16 (金)		・妊婦健康診査、妊婦に対する基本的な保健指導、妊婦を継続的に受け持ち助産過程の展開 実習場所 県立中央病院、山形済生病院 実習内容、実習方法の詳細は、実習要項に提示する。			1月上旬に、妊婦に対する基本的な援助についての事前学習の提出を求める。		
教 科 書 参 考 図 書	必要なものを自分で準備すること							
履 修 上 の 注 意	以下の科目を修得しておくこと 看護学概論、基礎看護方法論Ⅰ、基礎看護方法論Ⅱ、看護倫理、看護理論、看護過程論、看護人間関係論、ヘルスアセスメント論、家族看護学、基礎看護学実習Ⅰ、基礎看護学実習Ⅱ、成人看護学概論、成人急性期看護方法論Ⅰ、成人慢性期看護方法論Ⅰ、成人急性期看護方法論Ⅱ、成人慢性期看護方法論Ⅱ、老年看護方法論、老年看護学実習Ⅰ、精神看護学概論、精神看護方法論、母性看護学概論、母性看護方法論Ⅰ、母性看護方法論Ⅱ、小児看護方法論、小児看護学実習Ⅰ、在宅看護概論、在宅看護方法論Ⅰ、在宅看護方法論Ⅱ、基礎助産、性と生殖、性と生殖の看護、妊娠期助産方法論							
学 生 へ の メ ッ セ ー ジ	助産学関係はもちろん、これまで学んだすべてのことを復習して実習に臨むこと 本科目は、教員と実習指導者（看護師等）による指導の下、病院（臨床）において妊婦に対する看護過程を展開する科目であり、高等教育の負担軽減制度の要件に定める「実務経験のある教員による科目」としています。							
e-mail・研究室 (連 絡 先)	遠藤：研究室 20 kendo@yachts.ac.jp、 菊地：研究室 5 kkikuchi@yachts.ac.jp 渡邊：第1共同研究室 rhiguchi@yachts.ac.jp 前田：第2共同研究室 nmaeda@yachts.ac.jp							

授 業 科 目 名		学科 (科目区分)	担 当 教 員 職・氏名	必修・選 択の別	学年	開講時期	単位 数	先修条件 指定科目	科目等 履修生
分娩期助産実習		看護学科 (専門科目)	准教授・菊地 圭子 教授・遠藤 恵子 助教・渡邊 礼子 助教・前田のぞみ	選択	4	前期	5	非該当	否
授業概要		分娩期にある母子とその家族に対して、分娩経過や分娩への適応状態を助産診断し、その助産診断に基づいた、正常分娩経過の維持、産婦と家族の満足かつ肯定的な出産体験に向けた援助のあり方を実習を通して教授する。							
一般目標		1. 分娩期の母子およびその家族の健康生活を支援するために助産過程を展開し、助産師としての基礎的実践能力を修得する。 2. 正常に経過している産婦の分娩介助を安全に行うために必要な助産診断および助産技術を修得する。 3. 母子とその家族の健康生活を援助するために助産師が果たすべき役割と責務について考察する。							
到達目標		分娩期における実践能力 1. 分娩進行に応じて、分娩経過の診断に必要な情報を適切に収集できる。 2. 対象者の情報を適切にアセスメントできる。 3. 分娩期にある対象者の個別性と分娩経過をふまえた助産計画を立案できる。 4. 分娩進行に伴って変化する産婦と胎児の生理的経過に応じて、正常分娩経過の維持に向けた援助ができる。 5. 実践した援助を適切に評価し、また、分娩進行や対象者の状況の変化に応じて、助産計画を適宜修正できる。 6. 正常分娩経過において安全に分娩介助ができる。 7. 産婦と家族にとって望ましい出産体験に向けた援助ができる。 8. 正常分娩経過からの逸脱時における助産師の役割について考察できる。 ヒューマンケアの基本に関する実践能力 1. 対象者の価値観を把握し助産ケアに反映できる。 2. 対象者と意思疎通を重ね信頼関係を築くための行動がとれる。 3. 倫理観に基づき、学生としての立場で責任ある行動がとれる。 看護チームにおける協働・連携に関する能力 1. 看護チームの一員であることを自覚し、対象者から得た情報や自分の行動を指導者や教員に時期を逃さず報告・連絡できる。 2. 対象者に、より適切な援助を行うために、指導者や教員に時期を逃さず相談できる。 看護実践を通して研鑽する基本能力 1. 対象の状況にあわせた適切で充実した看護ケアを目指し準備することができる。 2. 自分の行動を振り返り、課題の改善に向けた行動ができる。							
成績評価方針 評価方法 および基準		分娩期の看護を実践した 10 例のうち、産褥・新生児期の看護過程を展開した事例以外について、分娩期助産実習評価表に基づき、実習終了時点で評価する。							
授業計画									
回	日付	授業項目・学習課題	学習内容・学習方法			授業外学習など		担当	
	5. 6. 26 (月) ～ 5. 8. 10 (木)		・ 分娩期の産婦、胎児および家族に関する助産過程を展開する。 ・ 正常経過にある産婦の分娩介助を行う。 実習場所 県立中央病院，県立新庄病院， 山形済生病院，米沢市立病院， 公立置賜総合病院，日本海総合病院， 山形市立病院済生館 実習内容、実習方法、実習配置の詳細は、 助産学実習要項に提示する。			・ 助産学はもちろん、これまで学んだすべてのことを復習して実習に臨むこと。 ・ 適切な看護が提供できるよう、自分自身が行った看護に対する対象者の言語的・非言語的反応を含めて、看護の振り返りを適切に行う。 ・ 看護の振り返りは教員、実習指導者、他の学生と共にする場合もある。		菊地 遠藤 渡邊 前田	
教科書 参考図書		助産学に関連する授業で使用了参考書など、必要なものを自分で準備すること							
履 修 上 の 注 意		実習開始までに、分娩期の助産診断技術（分娩介助技術を含む）の自主トレーニングを確実にに行い、提示された到達目標に達しておくこと。							

学 生 へ の メ ッ セ ー ジ	分娩産褥期助産実習も含め長期間にわたる実習であり、分娩期の実習は、受け持ち産婦の状況等により実習が夜間・休日に及ぶこともあります。貴重な学習のチャンスですが、自分の健康管理にも十分留意してください。 本科目は、教員と実習指導者（看護師、助産師等）の指導の下、病院（臨床）において分娩期の妊婦に対して看護過程を展開する科目であり、高等教育の負担軽減制度の要件に定める「実務経験のある教員による科目」としています。
e-mail・研究室 （ 連 絡 先 ）	菊地：研究室 5 kkikuchi@yachts.ac.jp 遠藤：研究室 20 kendo@yachts.ac.jp 渡邊：第1共同研究室 rhiguchi@yachts.ac.jp 前田：第2共同研究室 nmaeda@yachts.ac.jp

授 業 科 目 名	学科 (科目区分)	担 当 教 員 職・氏名	必修・選 択の別	学年	開講時期	単位 数	先修条件 指定科目	科目等 履修生
分娩産褥期助産 実習	看護学科 (専門科目)	准教授・菊地 圭子 教 授・遠藤 恵子 助 教・渡邊 礼子 助 教・前田のぞみ	選択	4	前期	2	非該当	否
授業概要	分娩期にある母子とその家族に対して、分娩経過や分娩への適応状態を助産診断し、その助産診断に基づいた、正常分娩経過の維持、産婦と家族の満足かつ肯定的な出産体験に向けた援助のあり方を実習を通して教授する。また、産褥・新生児期の継続受け持ち実習を通して、褥婦と新生児、その家族に対する助産過程の展開、正常な産褥期・新生児期経過の維持・促進、親役割獲得、親子・家族関係形成に向けた援助のあり方を教授する。							
一般目標	1. 分娩期および産褥・新生児期の母子とその家族の健康生活を支援するために助産過程を展開し、助産師としての基礎的実践能力を修得する。 2. 正常に経過している産婦の分娩介助を安全に行うために必要な助産診断および助産技術を修得する。 3. 母子とその家族の健康生活を援助するために助産師が果たすべき役割と責務について考察する。							
到達目標	分娩・産褥・新生児期における実践能力 1. 分娩進行に応じて、分娩経過の診断に必要な情報を適切に収集できる。 2. 対象者の情報を適切にアセスメントできる。 3. 分娩期にある対象者の個別性と分娩経過をふまえた助産計画を立案できる。 4. 分娩進行に伴って変化する産婦と胎児の生理的経過に応じて、正常分娩経過の維持に向けた援助ができる。 5. 正常分娩経過において安全に分娩介助ができる。 6. 褥婦および新生児の経過の診断および今後の予測に必要な情報を適切に収集できる。 7. 妊娠経過および分娩経過をふまえ、褥婦の身体的回復状態および心理・社会的状態を診断できる。 8. 出生児を迎えた生活環境・生活背景・家族の役割変化や役割形成について、アセスメントできる。 9. 産褥早期の褥婦および新生児の身体的・心理的・社会的状態をふまえた看護計画を立案できる。 10. 立案した看護計画に沿って、母子の状態に応じた援助を実施するために調整できる。 11. 実施した援助を適切に評価し、看護計画を適宜修正できる。 12. 対象者の個別性をふまえた保健指導を計画・実施できる。 13. 対象者に合わせた家族計画の支援について考えることができる。 14. 産婦と家族にとって望ましい出産体験に向けて、分娩入院時から退院後まで、継続的な援助ができる。 15. 正常経過からの逸脱時における看護、助産師の役割について考察できる。 16. 産褥期における母子と家族に対する助産師の役割について考察できる。 ヒューマンケアの基本に関する実践能力 1. 対象者の価値観を把握し助産ケアに反映できる。 2. 対象者と意思疎通を重ね信頼関係を築くための行動がとれる。 3. 倫理観に基づき、学生としての立場で責任ある行動がとれる。 看護チームにおける協働・連携に関する能力 1. 看護チームの一員であることを自覚し、対象者から得た情報や自分の行動を指導者や教員に時期を逃さず報告・連絡できる。 2. 対象者に、より適切な援助を行うために、指導者や教員に時期を逃さず相談できる。 看護実践を通して研鑽する基本能力 1. 対象の状況にあわせた適切で充実した看護ケアを目指し準備することができる。 2. 自分の行動を振り返り、課題の改善に向けた行動ができる。							
成績評価方針 評 価 方 法 および基準	産褥・新生児期の看護過程を展開した事例について、分娩産褥期助産実習評価表に基づき、実習終了時点で評価する。							
授業計画								
回	日付	授業項目・学習課題	学習内容・学習方法			授業外学習など		担当
	5. 6. 26(月) ～ 5. 8. 10(木)		・ 分娩期の産婦、胎児および家族に関する助産過程を展開する。 ・ 正常経過にある産婦の分娩介助を行う。 ・ 褥婦、新生児および家族に関する助産過程を展開する。 実習場所 県立中央病院, 県立新庄病院, 山形済生病院, 米沢市立病院, 公立置賜総合病院, 日本海総合病院, 山形市立病院済生館 実習内容、実習方法、実習配置の詳細は、助産学実習要項に提示する。			・ 助産学はもちろん、これまで学んだすべてのことを復習して実習に臨むこと。 ・ 適切な看護が提供できるよう、自分自身が行った看護に対する対象者の言語的・非言語的反応を含めて、看護の振り返りを適切に行う。 ・ 看護の振り返りは教員、実習指導者、他の学生と共に行う場合もある。		菊地 遠藤 渡邊 前田

教科書 参考図書	助産学に関連する授業で使用した参考書など、必要なものを自分で準備すること
履修上の注意	実習開始までに、分娩期の助産診断技術（分娩介助技術を含む）の自主トレーニングを確実にを行い、提示された到達目標に達しておくこと。
学生への メッセージ	分娩期助産実習から継続する長期間にわたる実習であり、分娩期の実習は、受け持ち産婦の状況等により実習が夜間・休日に及ぶこともあります。貴重な学習のチャンスですが、自分の健康管理にも十分留意してください。 本科目は、教員と実習指導者（看護師、助産師等）の指導の下、病院（臨床）において分娩・産褥・新生児期の母子に対して看護過程を展開する科目であり、高等教育の負担軽減制度の要件に定める「実務経験のある教員による科目」としています。
e-mail・研究室 （連絡先）	菊地：研究室 5 kkikuchi@yachts.ac.jp 遠藤：研究室 20 kendo@yachts.ac.jp 渡邊：第1共同研究室 rhiguchi@yachts.ac.jp 前田：第2共同研究室 nmaeda@yachts.ac.jp

授 業 科 目 名		学科 (科目区分)	担 当 教 員 職・氏名	必修・選 択の別	学年	開講時期	単位 数	先修条件 指定科目	科目等 履修生
成人看護学概論		看護学科 (専門科目)	教授・遠藤 和子	必修	2	前期	1	非該当	可
授業概要	成人とはどのような人かを成人各期の特徴から理解し、生活との関連から成人の健康を概観する。対象特性と社会の変化の中で生きる成人を対象とする看護実践に必要な理論および看護の機能について、臨床現場の問題と結び付けて学習する。								
一般目標	・ ライフステージの特徴を理解し、生活過程から生じる健康上の問題を理解する。 ・ 健康の良い状態から病気に至る過程を、発達段階や生活過程との関係で考える。 ・ 生命力を脅かす諸要因とその特徴を理解し、回復を促進させる生活調整について考える。								
到達目標	①成長発達段階における成人の位置づけを説明することができる。 ②成人各期の特徴と健康問題を説明することができる。 ③成人期の生活ストレスと健康障害の関連を述べることができる。 ④セルフケア/自己効力理論について説明することができる。 ⑤代表的な危機理論と適応理論について説明することができる ⑥人生移行とゆらぎ、成人期の健康問題の関連について説明することができる。 ⑦学習者としての成人を理解し、保健行動の特徴と健康観との関連について述べることができる。 ⑧障がいの受容に関する理論について概説することができる。 ⑨「病みの軌跡」という考え方と看護への活用について説明することができる。								
成績評価方針 評 価 方 法 および基準	基本方針： ・ 定期試験 1 回 70%：到達目標を達成しているかどうかで判断します。 ・ 授業内小テストまたはレポート 20%：課題に対する知識、自身の考えが盛り込まれているかどうかを評価の基準とします。 ・ 授業内での発言 10%：授業への参加、事前学習の準備状況を評価の基準とします。								
授業計画									
回	日付	授業項目・学習課題	学習内容・学習方法			授業外学習など		担当	
1	5. 5. 29 (月) 4	成人看護学の対象	成人の定義、発達・役割、身体機能の特徴			事前に該当箇所の教科書を読み、日常的な社会生活で生活者としての問題意識を大事にして授業に臨んでください。 授業で扱うテーマについては、基本的な情報や体系づけられた知識を踏まえて自分なりの見解が導き出せるように、復習を丁寧に行ってください。		遠藤 (和)	
2	5. 6. 5 (月) 4	成人の生活と健康	生活者の概念、成人各期の健康、健康観と保健行動、						
3	5. 6. 12 (月) 4	セルフケアと自己効力	自立、セルフケアの概念、自己効力						
4	5. 6. 19 (月) 4	危機と適応	危機理論、適応理論						
5	5. 6. 26 (月) 4	人生移行とゆらぎ	自己概念、自尊感情、セクシュアリティ、更年期						
6	5. 7. 3 (月) 4	成人学習と健康教育	学習と教育 アンドラゴジー、行動変容、セルフマネジメント、セルフモニタリング						
7	5. 7. 10 (月) 4	障害受容 希望と苦悩	障害受容論、意思決定支援 病気体験における希望と苦悩						
8	5. 7. 24 (月) 4	病みの軌跡 ライフストーリー	病みの軌跡という考え方 ライフストーリー						
教 科 書 参 考 図 書		教 科 書：成人看護学概論（メディカ出版）第2回は国民衛生の動向を持参してください。 経過別成人看護学3 慢性期看護 メヂカルフレンド社 6・7回目持参してください。 参考図書：成人看護学概論（ヌーベルヒロカワ） 系統看護学講座／成人看護学概論（医学書院） その他、授業の中で紹介します。							
履 修 上 の 注 意		この授業科目は、①急性期看護学実習、②慢性看護学実習、③老年看護学実習、④精神看護学実習、⑤母性看護学実習、⑥小児看護学実習Ⅱ、⑦訪問看護実習、⑧地域包括支援実習、⑨周産期生活支援実習においてあらかじめ修得しておかなければならない科目に指定されています。							
学 生 へ の メ ッ セ ー ジ		社会に関心を向けて、現代を生きることと医療、看護の役割を考えていきましょう。							
e-mail・研究室 (連 絡 先)		遠藤和子：研究室 13 kaendo@yachts.ac.jp							

授 業 科 目 名		学 科 (科目区分)	担 当 教 員 職・氏名	必修・選 択の別	学年	開講 時期	単位 数	先修条件 指定科目	科目等 履修生
急性期看護方法論Ⅰ		看護学科 (専門科目)	准教授・片桐 智子 助 教・丸山 香織	必修	2	後期	1	非該当	否
授業概要	急激な健康の破綻により、薬物療法や手術療法などの積極的な治療を必要とする人々およびその家族への看護の必要性を認識し、対象に働きかけるための看護の方法論を教授する。								
一般目標	・積極的な治療を必要とする対象とそのおかれた状況を理解することができる。 ・積極的な治療が適切かつ安全に行われるための看護方法を理解することができる。 ・積極的な治療が必要な対象の状況から必要な看護援助を判断することができる。 ・麻酔や手術による生体への影響と身体の変化に伴う看護方法を理解することができる。 ・集中治療をうける対象の状況を看護の視点で理解することができる。								
到達目標	・急性期看護の対象の特徴および状況を説明できる。 ・急性期の看護場面におけるストレスと生体反応について説明できる。 ・麻酔/手術が生体に及ぼす身体内部の変化を看護の視点から説明できる。 ・術後の生体反応と回復過程を看護の視点で説明できる。 ・術後の合併症予防、心身の苦痛を軽減するための看護方法を説明できる。 ・急性期にある対象の病態/疾病の特徴を看護の視点で説明できる。 ・急性期にある対象の疾患に特徴的な治療/検査等を看護の視点で説明できる。 ・急性期にある対象の事例を通して、必要な看護方法を説明できる。 ・集中治療室における対象の心身のアセスメント・全身管理・日常生活援助について述べることができる。 ・循環器系、呼吸器系、感覚器系、栄養/代謝系、泌尿器系、骨・運動器系器官の機能、対象のアセスメント・日常生活への援助について述べるができる。								
成績評価方針 評 価 方 法 および基準	方針：授業の中間（1回目）および終了後（2回目）に試験を行います。 方法：定期試験 80％（授業の中間および終了後）。中間試験は 9 回目の授業後に実施するが、6 回以上出席しなければ受験することができない。中間試験以降 15 回目終了後の期末試験は、4 回以上出席しなければ受験することができない。 その他 20％（課題、授業に臨む姿勢など） 基準：積極的な治療を必要とする人々がおかれた心身の状況、およびそれらに対する看護の必要性が認識できているかを評価する。								
授業計画									
回	日付	授業項目・学習課題	学習内容・学習方法			授業外学習など		担当	
1	5. 9. 25（月）4	○急性期の看護 ・急性期あるいは急性期という健康状態 ・急性期にある人の身体的側面、他	講義：教科書(急)p4-31 他 ・「急性期」の定義 ・急性期にある患者の特徴 ・生命の維持、悪化防止 ・苦痛の緩和など			・成人老年期の特性・役割・機能・健康上の問題などを復習して授業に臨むこと。		片桐	
2	5. 10. 2（月）4	○周手術期看護① ・周手術期の特徴、術前患者の心理/身体的側面	講義：教科書(周)p14-100 ・「周手術期」の定義 ・術前アセスメント、合併症予防対策など			・問答・対話を多く取り入れた参加型講義を行う。		片桐	
3	5. 10. 16（月）4	○周手術期看護② ・麻酔/手術中の患者の状態、手術中の看護	講義：教科書(周)p101-128 ・手術中の看護 ・麻酔と看護、手術室での事故防止策など			・ストレス理論・心理学などの知識を確認して授業に臨むこと。		片桐	
4	5. 10. 23（月）4	○周手術期看護③ ・手術侵襲による生体反応、患者の心身の苦痛	講義：教科書(周)p129-176 ・手術侵襲による患者の生体反応 ・術直後の心身の苦痛への看護方法			・各疾病の特徴・検査・症状・治療法に関する知識（解剖・生理）を確認して授業に臨むこと。		片桐	
5	5. 10. 30（月）4	○周手術期看護④ ・合併症予防、日常生活への看護、継続的な看護	講義：教科書(周)p177-208 ・各合併症予防のための看護方法 ・日常生活行動拡大に向けての看護方法、継続的な看護など					片桐	

6	5.11. 6 (月) 4	○栄養摂取/消化・代謝機能障がいのある患者の看護① ・疾患の理解と患者の看護	講義：教科書(急)p149-163、173、174 (周) p296-308、177-185 ・消化器、胃がん 腸閉塞 他		丸山
7	5.11.13 (月) 4	○栄養摂取/消化・代謝機能障がいのある患者の看護② ・疾患の理解と患者の看護	講義：教科書(周) p347-358、302、 (急) p164-173、352-355 ・内視鏡補助下手術 ・肝臓・胆嚢・膵臓の腫瘍 他		丸山
8	5.11.20 (月) 4	○栄養摂取/消化・代謝機能障がいのある患者の看護③ ・疾患の理解と患者の看護	講義：教科書(周) p383-392、(急) p160-162 ・食道がん ・大腸がん/人工肛門造設術 他		丸山
9	5.11.27 (月) 4	○循環機能に障がいのある患者の看護 ・疾患と治療、患者の理解	講義：教科書(急)p91-116、p195-206、 (周)p274-285 ・循環機能に障がいのある患者の看護、 急性心筋梗塞、他		片桐
10	5.12. 4 (月) 4	○呼吸機能に障がいのある患者の看護① ・疾患の理解と患者の看護	講義：教科書(急)p36-40、(周)p286-295 ・呼吸機能に障がいのある患者の看護、 肺がん、他		片桐
11	5.12.11 (月) 4	○呼吸機能に障がいのある患者の看護② ・ICUにおける患者の看護	講義：教科書(急)p36-40、(周)p286-295 ・人工呼吸器を装着した患者への支援		片桐
12	5.12.18 (月) 4	○感覚器系に障がいのある患者の看護 ・疾患の理解と患者の看護	講義：教科書(周)p336-347 ・頭頸部に障がいのある患者の看護、 甲状腺がん、他		片桐
13	5.12.25 (月) 4	○骨・運動器に障がいのある患者の看護 ・疾患と治療の理解 ・手術を受ける患者の看護	講義：教科書(周)p327-335、他 ・骨/運動機能に障がいのある患者の状 況、変形性膝関節症、他		片桐
14	6. 1.15 (月) 4	○排泄機能(排尿)に障がいのある患者の看護 ・疾患・治療の理解 ・手術を受ける患者の看護	講義：教科書(急)p176-195、261-282 ・体液調整 ・排泄(排尿)機能に障がいのある患 者の看護 前立腺がん、他		丸山
15	6. 1.22 (月) 4	○乳腺に障がいのある患者の看護 ・疾患の理解と患者の看護	講義：教科書(周)p309-316、他 ・乳がんの手術を受ける患者の看護		丸山
教 科 書 参 考 図 書		教科書：急性期看護論・周手術期看護論(ヌーヴェルヒロカワ) 参考図書：ナースが見る人体・ナースが見る病気(講談社)、看護学原論講義(現代社)、成人看護学④周手術期看護(メディカ出版)など			
履 修 上 の 注 意		急激な健康の破綻により薬物療法や手術療法などの医療を必要とする対象の看護を教授するが、事前にその病態を自己学習して臨むこと。事前に与えられた課題に取り組んだ後授業に臨むこと。 この授業科目は、①急性期看護学実習、②慢性看護学実習、③老年看護学実習、④精神看護学実習、⑤母性看護学実習、⑥小児看護学実習Ⅱ、⑦訪問看護実習、⑧地域包括支援実習、⑨周産期生活支援実習においてあらかじめ修得しておかなければならない科目に指定されています。			
学 生 へ の メ ッ セ ー ジ		解剖、生理、病態など、既習の知識に対し授業中質問しながら進めるので、予習が前提となります。一部の疾患をもつ患者の看護(事例による学習)は、急性期看護方法論Ⅱで学習します。生命の危機的状況にある患者とは、また、どうかかわることが看護なのか、履修するみなさん自身が「看護するためのアタマ作りをする」という姿勢で授業に臨んでください。			
e-mail・研究室 (連 絡 先)		片桐：研究室4 tkatagiri@yachts.ac.jp 丸山：第2共同研究室 kmaruyama@yachts.ac.jp			

授 業 科 目 名		学 科 (科目区分)	担 当 教 員 職・氏名	必修・選 択の別	学年	開講 時期	単位 数	先修条件 指定科目	科目等 履修生
成人急性期看護方法論Ⅱ		看護学科 (専門科目)	准教授・片桐 智子 助 教・丸山 香織	必修	3	前期	1	非該当	否
授業概要		急激な健康の破綻により、薬物療法や手術療法などの積極的な治療を必要とする成人期にある人々およびその家族への看護の必要性を認識し、事例を用い対象に働きかけるための看護実践方法論を教授する。							
一般目標		・積極的な治療を必要とする対象の心身の状況をイメージすることができる。 ・積極的な治療により対象が生命の危機状況を乗り越えるための看護方法をイメージできる。 ・積極的な治療が必要な対象の状況から必要な看護援助を判断することができる。 ・事例検討を通して、文献やグループ討議を活用し、対象の全体像・立体像を作成することができる。 ・対象のデータや状況の意味を的確に判断し、必要な看護援助を実施することができる。							
到達目標		・急性期看護の対象の特徴を説明できる。 ・急性期・周手術期におけるストレスと生体反応について説明できる。 ・麻酔/手術が対象の身体内部に及ぼす影響、および対象に必要な看護を述べることができる。 ・術後の合併症予防、心身の苦痛を軽減するための看護方法を説明できる。 ・術後の生体反応と回復過程を看護の視点で説明できる。 ・生命の危機状況にある対象の病態、疾病の特徴・治療等を看護の視点で説明できる。 ・生命の危機状況にある対象に必要な日常生活援助を含む看護方法を根拠とともに説明できる。 ・対象の事実から、対象の全体像と立体像をグループメンバーと討議し作成することができる。 ・対象の心身に起こっている事実について、知識に基づき分析した過程を論理的に表現できる。 ・看護問題を明確化し、患者にとって到達可能な目標を設定し表現することができる。							
成績評価方針 評 価 方 法 および基準		方針：課題、事例検討の成果（全体像・立体像）、授業に臨む姿勢などで評価する。 方法：課題、事例検討の成果（全体像・立体像）80％ その他 20％（授業に臨む姿勢、など） 基準：積極的な治療を必要とする人の心と身体の状況の理解、およびそれらに対する看護の必要性が認識できているかを評価する。							
授業計画									
回	日付	授業項目・学習課題	学習内容・学習方法	授業外学習など	担当				
1 ・ 2	5. 4. 10（月）4 5. 4. 10（月）5	○急性期・周手術期にある患者の事例検討について ・急性期・周手術期の患者の看護問題解決・人間関係形成のための思考および看護方法	講義：看護学原論講義 p. 25-159 ・急性期・周手術期の事例を用いた患者の全体像・立体像の描き方と看護方法を検討するための方法についての説明。 ・演習のスケジュールや課題についての説明。	・各疾病の特徴・検査・症状・治療法に関する知識（解剖・生理）を確認して授業に臨むこと。 ・教員に指示された課題を予習してから授業に出席すること。 ・グループ学習では、指定された教科書だけでなく、必要な文献を持参し討議すること。	片桐 丸山				
3 ・ 4	5. 4. 17（月）4 5. 4. 17（月）5	○栄養摂取・消化機能障がいにより手術を受ける患者への侵襲と回復過程への援助（事例検討）	グループ学習：事例を用い、下部消化管の手術を受ける患者に必要な全体像・立体像の描き方と看護方法を検討する。	・グループ学習では、意見の意味内容がわかるよう頭を働かせて発言し、人の意見にはよく耳を傾け発言内容を聞き取ること。 ・グループ学習および演習は、成人看護学演習室で行う。	（事） 片桐 丸山				
5 ・ 6	5. 4. 24（月）4 5. 4. 24（月）5	○肺葉切除術を受ける患者への侵襲と回復過程への援助（事例検討）	グループ学習：事例を用い、肺葉切除術を受ける患者に必要な全体像・立体像の描き方について検討する。		（事） 片桐 丸山				

7 ・ 8	5. 5. 1 (月) 4 5. 5. 1 (月) 5	○肺葉切除術を受ける患者への侵襲と回復過程への援助(事例検討)	グループ学習: 事例を用い、肺葉切除術を受ける患者に起きている現象についての看護過程を検討する。		(事) 片桐 丸山
9 ・ 10	5. 5. 8 (月) 4 5. 5. 8 (月) 5	○人工膝関節置換術を受ける患者への侵襲と回復過程への援助(事例検討)	グループ学習: 事例を用い、人工膝関節置換術を受ける患者に必要な全体像・立体像の描き方について検討する。		(事) 片桐 丸山
11 ・ 12	5. 5. 15 (月) 4 5. 5. 15 (月) 5	○人工膝関節置換術を受ける患者への侵襲と回復過程への援助(事例検討)	グループ学習: 事例を用い、人工膝関節置換術を受ける患者に起きている現象についての看護過程を検討する。		(事) 片桐 丸山
13 ・ 14 ・ 15	5. 5. 22 (月) 3 5. 5. 22 (月) 4 5. 5. 22 (月) 5	○術前および術中の患者に必要なかつ最適な看護方法の具体について学ぶ。 ○術後の患者に必要なかつ最適な看護方法の具体について学ぶ。	[演習1] 術前指導、全身麻酔時の看護、気管挿管の介助、ガウンテクニックなど [演習2] 手術直後の観察、離床への援助、急変時の一次救命処置 など		(演) 丸山 片桐 (演) 丸山 片桐
教科 参 考 図 書	教科書: 看護学原論講義(現代社) 参考図書: 急性期看護論・周手術期看護論(ヌーヴェルヒロカワ)、ナースが見る人体・ナースが見る病気(講談社)など				
履 修 上 の 注 意	急激な健康の破綻により薬物療法や手術療法などの医療を必要とする対象の看護を教授するが、事前にその病態を自己学習して臨むこと。事前に与えられた課題に取り組んだ後授業に臨むこと。この授業科目は、①成人急性期看護学実習、②成人慢性期看護学実習、③老年看護学実習Ⅱ、④精神看護学実習、⑤母性看護学実習、⑥小児看護学実習Ⅱ、⑦在宅訪問看護実習、⑧在宅看護連携実習、⑨妊娠期助産実習においてあらかじめ修得しておかなければならない科目に指定されています。				
学 生 へ の メ ッ セ ー ジ	解剖、生理、病態など、既習の知識に対する予習を前提に、授業を展開します。危機的状況にある患者にどうかかわることが看護なのか、履修するみなさん自身が「看護するためのアタマ作りをする」という姿勢で主体的に授業に臨んでください。				
e-mail・研究室 (連絡先)	片桐: 研究室4 tkatagiri@yachts.ac.jp 丸山: 第2共同研究室 kmaruyama@yachts.ac.jp				

授 業 科 目 名		学科 (科目区分)	担 当 教 員 職・氏名	必修・選 択の別	学年	開講時期	単位 数	先修条件 指定科目	科目等 履修生
慢性看護方法論Ⅰ		看護学科 (専門科目)	教授・遠藤 和子 講師・山田カオル 助教・富樫 理恵	必修	2	後期	1	非該当	否
授業概要		既習の疾病・病態の知識をもとに、慢性疾患・長期的な健康障がいのある人の特徴を理解し、対象となる人が良好な健康状態を回復・維持していくための、看護援助の方法論を学びます。特に対象理解とアセスメント力をつけることを重視します。本科目は、成人看護学概論での内容を基盤とし、慢性期看護方法論Ⅱおよび慢性看護学実習につながる科目です。							
一般目標		1. 慢性的な病や障がいとともにある人の身体的・心理的・社会的特徴を理解する 2. 慢性的な病や障がいに特徴的な疾患の病態・検査・治療を理解した上で、科学的根拠に基づく具体的な支援方法を理解する							
到達目標		①慢性的な病として特徴的な疾患と治療・看護のポイントを説明できる ②慢性的な病とともにある人・家族の健康問題について情報整理、アセスメントできる ③慢性的な病と共にある人・家族に特徴的な看護方法について説明できる ④がんの診断・検査・治療を理解した上で、がんとともに生きる人・家族の苦痛の緩和について説明でき							
成績評価方針 評 価 方 法 および基準		・ 定期試験 1 回 45%：到達目標を達成しているかどうかで判断します。 ・ 授業内小テストまたはレポート 45%：課題に対する知識、自身の考えが盛り込まれているかどうかを評価の基準とします。 ・ 授業内での発言 10%：授業への参加、事前学習の準備状況の評価の基準とします。 ※定期試験、レポート・授業参加、学習態度等によって総合的に評価します。							
授業計画									
回	日付	授業項目・学習課題	学習内容・学習方法			授業外学習など		担当	
1	5.10. 5 (木) 1	病や障がいとともに生活する人・家族のアセスメント	ガイダンス 病む人と共に生きる人の理解			免疫と微生物、成人老年疾病論Ⅱ、成人老年疾病論Ⅰの復習をして授業に臨む	遠藤 (和)		
2	5.10.19 (木) 1		慢性・回復期にある人のケア						
3	5.10.26 (木) 1		セルフマネジメント 学習と教育						
4	5.11. 2 (木) 1		看護過程 循環器機能障がいのある人・家族への看護				遠藤 (和) 富樫		
5	5.11. 9 (木) 1		事例展開：慢性心不全						
6	5.11.17 (金) 1		呼吸器機能障がいのある人・家族への看護				山田		
7	5.11.17 (金) 2		事例展開：慢性閉塞性肺疾患(COPD)						
8	5.11.24 (金) 1		栄養摂取・消化器機能障がいのある人・家族への看護				山田		
9	5.11.24 (金) 2		事例展開：肝炎・肝硬変						
10	5.12. 1 (金) 1	病や障害とともに生活する人の学習支援	病態栄養・食事療法(DM、腎、心) 塩分、kcal バランス、タンパク質				遠藤 (和) 富樫		
11	5.12. 1 (金) 2		運動療法 腎リハ、心リハ						
12	5.12. 8 (金) 2		糖尿病看護				遠藤 (和)		
13	5.12.15 (金) 2		糖尿病看護 患者教育						
14	6. 1.12 (金) 1	がんとともに生きる人・家族への看護	・がんの診断、治療の特殊性 ・治療継続のためのマネジメント			がんとともに生きる人の体験記を 1 冊は読んでから授業に臨む	スポッ ット (神谷)		
15	6. 1.12 (金) 2		・痛み、嘔気・嘔吐、呼吸困難の治療とケア ・緩和ケア				スポッ ット (神谷)		
教 科 書 参 考 図 書		教科書：経過別成人看護学3 慢性期看護 メヂカルフレンド社 参考書：講義の中で適宜紹介します がん患者さんの体験として、◎絵門ゆう子：がんと一緒にゆっくりと、新潮社。 ◎山崎多賀子：「キレイに治す乳がん」宣言！ 光文社。 ◎毎日新聞生活報道部：乳がんと生きる、毎日新聞出版 他に、立花隆：がん生と死の謎に挑む(NHK スペシャル)など							

履 修 上 の 注 意	各授業で事例を用いて段階的に看護展開を行います。講義はアセスメントを中心に実際の臨床現場に即しており、実務に就いている実習指導者も担当する科目となっているため、予習と復習をしっかりと行い深めてください。 毎回、minute paper を用いて理解と参加状況を把握します。 この授業科目は、①急性期看護学実習、②慢性看護学実習、③老年看護学実習、④精神看護学実習、⑤母性看護学実習、⑥小児看護学実習Ⅱ、⑦訪問看護実習、⑧地域包括支援実習、⑨周産期生活支援実習においてあらかじめ修得しておかなければならない科目に指定されています。
学 生 へ の メ ッ セ ー ジ	これまでの既習講義・実習で得た知識を想起しながら、主体的に授業に参加することと、授業後のノート整理をしっかりとしておくことが理解が深まります。
e-mail・研究室 (連 絡 先)	遠藤和： 研究室 13 kaendo@yachts.ac.jp 山 田： 研究室 33 kaoyamada@yachts.ac.jp 富 樫： 第 1 共同研究室 rtogashi@yachts.ac.jp

授 業 科 目 名		学科 (科目区分)	担 当 教 員 職・氏名	必修・選 択の別	学年	開講時期	単位 数	先修条件 指定科目	科目等 履修生
成人慢性期看護方法論Ⅱ		看護学科 (専門科目)	教授・遠藤 和子 講師・山田カオル 助教・富樫 理恵	必修	3	前期	1	非該当	否
授業概要		生涯を通してコントロールを必要とする成人が良好な健康状態を回復・維持していくために必要な看護方法について学ぶ。事例を通して、科学的根拠に基づく適切な判断に必要な看護技術や知識を習得し、ロールプレイを用いた演習により、実践に活かすための応用力を養う。 本科目は、成人看護学概論・成人慢性期看護方法論Ⅰの内容を基盤とし、成人慢性期看護学実習につながる科目である。							
一般目標		1. 慢性的な病と共にある人の意思決定、人権擁護について理解する 2. 慢性的な病と共にある人の自己管理への取り組みを支援する看護方法を理解する 3. 看護過程を用いて慢性的な病（がん）と共にある人の援助について理解する							
到達目標		①慢性的な病と共にある人の意思決定の支援、および、人権を擁護する態度・行動について自己の考えを説明することができる ②慢性的な病と共にある人の自己管理に必要な知識、技術について説明できる ③シリンジおよびペン型インスリン注射、自己血糖測定器を用いた血糖値の測定ができる ④糖尿病の事例を用いて、資料・文献を検索し活用することで、効果的な患者教育の内容を説明することができる ⑤患者教育の技術の要点について説明することができる ⑥紙上患者を用いて、がんと共にある人の看護過程が展開できる。 ・資料、文献を検索し、活用することで看護の根拠を説明できる ・グループで検討し、看護計画を立案できる ・グループで考えた援助を実施することができる ⑦検討会では、グループで考えた紙上患者の看護援助を他者に伝え、他者の考えを聞くことができる ⑧検討会では、他グループの実施する看護援助について吟味し、自らの考えを説明できる ⑨自他の意見を踏まえて、よりよい看護計画を立案することができる ⑩グループワーク・実技演習に主体的に参加できる							
成績評価方針 評 価 方 法 および基準		・筆記試験（50%）：到達目標の達成度を判断します ・記録用紙、レポート(20%)：指定の様式の順守と、到達目標の達成度を判断します ・グループワーク参加・学習態度(30%)：実技の評価は演習中に行います ※筆記試験、レポート・授業参加、学習態度等によって総合的に評価します							
授業計画									
回	日付	授業項目・学習課題	学習内容・学習方法			授業外学習など		担当	
1	5. 5. 17 (水) 2	ガイダンス 慢性期看護援助の考え方	＜講義＞ 慢性看護方法論Ⅱの進め方 慢性的な病と共にある人の人権・アドボカシー			既習の実習経験を想起しながら参加すること		遠藤和	
2	5. 5. 24 (水) 2	病や障がいとともに生活している人・家族への看護	＜講義＞ セルフマネジメントを支援するための理論・概念 コンプライアンス・アドヒアランス 症状マネジメント他			成人看護学概論のテキストも活用すること		遠藤和	
3	5. 5. 31 (水) 1		＜講義＞ 栄養摂取・代謝障がいのある人・家族への看護 事例展開：糖尿病			GWに必要な資料・文献などを検索して準備し、活用すること		遠藤和	
4	5. 5. 31 (水) 2		＜演習＞ 事例展開：糖尿病					山田 遠藤和	
5	5. 6. 7 (水) 1		＜講義＞ 患者教育（個別・集団） 食事療法					遠藤和	
6	5. 6. 7 (水) 2		＜演習＞ インスリン注射、自己血糖測定			演習は、薬品および針を扱うので適度に緊張して参加すること。教員の指示を遵守すること		山田 富樫 遠藤和 スポット	

7	5. 6. 14 (水) 1		<演習 GW> 患者教育演習 事例展開：糖尿病（個別）		山田 富樫 遠藤和
8	5. 6. 14 (水) 2		<演習> 患者教育計画 検討会		
9	5. 6. 21 (水) 1	がんとともに生きる 人・家族への看護	<演習> 看護過程 事例展開：がん	GW に必要な資料・ 文献などを検索し て準備し、活用す ること	富樫 山田 遠藤和
10	5. 6. 21 (水) 2				
11	5. 6. 28 (水) 1		<GW>		
12	5. 6. 28 (水) 2		<GW>		
13	5. 7. 5 (水) 1		<GW>		
14	5. 7. 5 (水) 2		<GW>		
15	5. 7. 12 (水) 2		<演習> 発表会：がん患者の看護過程 <まとめ>		
教科書		教科書：慢性期看護 経過別成人看護学 メジカルフレンド社			
参考文献		参考書：講義の中で適宜紹介します			
履修上の注意		GW による演習を主体とした事例展開を行います。遅刻はメンバーに迷惑がかかります。臨床実習指導者からの指導もあるので、積極的に参加し、予習と復習をしっかりと行い深めてください。この授業科目は、①成人急性期看護学実習、②成人慢性期看護学実習、③老年看護学実習Ⅱ、④精神看護学実習、⑤母性看護学実習、⑥小児看護学実習Ⅱ、⑦在宅訪問看護実習、⑧在宅看護連携実習、⑨妊娠期助産実習においてあらかじめ修得しておかなければならない科目に指定されています。			
学生へのメッセージ		毎回、minute paper を用いて理解と参加状況を把握します。 これまでの既習講義・実習で得た知識を想起しながら、主体的に授業に参加してください。			
e-mail・研究室（連絡先）		遠藤和： 研究室 13 kaendo@yachts.ac.jp 山 田： 研究室 33 kaoyamada@yachts.ac.jp 富 樫： 第1 共同研究室 rtogashi@yachts.ac.jp			

授 業 科 目 名		学科 (科目区分)	担 当 教 員 職・氏名	必修・選 択の別	学年	開講 時期	単位 数	先修条件 指定科目	科目等 履修生
成人急性期看護学実習		看護学科 (専門科目)	准教授・片桐 智子 助 教・丸山 香織	必修	3	後期	3	該当	否
授業概要		急性期および周手術期にある成人・老年者の看護に必要な既習の知識・技術を活用し、看護の役割をふまえ、適切な看護が実践できる基礎的能力と態度を養う。							
一般目標		1. 急性期・周手術期の特徴をふまえ、対象と関係形成を図ることができる。 2. 危機的状況における対象の全身状態の系統的な観察と情報収集ができる。 3. 健康障害に関連して生じる反応を統合的に分析できる。 4. 医療チームの一員として看護上の問題を明確化し、個別的な計画を立案・実施できる。 5. 行われる治療・手術の意義を理解し、必要な支援を考え、実施できる。 6. 対象の状態および苦痛を理解し、生活行動拡大のための支援ができる。 7. 実施した看護を評価し、生活上の課題を対象とともに明確化することができる。							
到達目標		1. 急性期・周手術期の特徴および手術が心身に与える影響をふまえ、対象の人格を尊重しコミュニケーションできる。 2. 術前検査・治療が対象のこころ・身体・生活へ及ぼす影響について説明できる。 3. 「看護とは」の視点で必要な情報を収集・整理し、対象の全体像・立体像を描くことができる。 4. 手術中の看護の目的を理解し、看護師の指導を受けながら必要な支援を考え実施できる。 5. 手術後の全身状態の観察を行い異常の有無を分析し、麻酔・手術侵襲の程度および状態を説明できる。 6. 認識を上り下りさせ、対象から得た情報（事実）の意味を考え根拠に基づき分析した思考過程と、看護上の問題を明確化し表現できる。 7. 術後の生活規制による対象の身体・心理状況をふまえ、個別性に沿った計画を立案し、実施できる。 8. 指導者の指導の下、合併症予防・生活行動拡大のための支援を対象の状態に合わせて実施できる。 9. 実践の結果を対象の反応から評価し、計画を修正しながら看護過程を展開できる。 10. 今後の生活上の課題について、対象者の視点とともに考え明確化することができる。							
成績評価方針 評 価 方 法 および基準		実習目標の到達度、実習態度、記録などを総合して評価する。							
授業計画									
回	日付	授業項目・学習課題	学習内容・学習方法				授業外学習など		担当
	5. 9. 19 (火) ～ 6. 2. 16 (金)	急性期および周手術期にある成人・老年期の患者を受け持ち、看護過程（実施・評価を含む）を展開する。	1. 実習内容、実習場所などの詳細は、成人急性期看護学実習要項に提示する。 2. 各病棟4名のグループごと実習を展開する。 3. 各自で関連理論や文献を用いて予習・復習し、グループメンバーで討論し合い、看護の視点でアセスメントする能力や個別性に沿った看護を学ぶ。				・事前学習、予習、復習を欠かさないためにも図書館を活用すること。		片桐 丸山
教 科 書 参 考 図 書		特に指定しないので、自ら必要な図書・文献を探すこと。							
履 修 上 の 注 意		・成人看護学概論、成人急性期看護学方法論Ⅰ・Ⅱの知識を必ず再確認して臨むこと。 ・以下の科目を修得しておくこと。 看護学概論、基礎看護方法論Ⅰ、基礎看護方法論Ⅱ、看護倫理、看護理論、看護過程論、看護人間関係論、ヘルスアセスメント論、家族看護学、基礎看護学実習Ⅰ、基礎看護学実習Ⅱ、成人看護学概論、成人急性期看護方法論Ⅰ、成人慢性期看護方法論Ⅰ、成人急性期看護方法論Ⅱ、成人慢性期看護方法論Ⅱ、老年看護方法論、老年看護学実習Ⅰ、精神看護学概論、精神看護方法論、母性看護学概論、母性看護方法論Ⅰ、母性看護方法論Ⅱ、小児看護方法論、小児看護学実習Ⅰ、在宅看護概論、在宅看護方法論Ⅰ、在宅看護方法論Ⅱ							
学 生 へ の メ ッ セ ー ジ		展開が速いので、健康に留意し事前学習を必ず行って実習に臨むこと。「看護とは」を忘れず、あなたのもっているすべてを出し切るつもりで対象にかかわりましょう。 本科目は、教員と実習指導者（看護師等）の指導の下、病院（臨床）における急性及び周手術期患者に対する看護過程を展開する科目であり、高等教育の負担軽減制度の要件に定める「実務経験のある教員による科目」としています。							
e-mail・研究室 (連 絡 先)		片桐智子：研究室4 tkatagiri@yachts.ac.jp 丸山香織：第2共同研究室 kmaruyama@yachts.ac.jp							

授 業 科 目 名		学科 (科目区分)	担 当 教 員 職・氏名	必修・選 択の別	学年	開講 時期	単位 数	先修条件 指定科目	科目等 履修生
成人慢性期看護学実習		看護学科 (専門科目)	教授・遠藤 和子 講師・山田カオル 助教・富樫 理恵	必修	3	後期	3	該当	否
授業概要		慢性的な健康障がいとともにある人とその家族とのかかわりを通して、対象の身体的・心理的・社会的特徴を理解するとともに、既習の知識・技術を用いて看護を展開し、科学的根拠に基づく看護実践が提供できるための基礎的能力を養う。							
一般目標		1. 慢性疾患とともにある人・家族とのかかわりを通して身体的・心理的・社会的側面を多角的にとらえる。 2. 慢性疾患の病態、検査、治療過程について理解し、状況に応じて適切な看護を提供する。 3. 慢性疾患とともにある人・家族に看護過程の展開による援助を実施する。 4. 慢性疾患とともにある人と家族のセルフケア支援について考えることができる。 5. チーム医療の中で看護専門職としての役割、多職種との連携について学ぶ。 6. 看護実践における自己の行動を振り返り、看護者としての在り方や看護観を深め、自己の課題を明確にする。							
到達目標		認知領域 ・受け持ち患者の情報を客観的に記述、解釈・分析し、統合して全体像を描き、看護問題を抽出できる ・受け持ち患者の病態生理・検査、治療経過、病状悪化の要因を説明できる ・受け持ち患者のセルフマネジメントを客観的に評価できる ・受け持ち患者の発達課題、ソーシャルサポート、自己管理能力・疾病の受容のレベルを考慮し、科学的根拠に基づきその人に合った看護計画を立案できる ・実践した援助内容を客観的にみつめ、看護計画を評価できる 情意領域 ・援助のタイミングを考慮することができる ・チーム医療における関連部門・職種との連携について理解し、チームで行う治療やケアを患者の立場から見直した上でこれからの連携、および、看護職のあり方について考えることができる ・自己の看護実践を、カンファレンス等を通して客観的に振り返り、看護者としてのあり方や看護観を表現することができる ・看護実践における自己の学習課題を明確化し、課題達成に向けて主体的に取り組むことができる 精神運動領域 ・受け持ち患者・家族とコミュニケーションを取りながら、信頼関係を築くことができる ・受け持ち患者のフィジカルアセスメントを実施できる ・受け持ち患者の安全・安楽を考慮した実践ができる							
成績評価方針 評価方法 および基準		実習目標の達成度、看護実践の評価、実習態度、実習記録、事前学習、最終レポートにより、総合的に評価する							
授業計画									
回	日付	授業項目・学習課題	学習内容・学習方法			授業外学習など		担当	
	5.9.19（火） ～ 6.2.16（金）	1 名以上の患者を受け持ち、看護過程を展開する。	詳細は実習要項を参照。			既習の知識・技術等を確認しておくこと		遠藤和 山田 富樫	
教科書 参考図書		必要な図書を自分で探すこと							
履修上の注意		以下の科目を修得しておく必要があります。 看護学概論、基礎看護方法論Ⅰ、基礎看護方法論Ⅱ、看護倫理、看護理論、看護過程論、看護人間関係論、ヘルスアセスメント論、家族看護学、基礎看護学実習Ⅰ、基礎看護学実習Ⅱ、成人看護学概論、成人急性期看護方法論Ⅰ、成人慢性期看護方法論Ⅰ、成人急性期看護方法論Ⅱ、成人慢性期看護方法論Ⅱ、老年看護方法論、老年看護学実習Ⅰ、精神看護学概論、精神看護方法論、母性看護学概論、母性看護方法論Ⅰ、母性看護方法論Ⅱ、小児看護方法論、小児看護学実習Ⅰ、在宅看護概論、在宅看護方法論Ⅰ、在宅看護方法論Ⅱ							
学生への メッセージ		自己の健康管理を十分に行いましょう。これまで学んだ知識・技術を活用して実習に臨んでください。 本科目は、教員と実習指導者（看護師等）による指導の下、病院（臨床）における慢性疾患患者に対する看護過程を展開する科目であり、高等教育の負担軽減制度の要件に定める「実務経験のある教員による科目」としています。							
e-mail・研究室 (連絡先)		遠藤和：研究室 13 kaendo@yachts.ac.jp 山田 ：研究室 33 kaoyamada@yachts.ac.jp 富樫 ：第1共同研究室 rtogashi@yachts.ac.jp							

授 業 科 目 名	学科 (科目区分)	担 当 教 員 職・氏名	必修・選 択の別	学年	開講 時期	単位 数	先修条件 指定科目	科目等 履修生
老年看護学概論	看 護 学 科 (専門科目)	教授・ 齋藤 美華 助教・ 佐藤 千穂	必修	1	後期	1	非該当	可
授業概要	老い（老化）とは何かを身体的・心理的・社会的側面から考察し、高齢者を全人的に理解できるための知識を習得する。また、高齢者の家庭や社会における役割および健康レベルに応じた援助方法を学ぶ。							
一般目標	1. 加齢による身体的、心理的・社会的変化を理解し、老年期にある対象者の身体的・心理的・社会的特徴を考察できる。 2. わが国の高齢者に関わる保健・医療・福祉システムの理念と社会構造を理解する。 3. 高齢者の人権や倫理にかかわる諸問題とその捉え方を知る。 4. 老年看護学の理念や看護過程を展開していくための基礎的考え方をを知る。							
到達目標	認知領域 ・加齢による身体的、心理的・社会的変化を理解し、老年期にある対象者の身体的・心理的・社会的特徴を考え、説明できる。 ・わが国の高齢者に関わる保健・医療・福祉システムの理念と社会構造を説明できる。 ・高齢者の人権や倫理にかかわる諸問題とその捉え方を説明し、考えることができる。 ・老年看護学の理念や看護過程を展開していくための基礎的考え方を述べることができる。 情意領域 ・身近な高齢者も含め、高齢者と家族について興味を持って授業に参加することができる。 ・高齢者を取り巻く様々な状況について、自分の考えを表現することができる。							
成績評価方針 評 価 方 法 および基準	筆記試験、レポート、演習への参加状況および演習レポートを総合的に評価する。 ・筆記試験（70％）およびレポート（20％）：到達目標の達成度 ・演習への参加状況・レポート（10％）：「高齢者疑似体験と移動」を通しての学びについて、考察を評価							
授業計画								
回	日付	授業項目・学習課題	学習内容・学習方法			授業外学習など		担当
1	5. 9. 28 (木) 4	老年期の理解 (1)	老いとは何か① ・加齢による心理的・社会的変化、ライフステージとしての老年期			既習の解剖生理学を復習確認して臨むこと		齋藤
2	5. 10. 5 (木) 4	老年期の理解 (2) 老年看護の理念と役割	老いとは何か② ・加齢による身体的変化と老年病の特徴 老年看護の理念と目標、老年看護の特徴			既習の解剖生理学を復習確認して臨むこと		齋藤
3	5. 10. 12 (木) 4	老年期の援助の特徴	加齢による身体的・心理的・社会的変化に伴う援助の特徴－転倒予防と事故防止、コミュニケーション、認知症への援助、摂食・嚥下障害			1-2 講を復習して臨むこと		齋藤
4	5. 10. 19 (木) 4	援助の展開 (1)	演習「高齢者疑似体験と移動」「摂食・嚥下障害への援助」「ライフヒストリーグループワーク」			既習内容の理解の確認		齋藤 佐藤
5	5. 10. 26 (木) 4	援助の展開 (2)	演習「高齢者疑似体験と移動」「摂食・嚥下障害への援助」「ライフヒストリーグループワーク」			既習内容の理解の確認		齋藤 佐藤
6	5. 11. 2 (木) 4	老年保健とヘルスプロモーション 高齢者の倫理	・老年保健とヘルスプロモーション ・高齢者の人権と倫理、ソーシャルサポートシステム					齋藤
7	5. 11. 9 (木) 4	高齢者を取り巻くケアシステム	わが国の高齢者に関わる保健・医療・福祉システムと介護保険			レポート課題		齋藤
8	5. 11. 16 (木) 4	まとめ	老年看護学概論のまとめ 演習「ライフヒストリーグループワーク発表」			既習内容の復習		齋藤 佐藤
教科書 参考図書	教科書：1) 随時紹介します。 2) 「厚生指針 国民衛生の動向」(厚生統計協会) 参考図書：1) 「新しい時代の看護実践を支える 老年看護学」川原礼子・齋藤美華 著、青踏社 2) 「高齢社会白書」(内閣府)							
履修上の注意	この授業科目は、高齢者生活探究実習においてあらかじめ修得しておかなければならない科目に指定されています。							
学生への メッセージ	老年期とは、いずれは私たちも通るみちです。それを踏まえて学んでいきましょう。							
e-mail・研究室 (連絡先)	齋藤美華：研究室1 misaito@yachts.ac.jp (686-6708) 佐藤千穂：第1共同研究室 csato@yachts.ac.jp (686-6618)							

授 業 科 目 名		学 科 (科目区分)	担 当 教 員 職・氏名	必修・選 択の別	学年	開講 時期	単位 数	先修条件 指定科目	科目等 履修生
老年看護方法論		看 護 学 科 (専門科目)	教授・ 齋藤 美華 助教・ 佐藤 千穂	必修	3	前期	2	非該当	可
授業概要		高齢者看護の特性を捉え、そのケア技術の原理を理解した上で、あらゆる健康レベルに応じ、かつ、様々な生活の場において援助できる力を習得する。							
一般目標		1. 多様な健康問題やニーズをもった対象への看護過程を展開できる能力を習得する。 2. 高齢者の生活する場や生活形態・様式に沿った形での看護過程を展開できる能力を習得する。 3. 高齢者の転倒予防や事故防止に対して、専門的知識や技術を理解する。 4. 高齢者の家族をはじめとして、高齢者を取り巻く人々のソーシャル・サポートの概念を理解する。 5. 高齢者の個々に応じたヘルスプロモーションについて提案できる能力を習得する。							
到達目標		認知領域 ・多様な健康問題やニーズをもった対象への看護過程を展開できる知識・技術を習得できる。 ・高齢者の生活する場や生活形態・様式に沿った形での看護過程を展開できる知識・技術を習得できる。 ・高齢者の転倒予防や事故防止に対して、専門的知識や技術を習得できる。 ・高齢者の家族をはじめとして、高齢者を取り巻く人々のソーシャル・サポートの概念を説明できる。 ・高齢者の個々に応じたヘルスプロモーションについて提案できる知識・技術を習得できる。 情意領域 ・老年看護の課題学習や演習に主体的に参加し、自分の考えを表現することができる。 精神運動領域 ・演習を通して、高齢者および家族の生活機能や状況に応じた援助を実施できる。 ・高齢者および家族の状況に合わせて援助方法を考え、その根拠を説明できる。							
成績評価方針 評 価 方 法 および基準		筆記試験、演習への参加状況およびレポートによって総合的に評価する。 ・筆記試験 (80%) : 到達目標の達成度 ・演習への参加状況・レポート (20%) : 課題に関する知識・考察を評価							
授業計画									
回	日付	授業項目・学習課題	学習内容・学習方法				授業外学習など	担当	
1	5. 4. 18 (火) 3	高齢者と人権擁護 高齢者と環境	高齢者の人権と倫理および性に関する問題、ソーシャルサポートシステム、わが国の高齢者に関わる保健・医療・福祉システムと介護保険				老年看護に関する既習の知識を確認して臨むこと	齋藤	
2	5. 4. 18 (火) 4	高齢者と家族	・家族形態の社会的変化(人口の高齢化と家族形態の変化、高齢者介護と家族問題) ・家族への支援				老年看護に関する既習の知識を確認して臨むこと	齋藤	
3	5. 4. 25 (火) 3	高齢者への医療的援助と入院時の援助、退院支援	・入院生活への援助 ・検査、薬物療法・手術を受ける高齢者への援助 ・退院に向けての援助(継続看護、訪問看護)					齋藤	
4	5. 4. 25 (火) 4	老年看護の基本技術－転倒予防と事故防止	・転倒が高齢者に及ぼす影響、転倒予防の意義 ・高齢者が転倒しやすい要因・背景、転倒の危険因子、転倒の実態と特徴 ・転倒予防・アセスメントと支援、事故防止 ・歩行・移動動作のアセスメントと援助					齋藤	
5	5. 5. 2 (火) 3	老年看護の基本技術－コミュニケーション障害	・高齢者のコミュニケーションの特徴 ・起こりやすい病的な変化と援助(言語障害)					齋藤	
6	5. 5. 9 (火) 3	老年看護の基本技術－清潔・衣生活、脱水予防、睡眠障害、活動と休息への援助	・住環境と衣環境、清潔への援助 ・睡眠障害のアセスメントと援助 ・脱水予防のアセスメントと援助 ・活動と休息のアセスメントと援助					佐藤	
7	5. 5. 9 (火) 4								
8	5. 5. 16 (火) 3	高齢者の食生活と栄養(フレイル)	・高齢者にとっての食べることの意義 ・高齢者の食生活の特徴 ・在宅高齢者にみられる食生活の問題 ・高齢者の低栄養と食生活に影響を与える要因 ・高齢者の低栄養予防について					齋藤	
9	5. 5. 16 (火) 4	老年看護の基本技術－摂食・嚥下障害への援助、口腔ケア	・摂食・嚥下、誤嚥の病態生理、嚥下障害への看護 ・窒息時の対応、口腔ケアについて ・胃ろうについて					佐藤	

10	5. 5. 23 (火) 3	老年看護の基本技術 ー排泄への援助	・排泄のアセスメントと援助 ・尿失禁のアセスメントと援助 ・便秘・下痢のアセスメントおよび予防と援助		佐藤
11	5. 5. 23 (火) 4	高齢者のリハビリテ ーション看護 高齢者に特有な症 候・疾患・障害と看護	・高齢者にとってのリハビリテーションの意義 ・ADL 障害とリハビリテーション ・生活活性化に向けたリハビリテーション ・掻痒症、視覚障害、聴覚障害、廃用症候群、 骨粗鬆症、うつ病、せん妄、パーキンソン症候群 など、アセスメントと予防および援助		齋藤
12	5. 5. 30 (火) 3	老年看護の基本技術 ー認知障害への援助	・認知症高齢者ケアにおける看護の目標 ・認知症の特徴 ・在宅で療養する認知症高齢者と家族の特徴 ・認知症様症状のアセスメント ・看護の展開（ケアの原則、身体的ケア） ・家族介護者への支援		齋藤
13	5. 5. 30 (火) 4				
14	5. 6. 6 (火) 3	老年看護の基本技術 ー摂食・嚥下障害への 援助、口腔ケア	<演習> ・食事介助と口腔ケア（高齢者および看護者の立 場で実施）、義歯の管理、胃ろうの管理 ・身体拘束 ・演習のまとめ・記録	9-10 講の内容 を復習してく ること	齋藤 佐藤
15	5. 6. 6 (火) 4				
16	5. 6. 20 (火) 3	まとめ	老年看護の基本技術等のまとめ	1-15 講の内容 を確認・復習し てくこと	齋藤 佐藤
17	5. 6. 20 (火) 4	高齢者の終末期ケア	・終末期の概念と高齢者の晩年期の特徴 ・高齢者在宅終末期の利点と課題 ・家族の参加と家族への支援		齋藤
18	5. 6. 27 (火) 3	高齢者を対象とした 看護過程 高齢者への相談・指導 の基本	・高齢者の特性と看護の展開 ・看護過程と展開上の留意点 ・生活実態の把握と生活能力の見極め方 ・高齢者との面接時の留意点 ・高齢者に対する指導と留意点		齋藤
19	5. 6. 27 (火) 4	事例看護過程	<演習> 事例看護過程（演習）	事例を確認し てくこと	齋藤 佐藤
20	5. 7. 4 (火) 3	事例看護過程	<演習> 事例看護過程（グループでの発表・討議）	発表・討議の準 備	齋藤 佐藤
21	5. 7. 4 (火) 4				
22	5. 7. 18 (火) 3	事例展開の概略	<演習> 事例看護過程（グループ発表） 事例展開の概略	発表の準備	齋藤 佐藤
23	5. 7. 18 (火) 4				
教 科 書 参 考 図 書		教科書：「新しい時代の看護実践を支える 老年看護学」川原礼子・齋藤美華 著，青踏社 参考図書： 1)「根拠と事故防止からみた 老年看護技術」亀井智子 編集，医学書院 2)「高齢者看護学 第3版」亀井智子・小玉敏江編集，中央法規 3)「厚生指標 国民衛生の動向」（厚生統計協会）			
履 修 上 の 注 意		老年看護学概論および既履修した科目を復習しておいてください。 この授業科目は、①成人急性期看護学実習、②成人慢性期看護学実習、③老年看護学実習Ⅱ、④精神看護学実習、⑤母性看護学実習、⑥小児看護学実習Ⅱ、⑦在宅訪問看護実習、⑧在宅看護連携実習、⑨妊娠期助産実習においてあらかじめ修得しておかなければならない科目に指定されています。			
学 生 へ の メ ッ セ ー ジ		既履修した科目の知識や技術を復習して授業に臨んでください。			
e-mail・研究室 （ 連 絡 先 ）		齋藤美華：研究室1 misaito@yachts.ac.jp（686-6708） 佐藤千穂：第1共同研究室 csato@yachts.ac.jp（686-6618）			

授 業 科 目 名		学 科 (科目区分)	担 当 教 員 職・氏名	必修・選 択の別	学年	開講時期	単位 数	先修条件 指定科目	科目等 履修生
高齢者生活探究実習		看 護 学 科 (専門科目)	教授・ 齋藤 美華 助教・ 佐藤 千穂	必修	2	後期	1	該当	否
授業概要		特別養護老人ホーム、障がい者施設など様々な場において、地域とのつながりを保ちながら地元で生活している高齢者の健康および健康問題について理解するとともに、高齢者の生活および地域の連携を含めた関わりの実際について学ぶ。							
一般目標		1. 特別養護老人ホーム、障がい者施設の概要と特徴を理解する。 2. 特別養護老人ホーム、障がい者施設で生活している人々と人間関係を築き、人々の生活と健康および健康問題について理解を深める。 3. 高齢者の生活において、関係職種が連携・調整することの意義について理解する。							
到達目標		認知領域 ・特別養護老人ホーム、障がい者施設の法的根拠、機能について記述できる。 ・特別養護老人ホーム、障がい者施設の利用者の特徴について説明できる。 ・高齢者および家族の生活を含めた身体的、心理的、社会的状態について説明できる。 ・高齢者および家族の健康および健康問題について説明できる。 ・高齢者および家族の生活について考えを述べることができる。 ・高齢者の生活を支えている関係職種の役割について説明できる。 ・高齢者の生活を支えている関係職種と連携・調整することの意義について述べることができる。 情意領域 ・高齢者および家族と人間関係を築きながら、尊厳を理解した関わりを示すことができる。 ・健康管理に留意し、主体的に実習に臨むことができる。 ・カンファレンスを通して、自己の考えを表現することができる。 ・自己の高齢者への関わりを振り返り、客観的に考察できる。 精神運動領域 ・高齢者および家族の状況に合わせてコミュニケーションを工夫することができる。							
成績評価方針 評 価 方 法 および基準		目標達成度、実習記録物、出席状況、実習態度などを総合的に評価する。							
授業計画									
回	日付	授業項目・学習課題	学習内容・学習方法				授業外学習など	担当	
	5. 8. 7 (月) ～ 5. 8. 10 (木)	施設で生活する高齢者の理解と関係職種の連携・調整に関する理解と考察	詳細は実習要項を参照 高齢者とのコミュニケーションおよび高齢者へのケアの見学を中心に実習を展開する。 期間：1 週間 実習施設： 山形市内および近在の介護老人福祉施設、障がい者施設				既習の知識・技術等を確認しておくこと	齋藤 佐藤	
教 科 書 参 考 図 書		各自、必要なものを自分で探すこと。							
履 修 上 の 注 意		老年看護学概論の単位を取得していること。 本科目は、教員と実習指導者の指導の下、臨床（ヘルスケア提供施設など実習場所によって変更する）において看護過程を展開する科目であり、高等教育の負担軽減制度の要件に定める「実務経験のある教員による科目」としています。							
学 生 へ の メ ッ セ ー ジ		自己の健康管理を十分に行い、これまで学んだ知識・技術を活用して実習に臨むこと。 高齢者とのコミュニケーションが図れるように心がけること。 事前学習をしっかりと行い、積極的に取り組んでください							
e-mail・研究室 (連 絡 先)		齋藤美華：研究室1 (6708) misaito@yachts.ac.jp 佐藤千穂：第1共同研究室 (6618) csato@yachts.ac.jp							

授 業 科 目 名	学 科 (科目区分)	担 当 教 員 職・氏名	必修・選 択の別	学年	開講時期	単位 数	先修条件 指定科目	科目等 履修生
老年看護学実習Ⅱ	看 護 学 科 (専門科目)	教授・ 齋藤 美華 助教・ 佐藤 千穂	必修	3	後期	2	該当	否
授業概要	病院で生活する高齢者と家族の健康および健康問題について理解し、病院や施設、地域の連携を含めた継続的な支援体制を考慮しながら、関係職種と連携を図りながら行われるニーズに対応した看護援助の展開について学ぶ。また、実習を通して老年看護の基本的実践能力を養う。							
一般目標	1. 高齢者とその家族を対象として人間関係を築き、生活と健康および健康問題について理解する。 2. 健康問題を抱えている高齢者を対象に、ニーズに対応した看護援助を展開する。 3. 高齢者の看護において、関係職種が連携・調整することの意義について理解する。							
到達目標	認知領域 ・高齢者の生活を含めた身体的、心理的、社会的状態について記述できる。 ・高齢者とその家族の健康および健康問題について述べるができる。 ・収集した情報から、高齢者が必要とする援助ニーズを説明できる。 ・ニーズに対応した援助の方法および解決方法を述べるができる。 ・実施した看護実践を評価し、計画の修正・追加ができる。 ・高齢者の療養生活を支えている関係職種の役割について述べるができる。 ・高齢者の療養生活を支えている関係職種と連携・調整することの意義を述べるができる。 情意領域 ・高齢者およびその家族と人間関係を築きながら尊厳を理解した関わりができる。 ・高齢者のセルフケア能力を高めながらニーズに対応した援助を展開できる。 ・健康管理に留意し、主体的に実習に臨むことができる。 ・カンファレンスを通して、自己の考えを表現できる。 ・看護実践における自己の学習課題を明確にし、課題達成のための主体的な取り組みができる。 精神運動領域 ・自己の看護活動を振り返り、既習の知識・文献を用いて論理的に考察できる。 ・立案した計画に沿って高齢者の安全・安楽を考慮して実践できる。 ・個人情報について適切に取り扱うことができる。							
成績評価方針 評 価 方 法 および基準	目標達成度、実習記録物、出席状況、実習態度などを総合的に評価する。							
授業計画								
回	日付	授業項目・学習課題	学習内容・学習方法			授業外学習など		担当
	5. 9.19 (火) ～ 6. 2.16 (金)	病院で生活する高齢者を受け持ち、看護過程を展開する	詳細は実習要項を参照 高齢者1名を担当し、看護指導者とともに高齢者への援助を実践する。 期間:2週間 実習施設：独立行政法人 国立病院機構 山形病院、社会福祉法人恩賜財団済生会 山形済生病院のいずれか1箇所			既習の知識・技術等を確認しておくこと		齋藤 佐藤
教 科 書 参 考 図 書	各自、必要なものを自分で探すこと。							
履 修 上 の 注 意	・老年看護学概論、老年看護学実習Ⅰ、老年看護学方法論の知識を再確認して臨むこと。 ・老年看護学に関する科目だけでなく、これまで学んだすべての講義・演習・実習に関する科目を復習して実習に臨むこと。 ・以下の科目を修得しておくこと 看護学概論、基礎看護学方法論Ⅰ、基礎看護学方法論Ⅱ、看護倫理、看護理論、看護過程論、看護人間関係論、ヘルスアセスメント論、家族看護学、基礎看護学実習Ⅰ、基礎看護学実習Ⅱ、成人看護学概論、成人急性期看護学方法論Ⅰ、成人慢性期看護学方法論Ⅰ、成人急性期看護学方法論Ⅱ、成人慢性期看護学方法論Ⅱ、老年看護学方法論、老年看護学実習Ⅰ、精神看護学概論、精神看護学方法論、母性看護学概論、母性看護学方法論Ⅰ、母性看護学方法論Ⅱ、小児看護学方法論、小児看護学実習Ⅰ、在宅看護概論、在宅看護学方法論Ⅰ、在宅看護学方法論Ⅱ ・本科目は、教員と実習指導者の指導の下、臨床（ヘルスケア提供施設など実習場所によって変更する）において看護過程を展開する科目であり、高等教育の負担軽減制度の要件に定める「実務経験のある教員による科目」としています。							
学 生 へ の メ ッ セ ー ジ	自己の健康管理を十分に行い、これまで学んだ知識・技術を活用して実習に臨んでください。高齢者およびグループメンバー、指導者等とのコミュニケーションが図れるように心がけること。事前学習をしっかりと行い、積極的に取り組んでください。							
e-mail・研究室 (連 絡 先)	齋藤美華：研究室1 misaito@yachts.ac.jp (686-6708) 佐藤千穂：第1共同研究室 csato@yachts.ac.jp (686-6618)							

授 業 科 目 名		学科 (科目区分)	担 当 教 員 職・氏名	必修・選 択の別	学年	開講 時期	単位 数	先修条件 指定科目	科目等 履修生
精神看護学概論		看護学科 (専門科目)	教 授・安保 寛明 講 師・高谷 新 非常勤講師・高橋 葉子	必修	1	後期	2	非該当	可
授業概要		精神健康に関する影響要因を解説するとともに、精神的危機を迎えた人や精神障がい者を有する人に関する援助方法に関する現在と過去の動向を解説する。また、精神保健に関する世界的動向を教授する。							
一般目標		1. 心理社会的側面や生理的背景を踏まえて精神健康とその危機について説明できる。 2. 精神障がいの理解と援助に必要な発達課題、人間関係、処遇と治療の歴史などについて説明できる。							
到達目標		1. 精神保健を心の機能の発達の観点から理解し、各段階における健康の促進要因と阻害要因について例を挙げて説明できる。 2. 精神健康が阻害される状況について、心身の関連および心理社会的背景を査定できるとともに、精神健康の回復過程について具体例を挙げることができる。 3. 精神的危機に対する援助と制度について説明できる。 4. 精神保健の観点から権利擁護を捉え、精神保健福祉法や虐待防止法等の背景にある理念を説明できる。 5. 人間の尊厳を前提においた精神看護のあり方について自分の周囲にある事象に照らして記述できる。							
成績評価方針 評 価 方 法 および基準		評価方針：知識の獲得と論理展開、講義への参加度から総合評価する。 60%：試験（知識の獲得）、30%：レポート（例示などの論理展開）、10%：講義への参加度（学生間討議への参加度など）							
授業計画									
回	日付	授業項目・学習課題	学習内容・学習方法				授業外学習 など	担当	
1	5. 9. 28 (木) 1	精神保健と精神看護における主題	・精神健康と精神保健学の概要 ・ライフサイクルと精神発達の概要 ・生理・心理・社会モデルの発展史					安保 高谷	
2	5. 10. 5 (木) 1	権利擁護と回復（1）	・保護的処遇と施設症 ・訪問看護、精神科デイケアの機能				レポート 課題①	高谷	
3	5. 10. 12 (木) 1	権利擁護と回復（2）	・社会的弱者の権利擁護と精神保健 ・意思決定支援の3段階					高谷	
4	5. 10. 19 (木) 1	精神機能の発達と危機	・乳幼児期の精神発達と情動の多彩化 ・共同注視と感覚刺激					安保	
5	5. 10. 26 (木) 1	精神機能の発達と危機	・幼児期の精神発達と信頼の定義づけ ・倫理観とパーソナリティ、ストレングス				レポート 課題②	安保	
6	5. 11. 2 (木) 1	精神機能の発達と危機	・学童期の精神発達と原因帰属 ・自己効力感、認知、仲間意識					安保	
7	5. 11. 9 (木) 1	精神機能の発達と危機	・青年期前期の精神発達と自己同一性 ・自己同一性、欲求階層					安保	
8	5. 11. 16 (木) 1	精神機能の発達と危機	・成人期の精神発達と社会的成熟（1） ・職場と家庭のメンタルヘルス					安保 非常勤	
9	5. 11. 17 (金) 1	精神機能の発達と危機	・成人期の精神発達と社会的成熟（2） ・事例を通じた理解（1）					安保 非常勤	
10	5. 12. 7 (木) 1	生理・心理・社会モデルと精神看護学（1）	・心身相関とリエゾン精神看護 ・ストレス反応とストレスモデル ・防衛機制とレジリエンス				レポート 課題③	高橋	
11	5. 12. 14 (木) 1	生理・心理・社会モデルと精神看護学（2）	・災害等の大規模事象における精神保健 ・サイコロジカルファーストエイド					高橋	
12	5. 12. 21 (木) 1	生理・心理・社会モデルと精神看護学（3）	・身体侵襲と加齢に伴う精神機能への影響 ・せん妄、記憶などの機能と援助					高橋	
13	6. 1. 11 (木) 1	生理・心理・社会モデルと精神看護学（4）	・社会モデルとしての精神保健 ・援助希求の促進とセルフケア					安保 非常勤	
14	6. 1. 18 (木) 1	生理・心理・社会モデルと精神看護学（5）	・事例を通じた理解（2） ・国際学際的精神保健					安保 非常勤	
15	6. 1. 25 (木) 1	精神保健看護の主題	・全体像の整理					安保 高谷	
教 科 書 参 考 図 書		精神看護学概論 精神保健（岩崎弥生，渡邊博幸（編）、メヂカルフレンド社(2019)） 参考図書は講義にて紹介する。							

履 修 上 の 注 意	合理的配慮が必要な学生は事前に申し出ることが望ましい。 この授業科目は、精神保健学実習、急性期看護学実習、慢性看護学実習、老年看護学実習、精神看護学実習、母性看護学実習、小児看護学実習Ⅱ、訪問看護実習、地域包括支援実習、周産期生活支援実習においてあらかじめ修得しておかなければならない科目に指定されています。
学 生 へ の メ ッ セ ー ジ	いろんな人生に触れる時間になるので、そのつもりで参加して下さい。
e-mail・研究室 (連 絡 先)	安保：研究室 15 hambo@yachts.ac.jp 高谷：研究室 10 stakaya@yachts.ac.jp

授 業 科 目 名		学 科 (科目区分)	担 当 教 員 職・氏名	必修・選 択の別	学 年	開講時期	単位 数	先修条件 指定科目	科目等 履修生
精神看護方法論Ⅰ		看護学科 (専門科目)	教 授・安保 寛明 講 師・高谷 新 非常勤講師・佐藤 大輔	必修	2	後期	1	非該当	可
授業概要		精神の健康と保持・増進に向けた看護についての学習を前提とした、精神疾患を有する人への看護について精神機能と心理状態の保護要因と阻害要因を理解するとともに、環境調整や直接援助による回復過程を理解する。							
一般目標		1. 精神看護の基盤となる人間性について理解をする。 2. 精神疾患を持つ人の生物・心理・社会的側面への看護について基本的な理解をする。 3. 精神疾患をもつ人の人権と安全を守り、回復を支援する看護について基本的な理解をする。							
到達目標		1. 人間が生きるうえでの精神機能と入院や通院などの患者役割がもたらす影響を、短期および長期の観点から整理することができる。 2. 生理学的理解：主な精神疾患に関する生理学的仮説を理解し、薬物療法などの生理学的治療における作用と副作用、検査の根拠を説明することができる。 3. 心理学的理解：精神療法およびリハビリテーション療法のうち、来談者中心療法やSSTなどの心理社会的介入を心の機能との関係から理解し一定の行動をとることができる。							
成績評価方針 評 価 方 法 および基準		評価方針：知識による理解と行動（社会的側面も含む）による達成の双方を取り扱う。 評価方法と基準 30 パーセント・・・講義への出席と演習参加：演習参加の評価は、おもに到達目標 1, 2, 3 に関連した評価とする。 70 パーセント・・・試験および小試験：到達目標全体に関して評価を行う。							
授業計画									
回	日付	授業項目・学習課題	学習内容・学習方法				授業外学習など		担当
1	5. 9. 27 (水) 2	ガイダンス 精神看護の対象	1. 精神看護学概論の整理 2. 精神疾患における治療と回復 3. 精神看護における援助の特徴				既習範囲の理解度を 確認するための演習 を行う		安保 高谷
2	5. 9. 27 (水) 3	精神看護における援助の基盤①連帯と安心に注目した援助	1. こころの健康と援助関係 2. プロセスレコードとその活用 3. 心理的安全性（環境のアセスメント）						安保
3	5. 10. 4 (水) 2	精神看護における援助の基盤②セルフケアの査定と援助	1. セルフケアモデル 2. 精神症状がもたらす認知モデルへの影響 3. 認知に影響が生じているときの援助						安保
4	5. 10. 11 (水) 2	援助者（家族や専門職）のエンパワメント・意思決定	1. 家族支援・専門職支援 2. エンパワメント 3. 安心のための合意形成						高谷
5 ・ 6	5. 10. 18 (水) 1 5. 10. 18 (水) 2	精神看護の方法① 治療的面接と動機づけ	1. ストレングスアセスメント 2. リフレーミング 3. 強みと希望のアセスメント演習						安保
7 ・ 8	5. 10. 25 (水) 1 5. 10. 25 (水) 2	精神看護の方法② 集団療法	1. 集団が持つ意味合い 2. 集団療法の種類（SST、WRAP クラス、作業療法の一部） 3. 集団療法演習						佐藤
9	5. 12. 13 (水) 2	精神疾患と精神症状への援助① 気分障害、不安症	1. 晴れない気持ちとつきあうこと 2. 抗うつ薬・抗不安薬・睡眠薬						高谷
10	6. 1. 10 (水) 2	精神疾患と精神症状への援助② 統合失調症	1. 幻覚がありつつ生きるということ 2. 抗精神病薬						高谷
11	6. 1. 17 (水) 2	精神疾患と精神症状への援助③依存と摂食障害	1. 孤独と不安を抱えて過ごすこと 2. 偏ったコーピングによる影響						安保
12	6. 1. 24 (水) 2	まとめ	1. 学習内容の整理 2. 援助基盤の整理						安保 高谷
教 科 書 参 考 図 書		教科書：岩崎弥生編 精神看護学Ⅱ精神障害をもつ人の看護 メジカルフレンド社 *精神看護学概論、精神障がい論で指定された教科書も用いる。 参考図書：山本勝則他編 看護実践のための根拠がわかる精神看護技術 メジカルフレンド社 前田ケイ 基本から学ぶ SST 星和書店 宮本眞巳 看護場面の再構成 日本看護協会出版会							

履 修 上 の 注 意	講義と演習が細かく用いられるので、一定の集中度を要する科目です。 この授業科目は、①急性期看護学実習、②慢性看護学実習、③老年看護学実習、④精神看護学実習、⑤母性看護学実習、⑥小児看護学実習Ⅱ、⑦訪問看護実習、⑧地域包括支援実習、⑨周産期生活支援実習においてあらかじめ修得しておかなければならない科目に指定されています。
学 生 へ の メ ッ セ ー ジ	講義や演習には積極的に参加することを期待します。 グループ演習では他者の意見を尊重しながら積極的に発言し、グループのまとめに貢献しましょう。
e-mail・研究室 (連 絡 先)	安保：研究室 15 hambo@yachts.ac.jp 高谷：研究室 10 stakaya@yachts.ac.jp

授 業 科 目 名	学科 (科目区分)	担 当 教 員 職・氏名	必修・選 択の別	学年	開講時期	単位 数	先修条件 指定科目	科目等 履修生
精神看護方法論	看護学科 (専門科目)	教 授・安保 寛明 講 師・高谷 新 助 教・鈴木 龍生 非常勤講師・佐藤 大輔	必修	3	前期	2	非該当	可
授業概要	精神の健康と保持・増進に向けた看護についての学習を前提とした、精神疾患を有する人への看護について、精神機能と心理状態の保護要因と阻害要因を理解するとともに、環境調整や直接援助による回復過程を理解する。							
一般目標	1. 精神看護の基盤となる人間性について理解をする。 2. 精神疾患を持つ人の生物・心理・社会的側面への看護について基本的な理解をする。 3. 精神疾患をもつ人の人権と安全を守り、回復を支援する看護について基本的な理解をする。							
到達目標	1. 人間が生きるうえでの精神機能と入院や通院などの患者役割がもたらす影響を、短期および長期の観点から整理することができる。 2. 自他の生命と生活を維持することとその援助について、意思決定や権利擁護の観点を加えて説明することができる。また、援助関係における発展と終結を理解することができる。 3. 生理学的理解：主な精神疾患に関する生理学的仮説を理解し、薬物療法などの生理学的治療における作用と副作用、検査の根拠を説明することができる。 4. 心理学的理解：精神療法およびリハビリテーション療法のうち、来談者中心療法やSSTなどの心理社会的介入を心の機能との関係から理解し一定の行動をとることができる。 5. 社会学的理解：病の経験がもたらす影響を患者本人と周囲の人の立場から考察し、回復に向けた社会的援助の要点を説明することができる。 6. 精神科訪問看護やデイケアなど、地域精神看護の実践上の特徴を説明することができる。 7. 精神障がい者が地域で生活するための課題と援助及び資源について説明することができる。							
成績評価方針 評 価 方 法 および基準	評価方針：知識による理解と行動（社会的側面も含む）による達成の双方を取り扱う。 評価方法と基準 30 パーセント・・・講義への出席と演習参加：演習参加の評価は、おもに到達目標 1, 3, 4, 6, 7 に関連した評価とする。 70 パーセント・・・試験および小試験：到達目標全体に関して評価を行う。							
授業計画								
回	日付	授業項目・学習課題	学習内容・学習方法			授業外学習など		担当
1	5. 4. 6 (木) 2	ガイダンス 精神看護の対象	1. 精神看護学概論の整理 2. 精神疾患における治療と回復 3. 精神看護における援助の特徴					安保 高谷
2	5. 4. 20 (木) 2	精神看護における援助の基盤① 連帯と安心に注目した援助	1. こころの健康と援助関係 2. 信頼関係の構築 3. 自己決定と共同意思決定 4. 心理社会的危機における権利擁護 5. プロセスレコードの活用					安保 高谷
3	5. 4. 27 (木) 2	精神看護における援助基盤② セルフケアの査定と援助	1. セルフケアモデル 2. 抗精神病薬の薬理作用とその影響 3. 精神症状がもたらす認知モデルへの影響 4. 認知に影響が生じている時の援助					安保
4 ・ 5	5. 5. 11 (木) 1 5. 5. 11 (木) 2	精神疾患と精神症状への援助① 気分障害、不安症	1. 晴れない気持ちとつきあうこと 2. 活動と休息、失敗と挑戦 3. 抗うつ薬、抗不安薬、睡眠薬 4. 認知行動療法					高谷 安保
6 ・ 7	5. 5. 18 (木) 1 5. 5. 18 (木) 2	精神疾患と精神症状への援助② 統合失調症	1. 幻覚がありつつ生きているということ 2. 生きがいと自己他者信頼 3. 抗精神病薬 4. エンパワメント					高谷
8	5. 5. 25 (木) 1	精神疾患と精神症状への援助③ 依存と摂食障害	1. 孤独と不安を抱えて過ごすこと 2. 偏ったコーピングによる影響 3. 治療や行動変容への動機付け 4. セルフヘルプと家族と専門職					安保

9	5. 5. 25 (木) 2	看護計画と アセスメントⅠ	1. 生理心理社会モデルの統合 2. 現象把握とアセスメントの精査 3. 全体アセスメントと焦点化 (講義)		高谷 非常勤
10	5. 6. 1 (木) 2	看護計画と アセスメントⅡ	1. 生理心理社会モデルの統合 2. 現象把握とアセスメントの精査 3. 全体アセスメントと焦点化 (演習)		高谷 佐藤
11 ・ 12	5. 6. 8 (木) 1 5. 6. 8 (木) 2	精神看護の方法① 治療的面接と動機づけ	1. ストレングスアセスメント 2. 治療へのアドヒアランス 3. 強みと希望のアセスメント演習		安保 佐藤 他
13	5. 6. 15 (木) 1 (5. 6. 15 (木) 2)	援助者 (家族や専門 職) のエンパワメン ト・意思決定	1. 家族支援、専門職支援 2. 家族心理教育と地域連携 3. コンサルテーションの機能 4. 安心のための合意形成		高谷
14 ・ 15	5. 6. 22 (木) 1 5. 6. 22 (木) 2	看護計画と アセスメントⅡ	1. 看護計画のマネジメント (1) 2. 長期入院患者への関わり 3. 患者の希望と援助者の考えに相違 がある場合の関わり		高谷 非常勤
16 ・ 17	5. 6. 29 (木) 1 5. 6. 29 (木) 2	精神看護の方法② 集団療法	1. 集団療法がもつ意味合い 2. 集団療法の種類 (SST、WRAP クラス、作業療法の一部) 3. 集団療法演習		鈴木 佐藤 安保
18 ・ 19	5. 7. 6 (木) 1 5. 7. 6 (木) 2	精神看護の方法③ 情動を伴うリスク状 態の対処	1. 行動制限の影響と権利擁護 2. ディエスカレーション 3. CVPPP演習		高谷 非常勤
20 ・ 21	5. 7. 13 (木) 1 5. 7. 13 (木) 2	精神看護における援 助基盤③ アセスメントと援助 の基礎と応用	1. 精神疾患のとりえ方 2. 精神機能の連続性 3. 特性に応じたかかわり方 4. 行動療法的アプローチ		安保 高谷
22	5. 7. 20 (木) 2	看護計画と アセスメントⅢ	1. 看護計画のマネジメント (2) 2. 既習範囲を踏まえた計画管理		高谷
23	5. 7. 27 (木) 2	まとめ	1. 学習成果の整理 2. 援助基盤、アセスメントの整理		安保 高谷
教 科 書 参 考 図 書		教科書：岩崎弥生編 精神看護学Ⅱ精神障害をもつ人の看護 メジカルフレンド社 *精神看護学概論、精神障がい論で指定された教科書も用いる。 参考図書：山本勝則他編 看護実践のための根拠がわかる精神看護技術 メジカルフレンド社 前田ケイ 基本から学ぶ SST 星和書店 宮本眞巳 看護場面の再構成 日本看護協会出版会			
履 修 上 の 注 意		講義と演習が細かく用いられるので、一定の集中度を要する科目です。 この授業科目は、①成人急性期看護学実習、②成人慢性期看護学実習、③老年看護学実習Ⅱ、④ 精神看護学実習、⑤母性看護学実習、⑥小児看護学実習Ⅱ、⑦在宅訪問看護実習、⑧在宅看護連 携実習、⑨妊娠期助産実習においてあらかじめ修得しておかなければならない科目に指定されて います。			
学 生 へ の メ ッ セ ー ジ		講義や演習には積極的に参加することを期待します。 グループ演習では他者の意見を尊重しながら積極的に発言し、グループのまとめに貢献しましょ う。			
e-mail・研究室 (連 絡 先)		安保寛明：研究室 15 hambo@yachts.ac.jp 高谷 新：研究室 10 stakaya@yachts.ac.jp			

授 業 科 目 名		学 科 (科目区分)	担 当 教 員 職・氏名	必修・選 択の別	学年	開講時期	単 位 数	先修条件 指定科目	科目等 履修生
精神保健学実習		看護学科 (専門科目)	教 授・安保 寛明 講 師・高谷 新	必修	2	後期	1	非該当	不可
授業概要		精神保健の観点から人々の暮らしと精神的健康について理解し、精神保健に関する自助、共助、公助を促進するための場や環境について、実践を通して理解する。							
一般目標		1. 精神看護を必要とする人との関係形成と対象者の理解を深める方法が身につく 2. 精神看護を必要とする人の健康課題と社会的背景について理解することができる							
到達目標		1. 健康と生活の質の概念における精神健康の意味と意義について説明できる。 2. 精神健康の保持と増進に有効な心理的安全性のある場について、行動とともに説明できる。 3. 社会的包摂の概念に基づき、精神保健の面で配慮が必要な人々に対する機会や援助について例とともに説明できる。 4. 援助希求行動の存在を踏まえ、実習指導者や学生同士などとの学習者援助関係を活用できる。 5. 精神障がいや有する人を支援しうる医療福祉資源について具体例とともに述べられる。 6. 精神保健の面で配慮が必要な人々との関係形成において、行動を通じて尊厳や心理社会的基盤の尊重を表明できる。							
成績評価方針 評 価 方 法 および基準		精神保健学実習要項参照							
授業計画									
回	日付	授業項目・学習課題	学習内容・学習方法				授業外学習など		担当
	5. 10. 2 (月) ～ 5. 12. 22 (金) ※この期間の 火・水曜日 5日間	・精神保健の面で配慮が必要な人々のための環境の理解 ・場への参加を通じた環境のアセスメント ・実習指導者や精神科専門職者および他実習生との関係の構築と学習への活用・	1. 精神障がいや精神疾患を有する人のための機会や場に同席、参加する 2. デイケア、就労支援などの経験を通じて、心理的安全性のある環境のための環境や援助の工夫を把握する 3. 社会参加にむけた共助の場に参加することを通じて、共助の場に必要要素と専門職者や専門的な訓練を受けた人々が行うファシリテーションなどの場づくりの工夫について見学や説明を通じて理解する ※詳細は精神保健学実習要項を参照のこと				・実習施設のオリエンテーション ・対象の理解に必要な復習・予習は主体的に行う		安保 ・ 高谷
教 科 書 参 考 図 書		参考図書：精神看護実習ガイド（照林社）							
履 修 上 の 注 意		合理的配慮を必要とする学生は、事前に申し出ること。 この科目の履修に際し、精神看護学概論を修得しておく必要があります。 この授業科目は、①急性期看護学実習、②慢性看護学実習、③老年看護学実習、④精神看護学実習、⑤母性看護学実習、⑥小児看護学実習Ⅱ、⑦訪問看護実習、⑧地域包括支援実習、⑨周産期生活支援実習においてあらかじめ修得しておかなければならない科目に指定されています。 本科目は教員と実習指導者（看護師等）の指導の下、精神科デイケア、就労継続支援事業所等において精神保健について学習する科目であり、高等教育の負担軽減制度の要件に定める「実務経験のある教員による科目」としています。							
学 生 へ の メ ッ セ ー ジ		心身の健康度を維持するよう実習に備え準備してください。							
e-mail・研究室 (連 絡 先)		安保寛明：研究室 15 hambo@yachts.ac.jp 高谷新：研究室 10 stakaya@yachts.ac.jp							

授 業 科 目 名	学 科 (科目区分)	担 当 教 員 職・氏名	必修・選 択の別	学年	開講 時期	単位 数	先修条件 指定科目	科目等 履修生
精神看護学実習	看護学科 (専門科目)	教 授・安保 寛明 師・高谷 新 助 教・鈴木 龍生	必修	3	後期	2	該当	否
授業概要	精神看護を必要とする人を総合的に理解し、その人の回復過程と生活支援の全体像を理解しながら、精神健康の向上に寄与する看護について実践を通じて教授する。							
一般目標	1. 精神看護を必要とする人との関係形成と対象者の理解を深める方法が身につく。 2. 精神看護を必要とする人の健康課題と精神機能および社会的背景を明らかにできる。 3. 精神疾病を有する人への援助について、アセスメントをもとに計画的に実施することができる。 4. 精神障がい者を有する人を支援しうる医療福祉資源について具体例とともに述べられる。 5. 権利擁護や地域保健・福祉などの連携を通して、看護職者の役割を理解することができる。							
到達目標	1. 精神看護を必要とする人との信頼関係を形成する為に、言語や行動での相互作用を説明できる。 2. 精神看護を必要とする人について、生理・心理・社会的側面を念頭においた理論的枠組みを用いて説明することができる。 3. 精神看護を必要とする人に対して行われる診療や提供される療養環境を整理して説明できる。 4. 精神看護を必要とする人に存在する人間的魅力や強み（ストレングス）を明らかにすることができる。 5. 精神疾病を有する人への援助について、アセスメントをもとに計画的に実施することができる。 6. 精神保健福祉法や虐待防止法などに存在する権利擁護の観点を踏まえた構造や行為の工夫を説明できる。 7. 実習指導者や学生同士などの関係性の違いを活用した学習者間援助関係を活用できる。 8. 精神障がい者を有する人を支援しうる医療福祉資源について具体例とともに述べられる。							
成績評価方針 評 価 方 法 および基準	精神看護学実習要項参照							
授業計画								
回	日付	授業項目・学習課題	学習内容・学習方法			授業外学習など	担当	
	5. 9.19 (火) ～ 6. 2.16 (金)	・精神疾患を有する人の健康面の アセスメント ・精神疾患を有する人への関係形 成 ・精神障がい者との治療的関係 ・精神科デイケアと訪問看護 ・精神科医療機関における治療段 階と看護の機能 ・精神科医療機関における患者の 権利擁護 ＊詳細は精神看護学実習要項を 参照のこと	1) 精神看護学実習の意義を理解 し、意義と目的と計画の関係性 を言語により明確化する 2) 精神科に入院している患者を受 け持ち、精神機能と心理状態、 健康課題、優先して尊厳するべ き事項をアセスメントする 3) 患者やその周囲の人々との関係 形成をはかる。プロセスレコー ドを用いて場面を再現する。 4) 集団療法等を通じて人間関係や 機会の違いによる影響の違いを 考察する。 5) 精神科訪問看護やデイケアに参 加して、状況に応じた援助の特 徴を考察する。			・実習施設のオリ エンテーション ・対象の理解に必 要な復習・予習 は主体的に行う	安保 ・ 高谷 ・ 鈴木	
教 科 書 参 考 図 書	参考図書：精神看護実習ガイド（照林社）							
履 修 上 の 注 意	合理的配慮を必要とする学生は、事前に申し出ること。 以下の科目を修得しておくこと 看護学概論、基礎看護方法論Ⅰ、基礎看護方法論Ⅱ、看護倫理、看護理論、看護過程論、看護人間関係論、ヘルスアセスメント論、家族看護学、基礎看護学実習Ⅰ、基礎看護学実習Ⅱ、成人看護学概論、成人急性期看護方法論Ⅰ、成人慢性期看護方法論Ⅰ、成人急性期看護方法論Ⅱ、成人慢性期看護方法論Ⅱ、老年看護方法論、老年看護学実習Ⅰ、精神看護学概論、精神看護方法論、母性看護学概論、母性看護方法論Ⅰ、母性看護方法論Ⅱ、小児看護方法論、小児看護学実習Ⅰ、在宅看護概論、在宅看護方法論Ⅰ、在宅看護方法論Ⅱ							
学 生 へ の メ ッ セ ー ジ	心身の健康度を維持するように準備してください。 本科目は、教員と実習指導者（看護師等）の指導の下、精神科医療機関（臨床）における看護過程を展開する科目であり、高等教育の負担経験制度の要件に定める「実務経験のある教員による科目」としています。							
e-mail・研究室 (連 絡 先)	安保寛明：研究室 15 hambo@yachts.ac.jp 高谷 新：研究室 10 stakaya@yachts.ac.jp							

授 業 科 目 名	学科 (科目区分)	担 当 教 員 職・氏名	必修・選 択の別	学年	開講 時期	単位 数	先修条件 指定科目	科目等 履修生			
在宅看護概論	看護学科 (専門科目)	准教授・鈴木 育子	必修	2	後期	1	非該当	可			
授業概要	在宅療養者と家族への看護について、在宅ケアの現状および訪問看護制度を踏まえて教授する。										
一般目標	在宅療養者を取り巻く社会情勢及び制度、在宅療養者と家族への看護の特徴を理解する。										
到達目標	1. 在宅療養者を取り巻く社会情勢と課題を説明できる。 2. 在宅ケアにかかわる制度、在宅ケアの対象、方法、機能を説明できる。 3. 訪問看護の制度、サービス提供の仕組み、現状を説明できる。 4. 在宅療養において活用される社会資源について説明できる。 5. 在宅療養者のケアマネジメントについて説明できる。 6. 在宅療養者と家族を対象とした看護の機能を説明できる。										
成績評価方針 評 価 方 法 および基準	方針：到達目標の達成度を判断する。 評価方法と基準：試験 70％ 授業参加による学び 30％ 学びの内容を記述したものから、授業参加への積極性、目標への到達度を判断する。										
授業計画											
回	日付	授業項目・学習課題	学習内容・学習方法			授業外学習など					
1	5. 9. 29 (金) 3	在宅療養者を取り巻く社会情勢 と制度、社会資源	在宅ケアの現状			社会福祉論、人口 統計など既習の知 識の整理					
2	5. 10. 6 (金) 3		訪問看護の現状								
3	5. 10. 13 (金) 3		在宅ケアにかかわる制度① 訪問看護								
4	5. 10. 20 (金) 3		在宅ケアにかかわる制度② 介護保険								
5	5. 10. 27 (金) 3		在宅ケアにかかわる制度③ 地域包括ケアシステム								
6	5. 11. 10 (金) 3		在宅ケアにかかわる社会資源 関係機関・関係職種 在宅療養者のケアマネジメント								
7	5. 11. 17 (金) 3	在宅療養者と家族への支援	在宅療養者と介護者の現状 家族の健康とレスパイトケア								
8	5. 11. 24 (金) 3	まとめ									
教 科 書 参 考 図 書	参考図書：看護学テキスト NiCE 在宅看護論 自分らしい生活の継続をめざして 改訂第2版 南江堂 家族看護を基盤とした地域・在宅看護論 第6版 日本看護協会出版会 ナーシング・グラフィック 地域・在宅看護論①「地域療養を支えるケア」 メディカ出版 訪問看護基本テキスト 総論編 日本看護協会出版会 国民衛生の動向、国民の福祉と介護の動向 厚生労働統計協会										
履 修 上 の 注 意	この授業科目は、①急性期看護学実習、②慢性看護学実習、③老年看護学実習、④精神看護学実習、 ⑤母性看護学実習、⑥小児看護学実習Ⅱ、⑦訪問看護実習、⑧地域包括支援実習、⑨周産期生活支 援実習においてあらかじめ修得しておかなければならない科目に指定されています。										
学 生 へ の メ ッ セ ー ジ	看護の視点を広げる機会にしてください。										
e-mail・研究室 (連 絡 先)	鈴木育子：研究室 8 isuzuki@yachts.ac.jp										

授 業 科 目 名		学科 (科目区分)	担 当 教 員 職・氏名	必修・選 択の別	学年	開講 時期	単位 数	先修条件 指定科目	科目等 履修生
在宅看護方法論Ⅰ		看護学科 (専門科目)	助 教・栗田 敦子	必修	2	後期	1	非該当	可
授業概要		在宅療養者と家族への支援方法について教授する。							
一般目標		在宅療養者と家族に対する看護の役割と実践の基本が理解できる。							
到達目標		1. 訪問看護の特徴が説明できる。 2. 在宅療養者と家族に対する看護の役割が説明できる。 3. 在宅療養における日常生活の援助について説明できる。 4. 在宅療養における医療処置、療養者の症状や状態に合わせた看護の基本について説明できる。							
成績評価方針 評 価 方 法 および基準		方針：到達目標の達成度を判断する。 評価方法と基準：試験 70%、授業参加による学び 30%							
授業計画									
回	日付	授業項目・学習課題	学習内容・学習方法			授業外学習 など	担当		
1	5. 12. 1 (金) 3	在宅療養者と家族に対する 看護の役割と実践の基本①	訪問看護の特性、訪問看護における看 護過程、退院支援			既習の知識、 看護技術の 復習	栗田		
2	5. 12. 8 (金) 3	在宅療養者と家族に対する 看護の役割と実践の基本②	清潔管理；自宅での清潔管理の工夫、 福祉用具、社会資源の活用						
3	5. 12. 15 (金) 3	在宅療養者の症状や状態に 合わせた看護①	難病療養者への在宅療養の支援				スポット 講師		
4	5. 12. 22 (金) 3	在宅療養者の症状や状態に 合わせた看護②	精神障害者への在宅療養の支援				スポット 講師		
5	5. 1. 5 (金) 3	在宅療養者と家族に対する 看護の役割と実践の基本③	呼吸管理；気管切開・人工呼吸器装着 者のケア、在宅酸素療法 栄養管理；在宅で胃ろう、経管栄養を 行う人へのケア、点滴の管理				栗田		
6	5. 1. 11 (木) 3	在宅療養者と家族に対する 看護の役割と実践の基本④	排泄の管理；自立した排泄への支援、 排泄障害のケア、ストーマケア						
7	5. 1. 18 (木) 3	在宅療養者の症状や状態に 合わせた看護③	健康障がいを持つ子どもの在宅療養の 支援						
8	5. 1. 19 (金) 3	まとめ	感染予防、終末期のケア、健康危機管 理、まとめ						
教 科 書 参 考 図 書		【教科書】 ナーシング・グラフィカ 地域・在宅看護論②「地域療養を支える技術」 メディカ出版 【参考図書】 家族看護を基盤とした 地域・在宅看護論 第6版 日本看護協会出版会 看護実践のための根拠がわかる 在宅看護技術 第4版 メヂカルフレンド 子どもが元気になる在宅ケア 南山堂							
履 修 上 の 注 意		この授業科目は、①急性期看護学実習、②慢性看護学実習、③老年看護学実習、④精神看護学実習、⑤母性看護学実習、⑥小児看護学実習Ⅱ、⑦訪問看護実習、⑧地域包括支援実習、⑨周産期生活支援実習においてあらかじめ修得しておかなければならない科目に指定されています。							
学 生 へ の メ ッ セ ー ジ		他の看護学、在宅看護概論での学びを振り返りながら、在宅療養者と家族の希望に沿うこと、生活を支えることについて理解を深めてください。							
e-mail・研究室 (連 絡 先)		栗田敦子：第2 共同研究室 akurita@yachts.ac.jp							

授 業 科 目 名		学 科 (科目区分)	担 当 教 員 職・氏名		必修・選 択の別	学年	開講時期	単位 数	先修条件 指定科目	科目等 履修生
在宅看護方法論Ⅱ		看護学科 (専門科目)	教 授・菅原 京子 教 授・桂 晶子 准教授・鈴木 育子 准教授・今野 浩之 助 教・栗田 敦子		必修	3	前期	1	非該当	否
授業概要		既習の各専門領域の知識、技術の統合が必要な個別性を重視した在宅療養者、家族へのケア方法を教授する。在宅療養者と家族への支援を行うための態度および基礎的実践能力を養う。								
一般目標		1. 在宅看護において必要とされる態度を身につける。 2. 在宅療養者と家族を対象にした基本的な看護を習得する。 3. 在宅看護における関係職種との連携について理解できる。								
到達目標		1. 在宅看護に必要なマナーと接遇を自ら考え実践できる。 2. 在宅療養者と家族の健康状態や発達段階、家族関係、生活状況などを総合的に考えながら、援助できる。 3. 在宅看護における関係職種との連携の実際と意義について説明できる。								
成績評価方針 評 価 方 法 および基準		方針：演習態度と提出された記録物の内容等から到達目標の達成度を総合的に判断して評価する。 方法と基準：演習態度（身だしなみ、積極性）と授業で提出する全ての記録物 70% レポート「演習を通して学んだこと」 30%								
授業計画										
回	日付		授業項目・学習課題		学習内容・学習方法		授業外学習 など		担当	
1	5. 4. 12 (水) 3		オリエンテーション 訪問看護師の心得 在宅ケアの工夫		演習 ・訪問看護師に必要なマナーと心得 ・在宅療養で使用する介護用品 ・看護ケアの工夫		他の看護学での学びを総動員して実習に臨むことができるよう、これまで学習した知識、技術を十分復習してください。		栗田 地域 教員	
2	5. 4. 12 (水) 4									
3	5. 4. 19 (水) 3		在宅での摂食・嚥下、言語へのアプローチ		言語聴覚士による演習 ・在宅における歯科衛生士との協働				スポッ ト 講師	
4	5. 4. 19 (水) 4		在宅での福祉用具の活用		福祉用具専門相談員による演習 ・在宅における福祉用具専門相談員との協働				スポッ ト 講師	
5	5. 4. 26 (水) 3		口腔ケア		歯科衛生士による演習 ・在宅における歯科衛生士との協働				スポッ ト 講師	
6	5. 4. 26 (水) 4									
7	5. 5. 10 (水) 3		在宅での作業療法		作業療法士による演習 ・在宅における作業療法士との協働				スポッ ト 講師	
8	5. 5. 10 (水) 4									
9	5. 5. 17 (水) 3		在宅での呼吸療法		呼吸理学療法の演習 ・呼吸リハビリテーション				赤塚 地域教員	
10	5. 5. 17 (水) 4				在宅呼吸療法に使用する機器 ・人工呼吸器、酸素濃縮器等					
11	5. 5. 24 (水) 3		在宅での理学療法		在宅での理学療法の演習 ・在宅における理学療法士との協働 ・ポジショニング・関節可動域訓練				スポッ ト 講師	
12	5. 5. 24 (水) 4									
13	5. 5. 31 (水) 3		在宅療養者のアセスメントと看護計画立案		グループワーク ・対象の理解 ・情報の整理、アセスメント ・看護計画立案				栗田 地域 教員	
14	5. 5. 31 (水) 4									
15	5. 6. 7 (水) 3									
教 科 書 参 考 図 書			参考図書は適宜紹介します。							
履 修 上 の 注 意			この授業科目は、①成人急性期看護学実習、②成人慢性期看護学実習、③老年看護学実習Ⅱ、④精神看護学実習、⑤母性看護学実習、⑥小児看護学実習Ⅱ、⑦在宅訪問看護実習、⑧在宅看護連携実習、⑨妊娠期助産実習においてあらかじめ修得しておかなければならない科目に指定されています。							
学 生 へ の メ ッ セ ー ジ			後期の在宅訪問看護実習に向けて、看護学生としてのマナー、倫理的態度を身につけてください。各自が自立した姿勢で実習に臨み、療養者の生活を理解してください。							
e-mail・研究室 (連 絡 先)			菅原京子：研究室 7 ksugawara@yachts.ac.jp 桂 晶子：研究室 9 skatsura@yachts.ac.jp 鈴木育子：研究室 8 isuzuki@yachts.ac.jp 今野浩之：研究室 17 hkonno@yachts.ac.jp 栗田敦子：第2 共同研究室 akurita@yachts.ac.jp							

授 業 科 目 名	学科 (科目区分)	担 当 教 員 職・氏名	必修・選 択の別	学年	開講時期	単位 数	先修条件 指定科目	科目等 履修生
在宅訪問看護実習	看護学科 (専門科目)	教 授・菅原 京子 教 授・桂 晶子 准教授・鈴木 育子 准教授・今野 浩之 助 教・栗田 敦子	必修	3	後期	1	該当	否
授業概要	訪問看護ステーションでの実習を通して、在宅で生活する対象者（療養者と家族）を統合的に理解し、対象者にとっての最適な健康状態を生み出すことにより、対象者が望んでいる生活や生き方ができるよう支援するための基礎的能力と態度を養う。							
一般目標	・在宅看護の対象である療養者とその家族を理解し、支援できる。 ・訪問看護ステーションの役割と機能を理解する。 ・在宅看護における関係職種・関係機関との連携を理解する。 ・在宅で生活する対象者を支援するための看護職の役割と機能を理解する。							
到達目標	1. 対象者の生活と生活する地域の特徴を説明できる。 2. 対象者との関係を形成できる。 3. 個別性に合わせた看護を考えることができる。 4. 訪問看護ステーションの役割と機能を説明できる。 5. 関係職種・関係機関との連携について、実習で体験した具体的事象と関連させて説明できる。 6. 在宅で生活する対象者を支援するための看護職の役割と課題を説明できる。							
成績評価方針 評 価 方 法 および基準	方針：実習態度と提出された記録物の内容等から到達目標の達成度を判断する。 方法：対象者の理解と関係形成、看護の考察は提出された記録物から、訪問看護ステーション、関係職種・関係機関との連携についての理解は、記録物に加えて、カンファレンスでの発表内容等から総合的に評価する。 基準：記録物 80%、カンファレンスでの発表内容及び実習態度 20%							
授業計画								
回	日付	授業項目・学習課題	学習内容・学習方法			授業外学習など		
	5. 9. 19（火） ～ 6. 2. 16（金）	在宅訪問看護実習要項を参照	実習場所：訪問看護ステーション 詳細は在宅訪問看護実習要項参照			実習に関連する専門 科目および専門基礎 科目の復習		
教 科 書 参 考 図 書	指定はありません。在宅看護概論、在宅看護方法論Ⅰ・Ⅱをはじめとする関連科目で使用したもの。その他、必要な図書、雑誌等を積極的に自分で探し活用してください。							
履 修 上 の 注 意	以下の科目を修得しておくこと 看護学概論、基礎看護方法論Ⅰ、基礎看護方法論Ⅱ、看護倫理、看護理論、看護過程論、看護人間関係論、ヘルスアセスメント論、家族看護学、基礎看護学実習Ⅰ、基礎看護学実習Ⅱ、成人看護学概論、成人急性期看護方法論Ⅰ、成人慢性期看護方法論Ⅰ、成人急性期看護方法論Ⅱ、成人慢性期看護方法論Ⅱ、老年看護方法論、老年看護学実習Ⅰ、精神看護学概論、精神看護方法論、母性看護学概論、母性看護方法論Ⅰ、母性看護方法論Ⅱ、小児看護方法論、小児看護学実習Ⅰ、在宅看護概論、在宅看護方法論Ⅰ、在宅看護方法論Ⅱ							
学 生 へ の メ ッ セ ー ジ	体調管理には十分留意してください。自分自身が感染源にならないことはもちろんですが、体調不良時に実習することはできません。 学生の態度等は訪問看護ステーションと利用者、利用者家族との信頼関係にも影響することに留意してください。 本科目は、教員と実習指導者（看護師等）の指導の下、訪問看護ステーションにおいて看護過程を展開する科目であり、高等教育の負担軽減制度の要件に定める「実務経験のある教員による科目」としています。							
e-mail・研究室 (連 絡 先)	菅原：研究室 7 ksugawara@yachts.ac.jp 桂：研究室 9 skatsura@yachts.ac.jp 鈴木：研究室 8 isuzuki@yachts.ac.jp 今野：研究室 17 hkono@yachts.ac.jp 栗田：第2共同研究室 akurita@yachts.ac.jp							

授 業 科 目 名		学科 (科目区分)	担 当 教 員 職・氏名	必修・選 択の別	学年	開講時期	単位 数	先修条件 指定科目	科目等 履修生
在宅看護連携実習		看護学科 (専門科目)	教 授・菅原 京子 教 授・桂 晶子 准教授・鈴木 育子 准教授・今野 浩之 助 教・栗田 敦子	必修	3	後期	1	該当	否
授業概要		地域包括支援センターの役割と機能を理解し、在宅高齢者と家族を支える地域ケアシステムにおける多職種等の連携を基盤にした看護活動の基礎的能力を養う。							
一般目標		地域包括支援センターにおける看護職の役割と地域生活の維持に視点を置いた看護を理解する。							
到達目標		1. 地域包括支援センターの概要を説明できる。 2. 地域包括支援センターの役割と機能について、具体的事象と関連させて説明できる。 3. 地域生活の維持に視点を置いた個別事例への看護を説明できる。 4. 関係機関や関係職種との連携について、具体的事象と関連させて説明できる。 5. 地域のサービスネットワーク構築のための看護職の役割と課題を説明できる。							
成績評価方針 評 価 方 法 および基準		方針：実習態度と提出された記録物の内容等から到達目標の達成度を評価する。 方法：地域包括支援センターの担当地区、役割と機能、看護は提出された記録物から、関係機関や関係職種との連携と地域のサービスネットワークにおける看護職の役割と機能は、記録物に加えて、カンファレンスでの発表内容等から総合的に判断する。 基準：記録物 80%、カンファレンスでの発表内容及び実習態度 20%							
授業計画									
回	日付	授業項目・学習課題			学習内容・学習方法			授業外学習など	
	5. 9. 19 (火) ～ 6. 2. 16 (金)	在宅看護連携実習要項を参照			実習場所：地域包括支援センター 詳細は在宅看護連携実習要項参照			実習に関連する専門 科目および専門基礎 科目の復習	
教 科 書 参 考 図 書		指定はありません。公衆衛生看護学及び在宅看護関連科目で使用したもの。その他、必要な図書、雑誌等を積極的に自分で探し活用してください。							
履 修 上 の 注 意		以下の科目を履修しておくこと 看護学概論、基礎看護方法論Ⅰ、基礎看護方法論Ⅱ、看護倫理、看護理論、看護過程論、看護人間関係論、ヘルスアセスメント論、家族看護学、基礎看護学実習Ⅰ、基礎看護学実習Ⅱ、成人看護学概論、成人急性期看護方法論Ⅰ、成人慢性期看護方法論Ⅰ、成人急性期看護方法論Ⅱ、成人慢性期看護方法論Ⅱ、老年看護方法論、老年看護学実習Ⅰ、精神看護学概論、精神看護方法論、母性看護学概論、母性看護方法論Ⅰ、母性看護方法論Ⅱ、小児看護方法論、小児看護学実習Ⅰ、在宅看護概論、在宅看護方法論Ⅰ、在宅看護方法論Ⅱ							
学 生 へ の メ ッ セ ー ジ		既習の科目の復習を積極的に行い、十分に事前学習をして実習に臨んでください。 体調管理には十分留意してください。自分自身が感染源にならないことはもちろんですが、体調不良時に実習することはできません。 社会人としてのマナーを十分に守ってください。 本科目は、教員と実習指導者（看護師等）の指導の下、地域包括支援センターにおいて看護過程を展開する科目であり、高等教育の負担軽減制度の要件に定める「実務経験のある教員による科目」としています。							
e-mail・研究室 (連 絡 先)		菅原：研究室 7 ksugawara@yachts.ac.jp 桂：研究室 9 skatsura@yachts.ac.jp 鈴木：研究室 8 isuzuki@yachts.ac.jp 今野：研究室 17 hkonno@yachts.ac.jp 栗田：第2共同研究室 akurita@yachts.ac.jp							

授 業 科 目 名		学科 (科目区分)	担 当 教 員 職・氏名	必修・選 択の別	学年	開講時期	単位 数	先修条件 指定科目	科目等 履修生
公衆衛生看護学概論		看護学科 (専門科目)	教授・菅原 京子	必修	2	前期	1	非該当	可
授業概要		地域住民の健康を支援する、公衆衛生看護（行政分野、産業保健、学校保健）と在宅看護に共通する地域看護の概念と歴史、保健師制度・教育、保健師活動の場と支援方法について教授する。また、行政分野における保健師活動の活動目標、活動方法の特徴について教授する。							
一般目標		地域看護の歴史の変遷を学び、社会の変化に応じた地域における看護活動の必要性と意義について理解する。さらに、健康課題を住民とともに解決することを目指す地域ケアシステムにおける保健師の役割について考察する。							
到達目標		1. 人々の健康と生活条件の関係を具体的に述べることができる。 2. 地域看護、公衆衛生看護、在宅看護のそれぞれの定義・対象・働きかけの方法の特徴、地域看護と公衆衛生看護・在宅看護の関係性について述べることができる。 3. 地域看護の誕生と発展の歴史を時代区分別に述べることができる。 4. 保健師制度・教育の変遷を理解し、今日の課題について自分の考えを発表することができる。 5. 保健師活動の場と支援方法について具体的に述べることができる。 6. 公衆衛生看護、とくに行政分野における保健師活動の活動目標、活動方法の特徴を具体的に述べることができる。 7. 今後の保健師活動の展望を持つことができる。							
成績評価方針 評 価 方 法 および基準		・定期試験（80%）：上記の到達目標を達成しているかどうか判断します。知識中心の問題 30 点、記述問題 70 点を予定しています。8 回目の授業で詳しく説明します。 ・毎回の学び（20%）：毎回の出席カードの記入内容によって、毎回の学習内容を理解しているかどうか判断します。なお、5 回目の講義に関連した提出課題については授業に反映させますが、成績評価には用いません。							
授業計画									
回	日付	授業項目・学習課題	学習内容・学習方法			授業外学習など		担当	
1	5. 4. 6 (木) 1	地域看護、公衆衛生看護、在宅看護の概念	テキストを用いて地域看護、公衆衛生看護、在宅看護の定義、対象を学ぶ。人々の健康と生活条件の関係性について考え発表する。			人々の健康と生活条件が関係している例を考えて授業に臨む		菅原	
2	5. 4. 20 (木) 1	地域看護の歴史	テキスト・DVD を用いて世界的視点から見た地域看護活動の展開、戦前から今日に至る日本の地域看護の歴史を学ぶ。						
3	5. 4. 27 (木) 1								
4	5. 5. 11 (木) 1	保健師制度	法令要覧を通して保健婦規則、保健師助産師看護師法における保健師の定義、業務規定、法律上の看護と保健指導を学ぶ。						
5	5. 5. 18 (木) 1	保健師教育	保健師教育の変遷と大学/大学院教育の関係について学び、保健師教育の展望に関する意見を発表する。			配布された保健師教育に関する文献を読んだ上で授業に臨む			
6	5. 5. 25 (木) 1	保健師活動の場と支援方法	関連文献から保健師活動の多様な場と支援方法について学ぶ。			DVD 視聴後、課題を提出する			
7	5. 6. 1 (木) 1	公衆衛生看護：行政分野における保健師活動	テキストや DVD 等を通して、保健所・市町村保健センターの保健師活動の実態と活動目標、活動方法の特徴を学ぶ。						
8	5. 6. 8 (木) 1	まとめ	保健師活動の今後の展望を考える。						
教 科 書 参 考 図 書		教 科 書：門脇豊子他編「看護法令要覧」日本看護協会出版会。 教 科 書：上野昌江他編「公衆衛生看護学第 3 版」中央法規出版。 参考図書：宮崎美砂子他編「最新 公衆衛生看護学 総論」日本看護協会出版会。木下由美子編「エッセンシャル地域看護学」医歯薬出版。佐々木明子監修「DVD 地域看護活動とヘルスプロモーション第 1 巻」丸善。湯楨ます監修「DVD 公衆衛生看護の歴史」ビデオ・パック・ニッポン。							
履 修 上 の 注 意		公衆衛生看護のうち産業保健については産業保健論で、学校保健については学校保健論で扱います。在宅看護については在宅看護概論、在宅看護方法論Ⅰで詳しく学んでください。							
学 生 へ の メ ッ セ ー ジ		・人々の健康を社会的条件の中で捉える視点を持ちましょう。新聞等を読み、社会の動向に目を配りましょう。 ・授業では学生の皆さんの意見を求めます。発言することで自分の考えはまとまってきます。また、他者の意見を聞いて自分の考えの幅を広げる機会としてください。							
e-mail・研究室 (連 絡 先)		菅原京子：研究室 7 ksugawara@yachts.ac.jp							

授 業 科 目 名		学科 (科目区分)	担 当 教 員 職・氏名	必修・選 択の別	学年	開講 時期	単位 数	先修条件 指定科目	科目等 履修生			
保健医療福祉政策論		看護学科 (専門科目)	非常勤講師 阿彦 忠之 教授 菅原 京子	必修	2	後期	2	非該当	可			
授業概要		健康政策に関する世界的潮流を概観しながら、わが国の保健医療福祉に関する制度や施策等の課題や、地域の健康課題と保健医療福祉政策の関係について学ぶ。										
一般目標		1. Health for All の実現に向けた保健医療福祉政策の進め方や行政機関の役割等について考察し、理解を深める。 2. 地域の健康課題と保健医療福祉政策の関係について、ケースメソッド演習を通して理解する。										
到達目標		1. 健康の定義と権利、および公衆衛生の定義と重要性を理解したうえで、「健康政策がめざすものは何か」「健康な町とはどのような町か」「住民の健康増進及び福祉向上のための公的責任とは何か」「地域保健行政における都道府県と市町村の役割分担はどうなっているのか」および「保健所と市町村保健センターの相違点は何か」などを考え、具体的に述べることができる。 2. 保健指導、健康づくり、地域包括ケアに関するケースメソッド演習を通して、地域の健康課題と保健医療福祉政策の関係について具体的に述べることができる。 3. 保健医療福祉政策の形成過程等における地方公共団体の専門職（保健師等）の役割を考え、具体的に述べることができる。										
成績評価方針 評価方法 および基準		・ 定期試験 70% ： 上記の到達目標を達成しているかどうか判断します。 ・ 課題レポート 30%： 上記の到達目標に沿った内容かを判断基準とします。										
授業計画												
回	日付	授業項目・学習課題	学習内容・学習方法				授業外学習 など	担当				
1	5. 10. 6 (金) 1	公衆衛生と健康政策	公衆衛生の定義と重要性、健康の定義と健康観、健康の権利と国及び地方自治体の役割					阿彦				
2	5. 10. 6 (金) 2	健康政策の世界的潮流	WHOの健康戦略の変遷、ヘルスプロモーションとヘルシーシティ、健康支援環境と健康なまちづくり									
3	5. 10. 13 (金) 1	保健福祉に関する制度 と行政機関等の役割	わが国の保健福祉制度の変遷と課題									
4	5. 10. 13 (金) 2		地域保健の体系と保健所・市町村保健センター等の役割、保健師等専門職の役割									
5	5. 10. 20 (金) 1	わが国の医療制度の特徴と医療政策の動向	国民皆保険を基盤とした医療制度の仕組みと変遷、医療制度改革等の動向									
6	5. 10. 20 (金) 2	保健福祉分野における政策の動向	保健福祉政策の基盤となる各種法規と近年の政策の動向（例：高齢者保健福祉政策、がん対策、感染症対策）									
7	5. 10. 27 (金) 1	保健医療福祉に関する計画の策定・実施・評価	地方自治体の基本構想と保健医療福祉計画の関連、保健医療福祉に関する各種計画（医療計画、地域医療構想、健康日本21等）の目的、評価指標の設定、計画の進行管理（PDCA サイクル）									
8	5. 10. 27 (金) 2											
9	5. 11. 10 (金) 1	保健医療福祉政策 ケースメソッド演習	保健医療福祉行政の課題解決等に関する事例演習、解説 ・ 保健指導、健康づくり							地域包括支援センター 保健師の講義を踏まえたグループワーク	スポット (富士)	
10	5. 11. 10 (金) 2											
11	5. 11. 15 (水) 1		・ 地域包括ケア 地域包括支援センターの役割 地域の課題と支援 地域の把握、アセスメント 多様な高齢者/家族/住民支援									
12	5. 11. 22 (水) 1											
13	5. 11. 29 (水) 1											
14	5. 12. 6 (水) 1											
15	5. 12. 13 (水) 1	まとめ					地域 教員					

教科書 参 考 図 書	教科書 ナーシング・グラフィカ 健康支援と社会保障(2)：公衆衛生，メディカ出版
履 修 上 の 注 意	授業では原則として毎回、学習課題の理解度等を確認するためのレポート提出を求めます。 地域包括ケアのケースメソッド演習は、3年次の地域包括支援実習に繋がります。
学 生 へ の メ ッ セ ー ジ	講義形式の授業においても、課題を与えて受講者の考えを発表してもらう機会を多く設けるので、積極的な発言を期待しております。
e-mail・研究室 (連 絡 先)	菅原京子：研究室7 ksugawara@yachts.ac.jp

授 業 科 目 名		学 科 (科目区分)	担 当 教 員 職・氏名		必修・選 択の別	学年	開講 時期	単位 数	先修条件 指定科目	科目等 履修生
保健統計学		看護学科 (専門科目)	助 教	栗田 敦子 非常勤講師 大益 史弘	選択	3	前期	2	非該当	可
授業概要		集団の健康課題を把握するための健康指標とそれらを導き出す統計解析手法等について教授する。さらに 集団の健康指標を可視化し、健康課題抽出ができるよう、統計解析手法の演習を行う。								
一般目標		1. 健康指標の構造や基本的考え方を理解し、健康指標を算出するための方法を修得できる。 2. データ解析結果に基づいた考え方を修得できる。 3. 人口統計や保健統計調査を理解できる。 4. 集団の健康指標を可視化し、健康課題抽出するためのデータの統計学的解析の具体的方法を修得できる。								
到達目標		1. 保健統計学の概要について説明することができる。 2. 健康指標の構造と各々の健康指標が持つ課題について具体的に述べることができる。 3. 人口統計や保健統計調査の特徴と各々の人口統計が持つ課題について具体的に述べることができる。 4. 統計学的手法を用いてデータの解析と集団の健康指標を可視化ができる。 5. 基本的なデータの事例を用いて、健康課題が抽出できる。								
成績評価方針 評 価 方 法 および基準		・定期試験 60％：保健統計学の基礎的知識と考え方、保健統計の実際 ・演習の成果物 40％：統計学的手法を用いてデータの解析と集団の健康指標を可視化した成果物								
授業計画										
回	日付	授業項目・学習課題		学習内容・学習方法			授業外学習など		担当	
1	5. 4. 10 (月) 1	保健統計指標 I		・保健統計学の概要と、人口問題について学習する。					大益	
2	5. 4. 14 (金) 5	保健統計指標 II		・出生と死亡を中心とした健康の指標について学習する。					大益	
3	5. 4. 17 (月) 1	平均・分散・標準偏差		・様々な平均値と標準偏差の算出方法、また、それらの表す事象を学習する。					大益	
4	5. 4. 21 (金) 5	相関係数		・相関の意味と相関係数の算出方法について学習する。					大益	
5	5. 4. 24 (月) 1	回帰直線		・直線回帰式の表わし方と求め方を学習する。					大益	
6	5. 4. 28 (金) 5	検定の理論		・正規分布性と確率分布曲線をもとにして検定の理論について学習する。					大益	
7	5. 5. 1 (月) 1	いろいろな検定法 I		・F 分布曲線と T 分布曲線をもとにした検定方法を学習する。					大益	
8	5. 5. 8 (月) 1	いろいろな検定法 II		・カイ 2 乗分布曲線をもとにした検定方法を学習する。					大益	
9	5. 5. 15 (月) 1	表計算ソフトの活用 (情報処理方法とデータの可視化)		・データファイルの作成、データセット、表を作成する、関数を使う、グラフを書く(統計図表の作成) ・情報処理の基礎 ・健康情報の可視化			情報処理の基礎をふまえ、健康情報の可視化のための個別演習を実施する。		栗田・ スポット 講師	
10	5. 5. 22 (月) 1									
11	5. 5. 29 (月) 1									
12	5. 6. 5 (月) 1									
13	5. 6. 12 (月) 1									
14	5. 6. 19 (月) 1	健康課題の抽出		・数的データを用いて健康課題の抽出を行う。					スポット (後藤)	
15	5. 6. 19 (月) 2	・国民保健の現状 ・保健統計調査		・健康指標、人口動態、人口静態について学習する。 ・基幹統計及びその他の統計調査、医療経済統計について学習する。					スポット (後藤)	
教 科 書 参 考 図 書		教科書：「やさしい保健統計学 改訂第 5 版」縣俊彦著(南江堂)								
履修上の注意		基礎保健学や保健医療福祉政策論及び公衆衛生看護学概論と関連付けて学ぶこと								
学 生 へ の メ ッ セ ー ジ		保健統計は公衆衛生看護の活動展開のためには重要な知識と技術です。集団をとらえ、集団の特徴を表現する手法を積極的に身につけてください。								
e-mail・研究室 (連絡先)		栗田敦子：第 2 共同研究室 akurita@yachts.ac.jp								

[illegible]

授 業 科 目 名	学科 (科目区分)	担 当 教 員 職・氏名	必修・選 択の別	学年	開講時期	単位 数	先修条件 指定科目	科目等 履修生
学校保健論	看護学科 (専門科目)	非常勤講師 新井 猛浩	選択	3	前期	1	非該当	可
授業概要	学校関係者の立場から子どもの健康を守るために必要な事柄について扱う。学校生活における健康上の配慮と健康実践能力を育てる働きかけが学校組織の中でどのように展開されているかを解説する。 また、学校保健活動の中核的役割を担う養護教諭の職務と特質、保健室の機能、保健室経営、健康相談活動及び他職種との連携のあり方についても解説する。							
一般目標	教育としての保健活動について理解する。 養護教諭の担う学校保健活動の中核的役割や他職種とのコーディネーターの役割を理解する。							
到達目標	学校保健の意義や教職員の役割、関連機関との連携について説明できる。 学校保健に果たす養護教諭の役割やコーディネーターとしての役割を説明できる。							
成績評価方針 評 価 方 法 および基準	方針：レポートによる。授業態度 20%、レポート 80%の配点とする。 基準：学校保健に果たす教職員の役割、特に学校保健の中核的役割を担う養護教諭のあり方について説明できるかどうかを評価する。							
授業計画								
回	日付	授業項目・学習課題	学習内容・学習方法			授業外学習など		担当
1	5. 5. 29 (月) 3	1 学校保健とは	パワーポイントや配付資料、教科書を用いた講義形式で行う。教育としての保健活動の役割について解説する。 また、中央教育審議会答申や学校保健安全法を踏まえ演習、ビデオ視聴などによって授業を進める場面も設けるが、適宜学生諸君が養護教諭の望ましいあり方についての自分の考えを発表する機会も設けたい。					新井
2	5. 6. 5 (月) 3	2 子どもの発育・発達						
3	5. 6. 12 (月) 3	3 健康観察・健康診断						
4	5. 6. 19 (月) 4	4 養護教諭の活動と醍醐味						
5	5. 6. 26 (月) 4	5 保健室の役割						
6	5. 7. 3 (月) 3	6 感染症とその予防						
7	5. 7. 10 (月) 3	7 保健教育について						
8	5. 7. 24 (月) 3	8 学校安全・危機管理						
教科書 参 考 図 書	教科書 渡邊正樹編著：「学校保健概論」、光生館							
履修上の注意	教科書に記載の「学習のポイント」を読んでくること。							
学 生 へ の メ ッ セ ー ジ	子どもの健やかな発育発達を保障するために持てる力を差し出すこと、子どもたちの学校生活を下支えすること、および健康問題を抱えた子どもに寄り添うこと。これらは教職員の大切な役割です。							
e-mail・研究室 (連 絡 先)	新井猛浩：arai@e.yamagata-u.ac.jp 山形大学地域教育文化学部							
連 絡 調 整 担 当 教 員	桂 晶子：研究室 9 skatsura@yachts.ac.jp							

授 業 科 目 名	学科 (科目区分)	担 当 教 員 職・氏名	必修・選 択の別	学年	開講 時期	単位 数	先修条件 指定科目	科目等 履修生
産業保健論	看護学科 (専門科目)	准 教 授・今野浩之 非常勤講師・菅原 保	選択	3	前期	1	非該当	可
授業概要	労働者の生活実態や労働内容、労働環境を把握し、労働者の生活に即した対応方法及び関連した諸法律に基づいた支援の必要性、支援の進め方について教授する。							
一般目標	・労働者を取り巻く現状および健康問題について法制度、労働衛生管理の視点から理解できる。 ・産業看護活動の実践について理解し、健康確保対策、メンタルヘルス対策の現状と課題について考察できる。							
到達目標	1．産業保健の目的および労働者の特徴を述べることができる。 2．労働衛生管理の原則を説明できる。 3．産業保健活動に関連する法制度を説明できる。 4．健康確保対策、メンタルヘルス対策の現状と課題について述べることができる。 5．産業看護活動の目的について理解し、実践と課題について説明できる。							
成績評価方針 評価方法 および基準	成績評価：課題レポート 100% ・対象者を設定し、以下の内容についてインタビューを行い産業保健の視点でレポートとしてまとめる 評価基準： ・職業と具体的な業務内容、有害業務、心身に負担のかかる業務の有無、実際に事業場で行われている定期健康診断後の事後措置、職場でのメンタルヘルス対策等が含まれていること *対象者の設定および記述方法は授業の中で指示する							
授業計画								
回	日付	授業項目・学習課題	学習内容・学習方法			授業外学習 など	担当	
1	5. 6. 22 (木) 4	産業保健総論・各論	産業保健の目的、対象、活動の内容とその実際 ・労働衛生対策の推進体制 ・労働衛生管理の基本（労働衛生の3管理） ・事業場における労働衛生管理体制 ・職業性疾病的の予防対策				菅原	
2	5. 6. 22 (木) 5							
3	後日連絡						スポット	
4		法制度	・産業保健における法制度				スポット	
5		産業保健活動の実際	・産業保健活動の実際					
6		産業保健看護活動の実際	・産業看護活動の役割と機能 ・産業看護活動の実践と課題 (職場における健康確保およびメンタルヘルス対策) ・地域保健との連携				スポット	
7								
8		産業保健活動のまとめ					今野	
教科書 参考図書	教科書：指定しない 参考書：「NEW 予防医学・公衆衛生学」南江堂 「労働衛生のしおり」中央労働災害防止協会 「産業保健ハンドブック」労働調査会 「産業看護マニュアル」南山堂							
履 修 上 の 注 意								
学 生 へ の メ ッ セ ー ジ		働く人には生活に加えて労働という背景があり、病気の診断、治療、ケアをすすめる上でも労働環境を知ることは重要です。さらに、生活習慣病、作業関連疾患、メンタルヘルスなど最近の労働者の健康問題について職域での取り組み、労働環境へのアプローチ方法も含め学んでください。						
e-mail・研究室 (連 絡 先)		今野浩之：研究室 17 hkono@yachts.ac.jp 菅原 保：医療法人健友会 本間病院 院長						

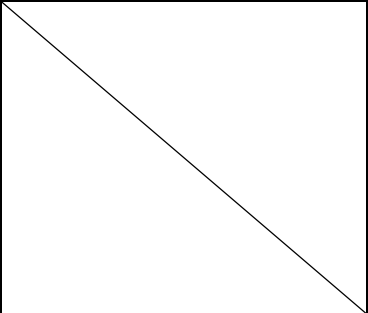
授 業 科 目 名		学科 (科目区分)	担 当 教 員 職・氏名	必修・選 択の別	学年	開講 時期	単位 数	先修条件 指定科目	科目等 履修生
公衆衛生看護方法論Ⅰ		看護学科 (専門科目)	教授・桂 晶子	選択	3	前期	1	非該当	可
授業概要		個人・家族・集団、組織に対する公衆衛生看護の具体的な支援技術および支援方法を教授する。							
一般目標		地域で生活する個人・家族・集団、組織の健康を支える公衆衛生看護の支援技術の特徴と支援手段を理解できる。また、保健指導、健康診査、健康教育、地域診断など各支援手段に関する基礎知識および展開方法、関連理論を理解できる。							
到達目標		1. 公衆衛生看護における支援技術の特徴と支援手段を説明できる。 2. 保健指導および健康相談の対象と展開方法を説明できる。 3. 健康診査の種類と対象、展開方法を説明できる。 4. 保健師が行う家庭訪問の特徴と展開方法を説明できる。 5. 地域診断に関連する理論とその活用方法、地域診断の展開方法を説明できる。 6. 健康教育に関連する理論とその活用方法、健康教育の展開方法を説明できる。 7. グループおよび地域組織の種類と発展過程、エンパワメントを高める支援方法を説明できる。							
成績評価方針 評 価 方 法 および基準		方針：到達目標の達成度を試験とレポートにより評価する。 方法および基準： ・演習の取組みと提出物 50％ 公衆衛生看護の支援に関わる知識の理解度と演習の取組み態度を評価する。 ・レポート 50％ 公衆衛生看護活動を展開する上での論理的思考力をレポートにより評価する。							
授業計画									
回	日付	授業項目・学習課題	学習内容・学習方法			授業外学習など		担当	
1	5. 4. 12 (水) 1	公衆衛生看護技術	・公衆衛生看護の対象者の特徴 ・公衆衛生看護の考え方と技術 ・公衆衛生看護における PDCA サイクル活用上の留意点			必要に応じて授業 のなかで提示する		桂	
2	5. 4. 12 (水) 2	保健指導と健康相談	・保健指導とは／健康相談とは ・健康相談の対象と方法と進め方						
3	5. 4. 19 (水) 1	健康診査	・健康診査の対象と方法 ・健康診査に必要な知識と技術						
4	5. 4. 19 (水) 2	家庭訪問	・行政保健師が行う家庭訪問の対象者と支援 の特徴 ・具体的な家庭訪問の流れ						
5	5. 4. 26 (水) 1	地域診断	・地域診断に関連する理論 ・地域診断の展開						
6	5. 4. 26 (水) 2	健康教育	・健康教育に関連する理論 ・健康教育の展開						
7	5. 5. 10 (水) 1	グループ支援 地域組織活動	・組織の種類、発展過程を通じた力量形成の ための技術 ・住民のエンパワメント						
8	5. 5. 10 (水) 2	まとめ	・公衆衛生看護活動で求められる支援技術の まとめ						
教 科 書 参 考 図 書		教科書 上野昌江他編：公衆衛生看護学 第3版。中央法規							
履 修 上 の 注 意		既習の公衆衛生看護学概論や関係科目を復習して授業に参加してください。 健康相談と保健指導はヘルス・コミュニケーションと関連付けて学修してください。							
学 生 へ の メ ッ セ ー ジ		公衆衛生看護活動は、住民の価値観の多様化や社会生活の複雑化などにより多様な対象を支援するため、 各支援方法の原則を踏まえて包括的に支援します。また、公衆衛生看護技術は、保健所・市町村にとどま らず地域包括支援センターや福祉施設等においても応用が可能な手法です。							
e-mail・研究室 (連 絡 先)		桂 晶子：研究室 9 skatsura@yachts.ac.jp							

授 業 科 目 名		学科 (科目区分)	担 当 教 員 職・氏名	必修・選 択の別	学年	開講 時期	単位 数	先修条件 指定科目	科目等 履修生
対象別公衆衛生看護論		看護学科 (専門科目)	教 授・桂 晶子	選択	3	前期	1	非該当	可
授業概要		母子、成人、高齢者、精神、障がい者（児）などライフステージや健康状態を踏まえた対象別の公衆衛生看護活動を教授する。							
一般目標		ライフステージや健康状態を踏まえた対象別の支援に関する動向、法制度、支援対象者の特性、健康状態および健康課題を理解する。これらの知識を基に支援対象者（家族、コミュニティを含む）に対する公衆衛生看護活動を理解する。							
到達目標		1. 母子、成人、高齢者、精神、障がい者（児）などライフステージや健康状態を踏まえた対象別の支援に関する動向、法制度を理解し記述できる。 2. ライフステージや健康状態を踏まえた対象別の公衆衛生看護活動における対象者（家族、コミュニティを含む）の特性、健康課題、支援方法を理解し記述できる。							
成績評価方針 評 価 方 法 および基準		方針：到達目標の達成度を試験により評価する。 方法および基準：試験 100%							
授業計画									
回	日付	授業項目・学習課題	学習内容・学習方法				授業外 学習など	担当	
1	5. 4. 10（月）2	対象別公衆衛生看護とは 母子保健活動①	・公衆衛生看護活動の基本（ポピュレーション・アプローチとハイリスク・アプローチ） ・母子保健の動向 ・妊娠期および産後、乳幼児期における健康上の課題と保健活動 (乳幼児健康診査と保健指導、児童虐待、発達障害他) ・成人保健の動向 ・成人期の健康上の課題と保健活動 (生活習慣病予防、特定健康診査、重症化予防他) ・高齢者保健の動向 ・高齢期の健康上の課題と保健活動 (介護予防、高齢者虐待、地域における支え合い他) ・感染症の動向 ・感染症に関する保健活動 (感染症の予防および発生時の対応、予防接種他) ・精神保健の動向 ・精神障がい者に関する保健活動 (こころの健康づくり、自殺対策他) ・障がい者保健の動向（難病含む） ・障がい者に関する保健活動（難病含む） (障がいの予防、障害者手帳、指定難病、高次脳機能障害、就労支援、支援のネットワークづくり他) ・各ライフステージにおける歯科保健活動 ・対象別公衆衛生看護のまとめ				必要に 応じ て授 業 のな かで 提示 する	桂	
2	5. 4. 17（月）2	母子保健活動②							
3	5. 4. 24（月）2	成人保健活動							
4	5. 5. 1（月）2	高齢者保健活動							
5	5. 5. 8（月）2	感染症保健活動							
6	5. 5. 15（月）2	精神保健活動							
7	5. 5. 22（月）2	障がい者（難病含む） 保健活動							
8	5. 5. 29（月）2	歯科保健活動 まとめ							
教 科 書 参 考 図 書		教科書 医療情報科学研究所編：公衆衛生がみえる．メディックメディア 参考書 上野昌江他編：公衆衛生看護学 第3版．中央法規 増田雅暢他編：ナース・グラフィカ 健康支援と社会保障(3)．メディカ出版（2年次購入） 厚生労働統計協会編：国民衛生の動向・厚生指標 増刊							
履修上の注意		ライフステージなど対象への公衆衛生看護活動を学ぶため、対象の心身の健康状態の理解については既習の看護学を十分に復習して授業に参加してください。感染症に関する保健活動は「健康危機管理論」でも取り上げます。							
学 生 へ の メ ッ セ ー ジ		公衆衛生看護活動の対象者に関わる最新の法制度の情報を主体的に取り入れてください。							
e-mail・研究室 （ 連 絡 先 ）		桂 晶子：研究室9 skatsura@yachts.ac.jp							

授 業 科 目 名	学科 (科目区分)	担 当 教 員 職・氏名	必修・選 択の別	学年	開講 時期	単位 数	先修条件 指定科目	科目等 履修生
公衆衛生看護方法論Ⅱ	看護学科 (専門科目)	教 授・菅原 京子 教 授・桂 晶子 准教授・鈴木 育子 准教授・今野 浩之 助 教・栗田 敦子	選択	3	前期	1	非該当	否
授業概要	公衆衛生看護で用いられる活動方法の基本的知識と技術を教授する。							
一般目標	公衆衛生看護活動における個人・家族・グループに対する支援方法の実践的能力を習得する。							
到達目標	地域看護診断演習							
	・公衆衛生看護の視点に基づき既存資料を収集しアセスメントできる。アセスメントを通して当該市町村の健康課題とその背景や原因を明らかにできる。							
	・健康課題に基づく地域看護活動計画の立案、発表を行い、地域看護活動計画について相互に評価できる。							
	・既存資料による情報収集、アセスメント、健康課題の抽出、地域看護活動計画の立案を通して地域看護診断の一連の流れを理解することができる。							
	健康教育演習							
	・地域看護診断で明らかになった健康課題を踏まえて健康教育指導案を計画できる。							
	・教材を作成し、計画した健康教育を実施することができる。							
	・実施した健康教育を相互に評価できる。							
	健康相談、家庭訪問演習							
	・健康相談のポイントについて述べるができる。							
	・乳児とその家族に対する訪問指導案を計画できる。							
	・訪問指導案に基づいた家庭訪問を実施することができる。							
	・家庭訪問におけるヘルスアセスメント、看護ケア及び支援内容、コミュニケーションスキル、保健師としての態度について、相互に評価できる。							
	成績評価方針							
	評 価 方 法							
	お よ び 基 準							
・授業内のグループ毎のプレゼンテーション 60% ：技術、知識、発表態度、グループ貢献度、相互評価ができていのかどうかを評価基準とする。								
・個人レポート 40%：演習毎の技術及び知識が獲得できているかどうかを評価する。								
＊個人レポートは演習項目（地域看護診断、健康教育、家庭訪問）の計3回提出です。								
授業計画								
回	日付	授業項目・学習課題	学習内容・学習方法		授業外学習など		担当	
1	5. 6. 7 (水) 4	1. 全体ガイダンス 2. 地域看護診断演習 (グループ活動)	1. ガイドラインを配布（全体説明）		☞既存の資料は、ホーム ページ、図書館、地域看護学実習室にあるものを活用すること ☞4年時の地域看護診断実習につながるため、積極的に取り組むこと		地域 教員	
2	5. 6. 14 (水) 3		2. 山形県内の一市町村について既存資料をもとに地域看護診断を行う。					
3	5. 6. 14 (水) 4		1) 既存資料の収集、アセスメントと健康課題の抽出 2) 地域看護活動計画を立案 3) 立案した計画を発表					
4	5. 6. 21 (水) 3							
5	5. 6. 21 (水) 4	健康教育演習 (グループ活動)	健康教育の指導案作成、実施					
6	5. 6. 28 (水) 3		1) 地域看護診断で明らかになった健康課題に基づき、指導案および教材を作成					
7	5. 6. 28 (水) 4		2) 健康教育の実施					
8	5. 7. 5 (水) 3							
9	5. 7. 5 (水) 4							
10	5. 7. 12 (水) 3	家庭訪問演習 (グループ活動)	事例(乳児)に対する家庭訪問の実施		☞対象事例及び母子ヘルスアセスメント技術について事前学習が必要である。家庭訪問の礼儀作法についてはビデオ等を活用し学んでおくこと			
11	5. 7. 12 (水) 4		1) 電話相談のシナリオ作成					
12	5. 7. 19 (水) 3		2) 母子に対するヘルスアセスメントの実施					
13	5. 7. 19 (水) 4		3) 訪問計画指導案の作成					
14	5. 7. 26 (水) 3		4) 家庭訪問におけるロールプレイングの実施					
15	5. 7. 26 (水) 4							
教科書		教科書は特に指定しません。参考図書は適宜紹介します。						
履修上の注意		グループ活動による演習が中心のため、積極的な態度で臨んでください。						
学生へのメッセージ		ガイダンスのときに演習のガイドラインをお渡しします。						
e-mail・研究室 (連絡先)		菅原京子：研究室7 ksugawara@yachts. ac. jp 桂 晶子：研究室9 skatsura@yachts. ac. jp 鈴木育子：研究室8 isuzuki@yachts. ac. jp 今野浩之：研究室17 hkonno@yachts. ac. jp 栗田敦子：第2共同研究室 akurita@yachts. ac. jp						

授 業 科 目 名		学科 (科目区分)	担 当 教 員 職・氏名	必修・選 択の別	学年	開講 時期	単位 数	先修条件 指定科目	科目等 履修生
ヘルスコミュニケーション論		看護学科 (専門科目)	准教授・今野浩之	選択	3	前期	1	非該当	可
授業概要		コミュニケーション技術の基礎を踏まえた上で、行動変容に関する理論を提示し、個人および集団に対する健康情報の伝達に関する基本的知識と技術を教授する。							
一般目標		ヘルスコミュニケーションの果たす役割を考察しながら、専門性を生かした適切な健康情報の伝達と支援の展開方法を理解する。							
到達目標		1. ヘルスコミュニケーションの概念及び理論について述べることができる。 2. ヘルスコミュニケーションを活用した個別保健指導における行動変容に関する支援について理解を深めることができる。 3. 集団を対象とした健康情報の発信および支援の具体について述べることができる。 4. 健康の保持増進、疾病予防のための必要な支援方法を述べることができる。							
成績評価方針 評 価 方 法 お よ び 基 準		・授業内でのプレゼン 20%：学生相互の評価（個別指導における行動変容への支援） ・課題レポート 80%：ヘルスコミュニケーションの概念および理論を理解した上で、個人及び集団への健康の増進、疾病予防の支援の具体を述べることができているか							
授業計画									
回	日付	授業項目・学習課題	学習内容・学習方法				授業外学習 など	担当	
1	5. 4. 10 (月) 3	ヘルスコミュニケーションの基本的理解	講義および演習				これまでに 学習したコ ミュニケー ション技術 に関する事 項を復習し ておくこと	今野	
2	5. 4. 17 (月) 3		1) ヘルスコミュニケーションの概念及び目的 2) 保健医療におけるコミュニケーションとは何か（意味とコンテキスト、発信と受信、ノイズの種類と原因、自己認識と自己開示） 3) ヘルスコミュニケーションに関する理論 4) コミュニケーションにおける方言						
3	5. 4. 24 (月) 3								
4	5. 5. 1 (月) 3	個人を対象としたヘルスコミュニケーションの実際	講義および演習						
5	5. 5. 8 (月) 3		1) 個別支援におけるヘルスコミュニケーション 2) 特定保健指導の実際						
6	5. 5. 15 (月) 3		3) タイプ別アプローチ方法の展開（自己効力感を高める関わり、気づきを促し関心を高める関わり等） 4) 健康リスクの伝え方						
7	5. 5. 29 (月) 4								
8	5. 6. 5 (月) 4	集団を対象としたヘルスコミュニケーションの実際	健康情報の発信、フィードバック、評価の視点等						
教 科 書 参 考 図 書		教 科 書：特に指定しない 参考図書：医療者のためのコミュニケーションハンドブック 精神看護出版 医療コミュニケーションハンドブック 米国国立がん研究所編：ヘルスコミュニケーション実践ガイド 日本評論社 ※その他、参考図書やDVD はその都度授業内で紹介します							
履 修 上 の 注 意		講義と演習を中心に授業を行います。遠隔講義（Zoom）になった場合は内容を変更する場合があります。変更点についてはその都度お知らせしていきます。							
学 生 へ の メ ッ セ ー ジ		これまで学習してきたコミュニケーション技術、実習等での学びを振り返りながら理解を深めてください。							
e-mail・研究室 (連 絡 先)		今野浩之：研究室 17 hkono@yachts.ac.jp							

授 業 科 目 名		学科 (科目区分)	担 当 教 員 職・氏名	必修・選 択の別	学年	開講 時期	単位 数	先修条件 指定科目	科目等 履修生
コミュニティ活動展開論		看護学科 (専門科目)	教 授・菅原 京子 教 授・桂 晶子 准教授・鈴木 育子 准教授・今野 浩之 助 教・栗田 敦子	選択	4	前期	2	非該当	可
授業概要	健康寿命を延ばす住民主体の活動に向けた、地域保健・学校保健・産業保健の連携・協働について学ぶ。								
一般目標	1. 健康寿命を延ばすための住民の主体的な取組みと施策の方向を系統的に理解できる。 2. 健康寿命を延ばす活動の主要な活動について、地域保健・学校保健・産業保健の連携・協働を踏まえて検討できる。 3. 健康寿命を延ばす住民主体の活動における看護の役割を理解できる。								
到達目標	1-1 健康寿命を延ばすための、栄養・食生活、身体活動・運動、休養・こころの健康、飲酒、喫煙、がん、循環器病、慢性閉塞性肺疾患、糖尿病、歯・口腔の健康、高齢者の健康に関する全国レベルの目標と施策の方向について理解できる。 1-2 1-1 の各項目に関する地域レベルの目標と施策の方向について理解できる。(地域特性の反映がなされているか) 1-3 最新の知見に基づいた健康習慣の科学的根拠について理解できる。 2-1 1-1 の項目を組み合わせたテーマについて、地域保健・学校保健・産業保健の連携・協働を踏まえて、具体的に検討（調べる、活動提案：教材開発を含む）できる。 3-1 健康寿命を延ばす住民主体の活動における保健師の役割を説明できる。 3-2 上記を通して、健康寿命を延ばす住民主体の活動における看護の展望を考察できる。								
成績評価方針 評 価 方 法 および基準	グループ発表（30%）、発表の振り返り小レポート（30%）、個人レポート（40%）で評価します。 ・グループ発表については、到達目標 2-1 を達成しているかどうかで判断します。 ・発表の振り返りについては、以下の方法で評価します。 7 回目～14 回目のグループ発表の都度、学生相互の評価（無記名）を行う。評価項目は、①テーマに関して対象の状況と健康課題について調べているか、②テーマに関する施策について調べているか、③テーマに関する活動を提案しているか、④提案において地域保健・学校保健・産業保健の連携・協働を踏まえているか、⑤テーマにあった発表方法を選択できているか、である。 15 回目のまとめで、学生評価に基づく振り返り小レポートを各自で記載する。 ・個人レポートは、到達目標 3-2 の内容が盛り込まれているかどうかを判断基準とします。								
授業計画									
回	日付	授業項目・学習課題	学習内容・学習方法			授業外学習など		担当	
1 2	5. 4. 10（月）1 5. 4. 10（月）2	健康寿命を延ばすための住民の主体的な取組みと施策の方向	国の施策、都道府県（山形県、健康寿命の先進県）の施策を学ぶ。住民の主体的な取組みに必要な要素について具体事例を基に話し合う。 5～14 回のグループ活動に関する説明。					菅原	
3 4 5 6	5. 4. 12（水）1 5. 4. 12（水）2 5. 4. 19（水）2 5. 4. 21（金）3	グループ活動	8 グループに分かれ、発表に向けた活動実施					各教員	
7	5. 4. 27（木）3	退職前後世代の健康づくり	産業保健と地域保健の連携・協働による「退職前後世代の健康づくり」のグループ発表、健康支援を担う保健師の講義、意見交換			7 回目～14 回目の授業の進行は、学生グループ発表 20 分、非常勤講師による講義 45 分、意見交換 20 分、まとめ 5 分とします。		菅原 協会けんぽ 保健師	
8	5. 4. 27（木）4	地域保健・学校保健・産業保健の連携・協働による喫煙予防・喫煙対策	地域保健・学校保健・産業保健の連携・協働による「喫煙予防・喫煙対策」のグループ発表、喫煙予防・喫煙対策を担う保健師の講義、意見交換					鈴木 喫煙予防・ 喫煙対策を 担う保健師	

9	5. 4. 28 (金) 3	健康なまちづくり・働き盛り世代の健康づくり	地域保健と産業保健の連携・協働による「働き盛り世代の健康づくり；上山市クアオルト推進事業」のグループ発表、市町村担当者の講義、意見交換		桂 上山市 クアオルト 担当者								
10	5. 4. 28 (金) 4	幼少時からの生活習慣形成・食の入り口としての歯の健康	地域保健と保育園の連携・協働による「食の入り口としての歯の健康」のグループ発表、市町村保健師の講義、意見交換		菅原 大蔵村 保健師								
11	5. 5. 2 (火) 1	がん予防教育・若い世代のがん予防の啓発	地域保健・学校保健の連携・協働による「若い世代のがん予防の啓発」のグループ発表、市町村保健師の講義、意見交換		○栗田 今野 寒河江市 保健師								
12	5. 5. 2 (火) 2	がん予防教育・壮年期のがん予防の啓発	地域保健・産業保健の連携・協働による「壮年期のがん予防の啓発」のグループ発表、市町村保健師の講義、意見交換		○今野 栗田 寒河江市 保健師								
13	5. 5. 8 (月) 2	幼少時からの生活習慣形成・地域ぐるみの食育	地域保健と学校保健の連携・協働による「地域ぐるみの食育」のグループ発表、学校給食センター栄養士の講義、意見交換		今野 山形市 管理栄養士								
14	5. 5. 8 (月) 3	働き盛り世代の生活習慣改善・睡眠の健康と適切な労働	産業保健と専門機関の連携・協働による「睡眠の健康と適切な労働」のグループ発表、産業保健担当者の講義、意見交換		菅原 ユトリア健 康管理セン ター保健師								
15	5. 5. 10 (水) 2	まとめ			菅原								
教科書 参考図書		公衆衛生看護学で学んだ科目で使用した教科書、参考図書 健康やまがた安心プラン											
履修上の注意													
学 生 へ の メ ッ セ ー ジ		健康寿命を延ばすための住民の主体的な取組みと施策の 11 項目と、グループ活動のテーマの関係は以下の通りです。また、健康やまがた安心プランは、公衆衛生看護活動実習にもいかしてください。											
			栄養・食生活	身体活動・運動	休養・こころの健康	飲酒	喫煙	がん	循環器病	慢性閉塞性肺疾患	糖尿病	歯・口腔の健康	高齢者の健康
		働き盛り世代の健康づくり	○	○	○				○				○
		退職前後世代の健康づくり	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○
		地域ぐるみの食育	○								○		
		食の入り口としての歯の健康	○									○	
		睡眠の健康と適切な労働		○	○				○				
		喫煙予防・喫煙対策					○	○	○	○			
		若い世代のがん予防の啓発	○	○	○	○	○	○					
		壮年期のがん予防の啓発	○	○	○	○	○	○					
e-mail・研究室 (連絡先)		菅原京子：研究室 7 ksugawara@yachts.ac.jp 桂晶子：研究室 9 skatsura@yachts.ac.jp 鈴木育子：研究室 8 isuzuki@yachts.ac.jp 今野浩之：研究室 17 hkono@yachts.ac.jp 栗田敦子：第 2 共同研究室 akurita@yachts.ac.jp											

授 業 科 目 名		学 科 (科目区分)	担 当 教 員 職・氏名	必修・選 択の別	学年	開講 時期	単位 数	先修条件 指定科目	科目等 履修生		
公衆衛生看護管理論		看護学科 (専門科目)	教授・菅原 京子	選択	4	通年	1	非該当	可		
授業概要		公衆衛生看護活動の看護管理の原則は、病院等で展開される看護管理と共通している。一方、活動が行政（地方公共団体）の場で展開されるため、行政の仕組みを踏まえる必要がある。その上で、地域の健康課題の解決や人々の健康の保持増進に向けた施策化/事業化に寄与する管理を行う特徴がある。本授業では、その特徴的な看護管理について教授する。									
一般目標		行政のPDCAサイクルを踏まえた保健福祉政策/施策/事業の予算管理・情報管理、及び公衆衛生看護における人事管理と人材育成の特徴と方法について理解し、公衆衛生看護活動の質保証のための基礎的能力を身に付ける。									
到達目標		1. 行政とは何か、行政のPDCAサイクルと業務、公務員/専門職の職業倫理について述べることができる。 2. 公衆衛生看護管理の全体像を述べることができる。 3. 予算管理を踏まえた保健福祉事業の展開について説明できる。 4. 保健福祉政策/施策/事業を展開する上で必要となる、情報の活用/保護・公開の現状と課題を具体的に述べる ことができる。 5. 公衆衛生看護における人事管理、人材育成の現状と課題を具体的に述べる ことができる。 6. 質が保証された公衆衛生看護活動となるための公衆衛生看護管理の今後の展望を持つことができる。									
成績評価方針 評 価 方 法 および基準		レポート 100%：レポートは、行政、公衆衛生看護管理の全体像、予算管理、情報管理/活用、人事管理と人材育成について学んだ内容、及び到達目標 5 が盛り込まれているかどうかを評価基準とします。									
授業計画											
回	日付	授業項目・学習課題	学習内容・学習方法			授業外学習など		担当			
1	5. 4. 7 (金) 4	行政、公衆衛生看護管理の全体像	行政とは何か、行政のPDCAサイクルと業務、公務員/専門職の職業倫理 公衆衛生看護管理の全体像			住んでいる市町村の行政機構を調べる。		菅原			
2 3 4	5. 4. 13 (木) 1 5. 4. 13 (木) 2 5. 4. 14 (金) 3	予算管理	行政における予算管理の特徴、保健福祉政策/施策/事業と予算、経費支出科目の財政用語、予算管理を踏まえた保健福祉事業の展開（企画、実施、評価）			住んでいる市町村の保健福祉政策に関する予算を調べる。					
5 6	5. 4. 20 (木) 1 5. 4. 20 (木) 2	情報管理/活用	プライバシーと個人情報、個人情報保護、情報公開、保健師活動における情報管理/活用の側面と課題 側面；地域看護診断・計画立案 個別事例への支援 地域住民への説明責任・危機管理 課題；データベース管理 個人情報保護への対応 個別事例支援に関する記録			個人情報保護におけるSNS（ソーシャルネットワークワーキングサービス）の課題について、各自で考えて授業に臨むこと。					
7 8	5. 4. 24 (月) 2 5. 4. 26 (水) 2	人事管理・人材育成 まとめ	保健師のキャリア発達 新人・新任期・中堅期・管理期の各期で求められる能力、キャリアラダー 保健師の人事管理・人材育成の現状と課題 分散配置と人事、現任教育としての研修（OJTとOff-JT）、大学院教育 公衆衛生看護管理の今後の展望			保健師を招き、「保健師になろうと思った理由」「現在の仕事」について話して頂く予定です。					
教 科 書 参 考 図 書		参考資料（授業で配布） ・しんじょうのよさん ・医療・介護関係事業者における個人情報の適切な取扱いのためのガイダンス ・地域における保健師の保健活動について（通知） ・新人看護職員研修ガイドライン 保健師編 ・自治体保健師の標準的なキャリアラダー									
履 修 上 の 注 意											
学 生 へ の メ ッ セ ー ジ		3年生で学んだ看護管理を復習して臨んでください。									
e-mail・研究室 (連 絡 先)		菅原京子：研究室 7 ksugawara@yachts.ac.jp									

授 業 科 目 名	学科 (科目区分)	担 当 教 員 職・氏名	必修・選 択の別	学年	開講時期	単位 数	先修条件 指定科目	科目等 履修生
地域看護診断実習	看護学科 (専門科目)	教 授・菅原 京子 教 授・桂 晶子 准教授・鈴木 育子 准教授・今野 浩之 助 教・栗田 敦子	選択	4	前期	1	非該当	否
授業概要	地域住民の生活や文化、価値観などの特徴から地域の保健ニーズをとらえ、健康課題を解決する基礎的能力を獲得できるよう教授する。							
一般目標	地域住民の生活や地域の特徴から地域看護診断・地域看護活動計画立案を行い、看護として、地域全体の健康課題を解決する基礎的能力を習得する。							
到達目標	1. 地域看護の視点に基づき、既存資料の収集及び地区踏査、地域住民との面接調査を行い、地域の健康に関する全体像を述べることができる。 ・看護として地域全体の健康課題及び関連要因を把握する必要性を説明できる。 ・地域看護診断に必要な既存資料の所在がわかる。看護の視点に基づいた既存資料のデータ収集、およびデータを解釈できる。 ・地区踏査で客観的に地域の状況を確認できる。観察した結果について主観的な表現を用いずに、見たままを記述できる。 ・住民面接において、自己紹介及び面接の目的を述べることができる。コミュニケーション技術を用い、対象の立場をふまえ面接できる。 2. 情報をアセスメントし、地域の健康課題及び関連要因を述べることができる。 ・収集した情報を地域看護診断の視点に沿って整理できる。整理した情報を科学的に分析、統合、解釈できる。 ・地域の健康課題及び関連要因を抽出できる。 3. 健康課題と関連要因に基づいて、その地域の特徴に合致した地域看護活動計画を立案できる。 ・活動目標を、地域の到達させたい状態として達成時期、評価の視点とともに示すことができる。 ・地域の健康課題の優先順位を課題の性質や課題相互の関係を踏まえて決定できる。 ・地域住民の生活や地域の特徴を踏まえた実現可能性のある活動方法・内容を具体的に計画できる。 4. 地域住民との関わり及び地域看護診断の過程を通して、地域看護の役割と機能について述べるこ ことができる。 ・地域住民が健康についてどのように認識しているのか説明できる。 ・地域で果たすべき看護の役割と機能を説明できる。 ・地域看護のこれからの課題を指摘できる。							
成績評価方針 評価方法 および基準	実習状況（60％）、個人レポート（40％）で評価します。 ・実習状況については、グループで展開する到達目標 1～3 を達成しているかどうかについて、グループ活動状況、実習報告会状況、グループ提出記録によって判断します。加えて実習態度（身だしなみ、言葉遣い・態度、リーダーシップ・メンバーシップ、実習への熱意）についても判断基準とします。 ・個人レポートについては、到達目標 1～3 に関して学んだこと、及び到達目標 4 についてが、盛り込まれているかどうかを評価基準とします。							
授業計画								
1. 実習市町村山形県内 1 市町村 2. 実習日程及び内容5 月 15 日（月）～ 5 月 19 日（金） 既存資料の分析、保健福祉サービスに関するオリエンテーション、地区踏査、住民インタビュー、保健師との検討会、実習報告会（住民及び市町村関係者も参加） ※地域看護診断・地域看護活動計画立案はグループ活動によって行います。								
教科書 参考図書	公衆衛生看護学概論、公衆衛生看護方法論Ⅰ・Ⅱ、対象別公衆衛生看護論で用いた図書							
履修上の注意								
学 生 へ の メ ッ セ ー ジ	・健康に留意して実習に臨んでください。また、地域住民との面接を通して、生活者の視点から地域を診断することを大切にしましょう。 ・実習では自家用車で移動します。あらかじめ、「臨地・臨床実習における自家用車・二輪車等使用申請書」の手続きを行っておいてください。また、交通安全に十分気をつけましょう。 ・本科目は、教員と実習指導者（保健師等）の指導の下、市町村（健康福祉担当部局）において実習する科目であり、高等教育の負担軽減制度の要件に定める「実務経験のある教員による科目」として行 います。							
e-mail・研究室 (連絡先)	菅原京子：研究室 7 ksugawara@yachts.ac.jp桂晶子：研究室 9 skatsura@yachts.ac.jp 鈴木育子：研究室 8 isuzuki@yachts.ac.jp今野浩之：研究室 17 hkonno@yachts.ac.jp 栗田敦子：第 2 共同研究室 akurita@yachts.ac.jp							

授 業 科 目 名	学科 (科目区分)	担 当 教 員 職・氏名	必修・選 択の別	学年	開講 時期	単位 数	先修条件 指定科目	科目等 履修生
公衆衛生看護活動実習	看護学科 (専門科目)	教 授・菅原 京子 教 授・桂 晶子 准教授・鈴木 育子 准教授・今野 浩之 助 教・栗田 敦子	選択	4	通年	2	非該当	否
授業概要	地域社会で生活する住民や家族の個別保健ニーズと地域の健康課題を包括的にとらえ、課題を解決するための公衆衛生看護活動方法が実践できる基礎的能力を教授する。 公衆衛生看護活動の展開の場である保健所、市町村、学校、産業保健の特性に応じた公衆衛生看護活動が実践できる基礎的能力を教授する。							
一般目標	1. 地域における看護活動の場を理解できる。 2. 住民が生活している地域の特徴と健康課題が理解できる。 3. 公衆衛生看護活動の展開実践の場である保健所、市町村、学校、産業における公衆衛生看護の役割と機能が理解できる。 4. 家庭訪問において、個人や家族の身体的・精神的・社会的特性を理解し、個人と家族の健康レベルに応じた支援が実践できる。 5. 住民や小集団に対する健康相談や健康教育等を実際に体験し、展開過程が理解できる。							
到達目標	1. 保健所実習 保健所管内の地域特性に基づいた健康課題を理解し、保健所における公衆衛生看護活動の機能と具体的展開の基本を習得できる。 ・保健所管内における地域の特徴を理解できる。 ・ケアシステムの構築に向けた他機関や他職種との連携の必要性について理解できる。 2. 市町村実習 市町村の地域特性に基づいた健康課題を理解し、市町村における公衆衛生看護活動の機能と具体的展開の基本を習得できる。 ・市町村における地域の特徴を把握し、公衆衛生看護活動の展開が理解できる。 ・個別事例の支援の展開が実施できる。 ・市町村の健康課題に基づいた保健事業において公衆衛生看護の役割を理解し、保健指導が実施できる。 ・他機関や多職種との連携およびケアシステムの中で果たしている市町村の公衆衛生看護の役割を理解できる。 3. 学校保健実習 学校における保健活動を理解し、学校保健の場で実践されている展開方法について理解できる。 4. 産業保健実習 産業の場における保健活動を理解し、産業保健の場で実践されている展開方法について理解できる。							
成績評価方針 評 価 方 法 および基準	方針：実習地ごとの態度と提出された記録物の内容等から到達目標の達成度を総合的に判断して評価する 評価内容： 1) 実習態度（40%） (1) 事前学習の提出および実習準備（教員と連絡や相談ができていたか） (2) 学内演習におけるグループ活動への参加状況（積極的に参加できていたか、意見を述べていたか） (3) 実習中の態度およびカンファレンスへの状況（対象者との関わりはどうか、教員や実習指導者と連絡や相談ができていたか、カンファレンスでの発言内容） 2) 記録物（事前学習を含むレポート課題）（60%） (1) 提出期日は厳守できているか、提出記録に不備はないか (2) 記録物の内容 ①実習の目的・目標に応じ、課題に対する記述がされているか ②文書の体裁が整えられているか（誤字脱字はないか、見やすい字で書かれているか） ③専門用語を正しく用い、慎重かつ丁寧に推敲し記述されているか							

授業計画					
回	日付	授業項目・学習課題	学習内容・学習方法	授業外学習など	担当
	5. 5.22 (月) ～ 5. 9.22 (金)	実習場所は県内保健所、市町村、小学校、企業等。 実習項目、課題は公衆衛生看護活動実習要項を参照。	内容、方法は公衆衛生看護活動要項を参照。 ・保健所実習 3 日間 (学内演習を含む) ・市町村実習 5 日間 (学内演習を含む) ・学校保健実習 2 日間 ・産業保健実習 1 日間	実習に関連する専門および専門基礎科目の復習を十分に実施すること	菅原 桂 鈴木 今野 栗田
教科書 参考図書	公衆衛生看護学概論、公衆衛生看護方法論Ⅰ・Ⅱ、対象別公衆衛生看護論で用いた図書、その他、必要な図書を積極的に自分で探し活用してください。				
履修上の注意	・事前学習を重視します。自分が実習で活用できる、あるいは実習に必要な知識、技術は何かを意識しながら、計画的に事前学習を進めてください。 ・本科目は、教員と実習指導者の指導の下、保健所、市町村、小学校、産業保健において実習する科目であり、高等教育の負担軽減制度の要件に定める「実務経験のある教員による科目」としています。				
学生への メッセージ	・健康に留意して社会人としてのマナーを守り、生活者の視点で公衆衛生看護の具体的実践方法、活動の場の特性把握、関係職種や機関との連携や協働体制を主体的に学んでください。施設の看護との相違や連携についても学んでください。 ・自家用車の使用の際は慎重に運転を行い、交通事故に注意してください。 ・COVID-19 の感染拡大状況により、実習の実施方法および内容等が変更になる可能性があります。メールや掲示等の指示を随時確認してください。				
e-mail・研究室 (連絡先)	菅原京子：研究室 7 ksugawara@yachts.ac.jp 桂 晶子：研究室 9 skatsura@yachts.ac.jp 鈴木育子：研究室 8 isuzuki@yachts.ac.jp 今野浩之：研究室 17 hkonno@yachts.ac.jp 栗田敦子：第 2 共同研究室 akurita@yachts.ac.jp				

授 業 科 目 名		学科 (科目区分)	担 当 教 員 職・氏名	必修・選 択の別	学年	開講 時期	単位 数	先修条件 指定科目	科目等 履修生		
看護教育学		看護学科 (専門科目)	教授・沼澤 さとみ	必修	4	後期	2	非該当	可		
授業概要		看護職養成のための教育について、教育制度や教育課程、教育方法の基本的な知識について学ぶ。また、看護職として教育にかかわることを考える。									
一般目標		看護職養成教育について、教育制度や看護教育課程、教育方法の基本的な知識を修得する。また、看護職が指導者として教育に関わるために、教育とは何かを考え、必要な資質や能力を考えることができる。									
到達目標		1. 看護職養成のための教育と看護学教育の変遷、現状と課題、看護教育課程について説明できる。 2. 看護職が指導者として必要な教育方法の基本的な知識を、学習指導案として具体的に表現できる。 3. 看護職が指導者として教育にかかわるために必要な自身の資質や能力を考えることができる。									
成績評価方針 評 価 方 法 および基準		課題・レポート 70%（目標の達成度により評価する） 授業への参加態度 30%（ミニツペーパー等を参考に評価する）									
授業計画											
回	日付	授業項目・学習課題	学習内容・学習方法			授業外学習など		担当			
1	5. 10. 20（金）3-4	教育とはなにか 看護教育学とは	教育が目指すもの 学ぶこと教えること 看護教育学と看護学教育			各回の学習課題に応じて、以下の学習をする ・課題に関する書籍、配布資料やネット検索などで収集した資料を読む。 ・ディスカッションやワークを行い、自分の考えをまとめる。		沼澤			
2											
3	5. 10. 25（水）3-4	看護教育制度	看護教育制度の変遷と現状 看護の学士課程教育					沼澤			
4											
5	5. 10. 27（金）3-4	看護教育課程	教育課程とは 看護基礎教育の教育課程（保健師 助産師看護師学校養成所指定規則 による教育課程）					沼澤			
6											
7	5. 11. 1（水）3-4	教育課程編成と育成 する資質と能力	教育課程の編成と評価 学力とは 学生の資質と能力を育成する教育 課程					沼澤			
8											
9	5. 11. 8（水）3-4	看護学の教育方法	学習の特徴と指導の基本 学習方法 看護技術を教えること					沼澤			
10											
11	5. 11. 10（金）3-4	看護学の教育方法	学習指導の計画と評価 学習指導案作成					沼澤			
12											
13	5. 11. 15（水）3-4	看護職のキャリアと 継続教育	専門職としてのキャリア開発 大学院教育					沼澤			
14											
15	5. 11. 17（金）3	まとめ	看護職として教育にかかわることを考える					沼澤			
教 科 参 考 図 書		教科書は指定しない 参考図書等は随時紹介する									
履 修 上 の 注 意		短い授業期間です。集中して学習してください。									
学 生 へ の メ ッ セ ー ジ		看護教育学について、看護職の指導者としての役割や将来の自分自身のキャリアと関連させて考えてみましょう。									
e - m a i l ・ 研 究 室 (連 絡 先)		沼澤さとみ：研究室 11 snumazawa@yachts.ac.jp									

授 業 科 目 名		学科 (科目区分)	担 当 教 員 職・氏名	必修・選 択の別	学年	開講 時期	単位 数	先修条件 指定科目	科目等 履修生	
看護管理学		看護学科 (専門科目)	非常勤講師 寺島美紀子	必修	3	前期	2	非該当	否	
授業概要		管理の基礎的知識、日本の保健医療制度や関連法規、医療経済、医療や看護をとりまく環境や現状等を教授する。また社会の変化に対応しつつ質の高い看護サービスを提供するために必要な看護管理の機能、看護組織論、看護における人的資源管理、情報管理、安全管理、リーダーシップ論等について、主に病院看護管理を例にして教授する。								
一般目標		1. 管理の概念や組織論等、管理の基礎的知識について理解する。 2. 保健医療制度と関連法規、医療経済について理解する。 3. 日本の医療・看護をとりまく環境と現状を理解する。 4. 看護管理の概念、看護管理の機能を理解する。 5. 看護における管理の方法について理解する。								
到達目標		1. 管理の概念、組織の特徴が説明できる。 2. 日本の保健医療制度と関連法規、医療経済について説明できる。 3. 日本の医療・看護をとりまく環境と状況が説明できる。 4. 看護管理の概念と機能が説明できる。 5. 看護における人的資源管理、情報管理、安全管理等について説明できる。 6. 看護管理者に求められる知識や資質について説明できる。								
成績評価方針 評 価 方 法 および基準		・定期試験：80% 基本的事項の理解度で評価します。 ・課題：20% 内容で評価します。 上記2項目を合わせて100点満点で評価する。								
授業計画										
回	日付	授業項目・学習課題	学習内容・学習方法				授業外学習など	担当		
1	5.4.11(火)2	授業ガイダンス、管理とは	管理の基本、キャリアとキャリア形成				国内外の医療や看護に関する情報の収集と精読 課題の自己学習	寺島		
2	5.4.18(火)2	管理活動の方法	看護の管理プロセスと管理サイクル					寺島		
3	5.4.25(火)2	組織論と看護管理	組織の基本、看護組織の特徴と看護管理					寺島		
4	5.5.2(火)2	看護サービスについて	サービスとしての看護の特徴、質の評価					寺島		
5	5.5.9(火)2	看護サービスのマネジメント	看護ケア提供方式、リーダーシップ論					寺島		
6	5.5.16(火)2	日本の医療と看護の現状	医療制度、関連法規					寺島		
7	5.5.23(火)2	看護を取り巻く状況①	看護管理の歴史的変遷					寺島		
8	5.5.30(火)2	看護を取り巻く状況②	保助看法の改正と准看護師問題					寺島		
9	5.6.6(火)2	看護を取り巻く状況③	看護師等の人材確保の促進に関する法律と看護師不足					寺島		
10	5.6.13(火)2	看護管理の実際①	人的資源管理(労務管理)					寺島		
11	5.6.20(火)2	看護管理の実際②	人的資源管理(人材育成の例)					原田		
12	5.6.27(火)2	看護管理の実際③	物的資源管理、時間管理、情報管理					寺島		
13	5.7.4(火)2	医療経済と看護の対価	社会保障と医療費、診療報酬、看護料					寺島		
14	5.7.11(火)2	安全管理と看護管理活動	安全管理					寺島		
15	5.7.18(火)2	看護管理のまとめ	看護の専門性、看護管理のまとめ					寺島		
教科書		【教科書】上泉和子他；系統看護学講座 統合分野 看護管理，医学書院，2022。								
参考図書		【参考書】小池智子他；看護サービス管理第5版，医学書院，2018。 その他、授業で随時紹介します。								
履 修 上 の 注 意										
学 生 へ の メ ッ セ ー ジ		社会の動き（最近は特にコロナウィルス感染に対する問題）に伴って医療も看護も変化していきますので、社会の動向に敏感になってください。 看護管理は、管理者だけでなく看護職一人一人が意識して行うもので、学生時代から求められる知識です。積極的に学んでください。								
e-mail・研究室 (連 絡 先)		寺島美紀子：mikit3010@icloud.com								
連 絡 調 整 担 当 教 員		沼澤さとみ								

授 業 科 目 名		学 科 (科目区分)	担 当 教 員 職・氏名	必修・選 択の別	学年	開講時期	単 位 数	先修条件 指定科目	科目等 履修生
健康危機管理論		看護学科 (専門科目)	教 授・桂 晶子 講 師・高橋 直美	必修	4	通年	2	非該当	可
授業概要		住民の生命・健康の安全を脅かす事態（感染症、自然災害、人為災害など）に対して、健康被害の発生予防、拡大防止、治療等の対策と健康危機に迅速に対応する体制のシステムや看護活動について学習する。							
一般目標		1. 健康危機に対応するための基本的な仕組みや健康危機管理の円滑な実施を図る仕組みを考察する。 2. 災害支援活動に必要な基礎知識を基に災害各期における看護活動の課題と他職種との協働について考察する。 3. 健康危機管理の基本原則を踏まえ、健康危機管理における看護職の役割を考察する。							
到達目標		1. 健康危機管理の概要と看護職の役割が説明できる。 2. 感染症集団発生時における看護の役割を予防的視点と感染症拡大防止の観点から説明できる。 3. 健康危機管理における様々な事象から今後の看護活動が理解できる。 4. 災害サイクルの各期における健康危機の特徴と災害看護の役割が説明できる。 5. 災害時の体系的対応（CSCATTT）とトリアージによる判定方法が理解できる。 6. 災害看護の視点から減災・防災活動の重要性が考察できる。							
成績評価方針 評 価 方 法 および基準		方針：到達目標の達成度を試験とレポートにより評価する。 方法および基準： ・1～6回(40点分)：健康危機管理上の対応・支援に関わる論理的思考力をレポートにより評価する。 ・7～15回(60点分)：災害サイクル各期における基礎知識と看護役割の習得度を授業後のレポート、演習記録、減災・防災に関する課題により評価する。							
授業計画									
回	日付	授業項目・学習課題	学習内容・学習方法				授業外 学習など	担当	
1	5. 4. 14（金）1-2	健康危機管理とは①②	・健康危機管理とは ・健康危機管理の背景および関係法規 ・世界、国、県および保健所における健康危機管理				授 業 時 に 指 示 する	桂	
2									
3	5. 4. 21（金）1-2	災害と健康危機管理①② ー我が事として考える災害・被災・減災ー	・災害の定義とフェーズの特徴 ・被災者の状況と多様な立場での災害支援 ・平時における災害への備え						
4									
5	5. 4. 28（金）1-2	健康危機管理の実際①② ー感染症発生時の保健活動ー	・健康危機管理上問題となる感染症発生時の保健所の対応と支援 ・感染症発生時の保健活動の実際					スポット 阿彦	
6									
7	5. 10. 25（水）2	災害看護	・災害・災害看護の歴史と制度 ・災害の種類と被害の特徴				授 業 時 に 指 示 する	高橋	
8	5. 11. 1（水）2	災害急性期の看護活動①	・災害時の体系的対応（CSCATTT） ・災害急性期における看護活動						
9	5. 11. 9（木）2-4	災害急性期の看護活動②	・災害時のマネジメント ・被災傷病者緊急度判定演習（トリアージ）						
10									
11									
12	5. 11. 14（火）3-4	災害亜急性期の看護活動①②	・避難所における看護活動 ・配慮を必要とする人への支援と看護 ・避難所運営演習（HUG）						
13									
14	5. 11. 16（木）3-4	慢性期・復興期・静穏期の看護活動①②	・慢性期・復興期・静穏期における看護活動 ・減災・防災のマネジメント						
15									
教 参 考 書		教科書：指定しない 参考書：三澤寿美他編：災害看護. 学研, 2018 医療情報科学研究所編：公衆衛生がみえる. メディックメディア（3年次購入） 増田雅暢他編：ナースング・グラフィカ 健康支援と社会保障(3). メディカ出版（2年次購入）							
履 修 上 の 注 意		生体防御学、病原微生物学、基礎看護学の講義等を復習して臨むこと。							
学 生 へ の メ ッ セ ー ジ		健康危機は時間や場所等を問わず発生します。広く世界に目を向けるとともに、健康危機管理の発生時における対応だけでなく、どのようにしたら予防できるかの視点を持ち既存の学習の知識や技術を基盤として学習してください。また災害に関する医療体制や関連法整備等が急速に進んでいます。講義だけでなく、新しい情報を得るように努力しましょう。							
e-mail・研究室 (連 絡 先)		桂 晶子：研究室9 skatsura@yachts.ac.jp 高橋直美：研究室21 ntakahashi@yachts.ac.jp							

授 業 科 目 名		学科 (科目区分)	担 当 教 員 職・氏名	必修・選 択の別	学年	開講時期	単位 数	先修条件 指定科目	科目等 履修生
総合看護学実習Ⅰ		看護学科 (専門科目)	看護学科全教員	必修	4	前期	2	非該当	否
授業概要		学生が選択した領域の実習を通して看護実践能力の向上をはかり、保健医療福祉チームにおける看護専門職としての役割と責任を果たすための基礎的能力を養う。							
一般目標		1. 看護実践を通してヘルスケア提供組織において、看護が果たす役割と責務を理解する。 2. ヘルスケア提供組織における看護の役割と責務を考えながら、対象への看護を実践することができる。 3. ヘルスケア提供組織の中で連携をとりながら、対象への看護を実践することができる。 4. 社会情勢やヘルスケア提供組織の現状を踏まえて、看護実践における課題を考察することができる。 5. 看護実践の課題に対する看護の質向上に向けた改善策を考察することができる。							
到達目標		1. 看護実践を通してヘルスケア提供組織において、看護が果たす役割と責務を説明できる。 2. ヘルスケア提供組織における看護の役割と責務を考えることができる。 3. ヘルスケア提供組織における看護の役割と責務をふまえて、対象への看護を実施できる。 4. ヘルスケア提供組織の中での連携のために必要な行動をとることができる。 5. ヘルスケア提供組織の中で連携をとりながら、対象への看護を実施できる。 6. 社会情勢やヘルスケア提供組織の現状を説明できる。 7. 社会情勢やヘルスケア提供組織の現状を踏まえて、看護実践における課題を識別することができる。 8. 看護実践の課題に対する看護の質向上に向けた改善策を示すことができる。							
成績評価方針 評 価 方 法 および基準		領域ごとに、実習目標達成度、実習記録等を総合して評価する。 評価項目及び到達レベルは実習領域の評価表を参照すること。							
授業計画									
回	日付	授業項目・学習課題	学習内容・学習方法			授業外学習など		担当	
	5. 5. 8 (月) ～ 5. 8. 25 (金)		実習領域 基礎看護学、成人急性期看護学、成人慢性期看護学、老年看護学、精神看護学、小児看護学、母性看護学、在宅看護学、地元医療福祉コース（地元ナース） 実習場所 山形済生病院、山形県立中央病院、公立置賜総合病院、川西湖山病院、篠田総合病院、二本松会さくら町病院、山形県立こども医療療育センター、米沢市立病院、他 *実習内容や実習方法は、実習領域により異なる。						
教 科 書 参 考 図 書		実習で必要なものは、各自準備すること。							
履 修 上 の 注 意									
学 生 へ の メ ッ セ ー ジ		実習内容や実習方法は、3年生を対象とした総合看護学実習Ⅰオリエンテーションで説明します。 本科目は、教員と実習指導者（看護師等）の指導の下、病院（臨床）等において保健医療福祉チームの一員として看護過程を展開する科目であり、「高等教育段階の教育費負担軽減制度」の要件に定める実務経験のある教員が担当する科目としています。							
e-mail・研究室 (連 絡 先)		半田直子：研究室3 nhanda@yachts.ac.jp							

授 業 科 目 名	学科 (科目区分)	担 当 教 員 職・氏名	必修・選 択の別	学年	開講時期	単位 数	先修条件 指定科目	科目等 履修生
総合看護学実習Ⅱ	看護学科 (専門科目)	教 授・菅原 京子 教 授・桂 晶子 准教授・鈴木 育子 准教授・今野 浩之 助 教・栗田 敦子 教 授・遠藤 恵子 准教授・菊地 圭子 助 教・渡邊 礼子 助 教・前田のぞみ	必修	4	後期	1	非該当	否
授業概要	市町村や助産所等を実習場所として、地域における職種間連携や健康危機管理システムの実際を、実習を通して学び、将来、保健医療福祉チームにおける看護専門職としての役割と責任を果たすための基礎的能力を養う。							
一般目標	1. 市町村や助産所等と医療施設間における継続看護の実際を理解する。 2. 地域における保健医療福祉チームの職種間連携の実際と看護の役割を理解する。 3. 地域における健康危機管理システムの実際について理解する。 4. 社会情勢を踏まえて、地域における保健医療福祉チームの活動上の課題について考察する。							
到達目標	1. 市町村や助産所等と医療施設間における継続看護の内容と実施状況について説明できる。 2. 地域における保健医療福祉チームの職種間連携の内容と状況について説明できる。 3. 地域における保健医療福祉チームの職種間連携における看護の役割について説明できる。 4. 地域における健康危機管理システムの内容と実践状況について説明できる。 5. 社会情勢を踏まえた上で、地域における保健医療福祉チームの活動上の課題について考察し、課題解決について自己の考えを述べることができる。							
成績評価方針 評 価 方 法 および基準	・実習記録、実習内容を総合して評価する。							
授業計画								
回	日付	授業項目・学習課題	学習内容・学習方法			授業外学習など		担当
	【公衆衛生】 5. 10. 2 (月) ～ 5. 10. 6 (金) 【助産】 5. 9. 19 (火) ～ 5. 10. 13 (金)	・実習施設のオリエンテーション ・説明を受ける ・看護活動の観察 ・保健師または助産師と共に看護を実施する ・カンファレンス	実習方法 ・公衆衛生看護学選択者と助産学選択者に分かれて実習する。 ・説明を受ける、看護活動の観察、保健師または助産師と共に看護を実践することによって目標を達成する。 実習場所 市町村と助産所等 実習内容、実習方法の詳細は実習要項に提示する。			・これまで学んだすべてのことを復習して実習に臨むこと		菅原 桂 鈴木 今野 栗田 遠藤 菊地 渡邊 前田
教 科 書 参 考 図 書								
履 修 上 の 注 意								
学 生 へ の メ ッ セ ー ジ		本科目は、教員と実習指導者（看護師・保健師等）の指導の下、市町村及び助産所等において看護過程を展開する科目であり、高等教育の負担軽減制度の要件に定める「実務経験のある教員による科目」としています。						
e-mail・研究室 (連 絡 先)		菅原：研究室 7 ksugawara@yachts.ac.jp 桂：研究室 9 skatsura@yachts.ac.jp 鈴木：研究室 8 isuzuki@yachts.ac.jp 今野：研究室 17 hkono@yachts.ac.jp 栗田：第2共同研究室 akurita@yachts.ac.jp 遠藤：研究室 20 kendo@yachts.ac.jp 菊地：研究室 5 kkikuchi@yachts.ac.jp 渡邊：第1共同研究室 rhiguchi@yachts.ac.jp 前田：第2共同研究室 nmaeda@yachts.ac.jp						

授 業 科 目 名		学 科 (科目区分)	担 当 教 員 職・氏名	必修・選 択の別	学年	開講 時期	単位 数	先修条件 指定科目	科目等 履修生
研究方法論Ⅰ		看護学科 (専門科目)	教 授・安保 寛明* 准教授・梶 理和子 准教授・今野 浩之 講 師・山田カオル 講 師・槌谷由美子 (*：科目責任者)	必修	2	後期	1	非該当	可
授業概要		看護研究の目的、研究の過程の概要を教授する。 研究デザインによる研究方法の特徴について基礎的な事項を教授する。							
一般目標		・看護研究の基本を理解することができる。 ・文献検索方法が理解でき、実施できる。 ・研究デザインによる研究方法の特徴が理解できる。							
到達目標		・研究を行う意義を説明できる。 ・文献検討の目的と方法を説明でき、具体的方法としての医中誌 Web による検索ができる。 ・質問紙調査の原理と、質問紙作成上の留意点、既存の測定尺度を用いる場合の留意点を説明できる。 ・記述統計など基本的な分析方法について説明できる。 ・質的研究方法の特徴を量的研究との比較によって説明でき、研究方法を用いる場合の留意点を説明できる。 ・既存のデータを用いた帰納的分析の体験を通して、帰納的分析の特徴を説明できる。 ・事例研究や理論的研究の意義や研究方法について説明できる。 ・倫理的配慮や研究不正の概要を説明でき、研究結果の発表過程を説明できる。							
成績評価方針 評 価 方 法 および基準		評価方針：到達目標に対応した課題を設定する。 レポート課題（25%）、演習課題（25%）、定期試験（50%）であり、各講義内で提示する。							
授業計画									
回	日付	授業項目・学習課題	学習内容・学習方法				授業外 学習など	担当	
1	5.11.22（水）2	研究とは・研究の過程	看護研究の位置づけ、意義、過程				レポート 課題	安保	
2	5.11.22（水）3	質的研究（1）	質的研究の特質					山田	
3	5.11.29（水）3	質的研究（2）	質的研究のデータ収集と分析					山田	
4	5.12. 6（水）3	理論的研究	理論的基盤をもとにした研究と意義					梶	
5	5.12.13（水）3	文献検討、倫理的配慮	文献検討の目的と方法、倫理的配慮					今野	
6	5.12.13（水）4	演習 文献検索の実際	医中誌 Web 検索の演習 情報処理室にて実施					図書館	
7	6. 1.10（水）3	質問紙調査（1）	質問紙調査の展開過程					槌谷	
8	6. 1.17（水）3	質問紙調査（2）	質問紙の作成の方法と考慮点					槌谷	
教 科 書 参 考 図 書		教科書 黒田裕子：黒田裕子の看護研究 step by step 第5版, 医学書院							
履 修 上 の 注 意		合理的配慮が必要な学生は初回講義までに申し出る事。 アカデミックリテラシー、統計学等の学習内容を一定程度踏まえた内容となる。上記科目の履修過程を自己評価の上で、必要に応じて自己学習することが望ましい。							
学 生 へ の メ ッ セ ー ジ		情報には信頼性がついてまわります。研究法を学ぶことは、信頼できる情報を生み出す過程について学ぶことに通じます。講義を楽しみにしてください。							
e-mail・研究室 (連 絡 先)		安保寛明：研究室 15 hambo@yachts.ac.jp							

授 業 科 目 名		学科 (科目区分)	担 当 教 員 職・氏名	必修・選 択の別	学年	開講 時期	単位 数	先修条件 指定科目	科目等 履修生
研究方法論Ⅰ		看護学科 (専門科目)	教 授・安保 寛明* 准教授・南雲美代子 准教授・梶 理和子 准教授・片桐 智子 准教授・半田 直子 講 師・槌谷由美子 (*：科目責任者)	必修	3	前期	2	非該当	可
授業概要		看護研究の目的、研究の過程の概要を教授する。 研究デザインによる研究方法の特徴について基礎的な事項を教授する。							
一般目標		・看護研究の基本を理解することができる。 ・文献検索方法が理解でき、実施できる。 ・研究デザインによる研究方法の特徴が理解できる。							
到達目標		・研究を行う意義を説明できる。 ・文献検討の目的と方法を説明でき、具体的方法としての医中誌 Web による検索ができる。 ・質問紙調査の原理と、質問紙作成上の留意点、既存の測定尺度を用いる場合の留意点を説明できる。 ・記述統計など基本的な分析方法について説明できる。 ・質的研究方法の特徴を量的研究との比較によって説明でき、研究方法を用いる場合の留意点を説明できる。 ・既存のデータを用いた帰納的分析の体験を通して、帰納的分析の特徴を説明できる。 ・実践例から測定を用いた研究の意義と特徴について説明できる。 ・事例研究や理論的研究の意義や研究方法について説明できる。 ・倫理的配慮や研究不正の概要を説明でき、研究結果の発表過程を説明できる。							
成績評価方針 評価方法 および基準		評価方針：到達目標に対応した課題を設定する。 レポート課題（25%）、演習課題（50%）、小テスト（25%）であり、各講義内で提示する。							
授業計画									
回	日付	授業項目・学習課題	学習内容・学習方法				授業外 学習など	担当	
1	5. 4. 11（火）1	研究とは・研究の過程	看護研究の位置づけ、意義、過程					安保	
2	5. 4. 14（金）3	文献検討	文献検討の目的と方法					半田	
3	5. 4. 14（金）4	演習 文献検索の実際	医中誌 Web 検索の演習 情報処理室にて実施					図書館	
4	5. 4. 21（金）3	研究デザインの種類	研究デザインの種類と特徴					安保	
5	5. 4. 21（金）4	質的研究（1）	質的研究の特質					安保	
6	5. 4. 28（金）3	質的研究（2）	質的研究のデータ収集					安保	
7	5. 4. 28（金）4	質的研究（3）	質的データの分析と研究報告					安保	
8	5. 5. 12（金）3	事例研究	事例研究の進めかたとその意義					片桐	
9	5. 5. 12（金）4	実験研究と測定	測定を用いた研究の意義と研究例					南雲	
10	5. 5. 19（金）3	質問紙調査（1）	質問紙調査の展開過程					槌谷	
11	5. 5. 19（金）4	質問紙調査（2）	質問紙の作成の方法と考慮点					槌谷	
12	5. 5. 26（金）3	質問紙調査（3）	作成した質問紙を用いた分析					槌谷	
13	5. 5. 26（金）4	理論的研究	ジェンダー論、アイデンティティ論の探求と意義					梶	
14	5. 6. 2（金）3	倫理的配慮	研究における倫理の必要性、原則					安保	
15	5. 6. 2（金）4	研究発表方法、まとめ	研究発表の意義と方法、まとめ（小テスト）					安保	
教 科 書 参 考 図 書		教科書 黒田裕子：黒田裕子の看護研究 step by step 第5版, 医学書院							
履 修 上 の 注 意		合理的配慮が必要な学生は初回講義までに申し出る事。 統計学、生体機能学Ⅰ等の学習内容を一定程度踏まえた内容となる。上記科目の履修過程を自己評価の上で、必要に応じて自己学習することが望ましい。							
学 生 へ の メ ッ セ ー ジ		情報には信頼性がついてまわります。研究法を学ぶことは、信頼できる情報を生み出す過程について学ぶことに通じます。講義を楽しみにしてください。							
e-mail・研究室 (連 絡 先)		安保寛明：研究室 15 hambo@yachts.ac.jp							

授 業 科 目 名		学 科 (科目区分)	担 当 教 員 職・氏名	必修・選 択の別	学年	開講 時期	単位 数	先修条件 指定科目	科目等 履修生
研究方法論Ⅱ		看護学科 (専門科目)	教授・齋藤美華 (看護学科全教員)	必修	3	通年	2	非該当	否
授業概要		研究論文の精読をとし、研究論文の構成やルールを理解する。 学会や研修会に参加し、研究の実際を学ぶ。							
一般目標		論文の構成やルールを理解できる。 研究デザインの特徴について理解できる。 研究論文をガイドラインに沿ってクリティークすることができる。 自分の関心のある領域の研究論文を検索し、重要な文献を集め、それらの結果を概観することができる。 先行研究や現在の社会状況、動機等から、研究課題を探求できる。 研究課題に適した研究方法を選定し、研究計画を検討できる。							
到達目標		論文の構成や、論文作成時のルールを説明できる。 ガイドラインにそって精読した研究論文をクリティークし、論文の適切・不適切、長所と短所を説明できる。 二次文献を活用して、自分の関心のある領域の研究論文を系統的に検索できる。 関心のある課題の選定に有益な文献を集め、概観することができる。 先行研究や現在の社会状況、動機等から、研究課題を探求できる。 研究課題に適した研究方法を選定し、研究計画を検討できる。 学会や研修会に参加し、研究の社会的貢献の実際を説明できる。 学会や研修会、研究発表会に参加し、実際の研究やプレゼン技法を説明できる。 研究発表会を通じて、学士課程で行われる研究の特徴を記述することができる。							
成績評価方針 評 価 方 法 および基準		評価方針：到達目標に対応した課題を設定する。 評価方法：レポート3題（レポート①40%、レポート②50%、レポート③10%）で評価する。 評価基準：到達目標に応じて実施する。講義内で提示する。							
授業計画									
回	日付	授業項目・学習課題	学習内容・学習方法			授業外学習 など	担当		
1	5. 6. 16 (金) 3	ガイダンス	ガイダンス				齋藤		
2 ～ 6	5. 6. 23 (金) 3-4 5. 7. 14 (金) 3-4 5. 7. 21 (金) 3	クリティーク 研究論文の精読	(講義・演習) クリティークの方法を理解する。 課題論文を読解する。「クリティークガイド ライン」にそって、論文の構成やルール、 デザインによる特徴を理解する。				齋藤		
7 ～ 10	5. 7. 21 (金) 4 5. 7. 28 (金) 1-3	文献検索 文献検討	自分の関心領域の研究論文を検索し、必 要な文献を収集する (3 論文程度)。 収集した文献を概観し、自分の関心のある 課題の研究の意義や、研究方法の動向 をまとめる。			レポート①	齋藤		
11	5. 7. 28 (金) 4	研究計画書作成	講義				齋藤		
12 ～ 17	6 月～11 月	学会参加	近隣で行われる学会または研修会（最低 1 つ）に参加する。＊情報の詳細は後日 提示する。また、掲示やホームページ、 教員からの情報も積極的に活用すること			レポート②			
18 ～ 23	5. 12. 2 (土)	卒業研究発表会参加	看護学科卒業研究発表会に参加する。						
24 ～ 28	6 月～12 月	研究課題探求	文献検討、学会や研修会、卒業研究発表 会への参加、および教員の研究テーマ (表)を参考に、卒業研究を想定した研究 課題を探索する。必要時、各教員に相談 を得ながら行う。			レポート③ 取り組みたい研究テ ーマ・内容	齋藤 (全教員)		
29 ～ 30		研究課題の明確化 研究計画の検討	必要時、指導教員に相談を得ながら研究 課題を明確化し、目的、対象、調査内容 などを検討する。				卒研調整係 (全教員)		
教 科 書 参 考 図 書		参考書 黒田裕子：黒田裕子の看護研究 step by step 第5版, 医学書院 JJN スペシャル, 看護研究の進め方 論文の書き方, 医学書院							
履 修 上 の 注 意		自らスケジュール管理を行い、計画的に進めてください。							
学 生 へ の メ ッ セ ー ジ		卒業研究につながる科目です。ぜひ関心を持って主体的に取り組んでください。							
e - m a i l ・ 研 究 室 (連 絡 先)		齋藤美華：研究室1 misaito@yachts.ac.jp							

授 業 科 目 名	学科 (科目区分)	担 当 教 員 職・氏名	必修・選 択の別	学年	開講時期	単位 数	先修条件 指定科目	科目等 履修生
卒業研究	看護学科 (専門科目)	看護学科全教員	必修	4	通年	3	非該当	否
授業概要	これまでの講義や実習を通して見出した問題や課題について、調査・分析・考察等の研究過程を経て、何らかの結論を導き出す様々な研究手法を習得するとともに、問題解決能力を育成する。							
一般目標	1. 研究課題に沿った研究計画を立案する。 2. 研究計画に基づいて研究を実施する。 3. 論理的な思考に基づき、研究成果をまとめる。 4. 研究を通して問題解決能力を高める。							
到達目標	1. 自己の問題意識をもとに、文献検討を行い、研究課題を明確にできる。 2. 目的に沿った研究手法を選択し、研究計画を立案できる。 3. 研究計画に沿って研究を進め、結果を導き、結果を分析・考察できる。 4. 研究成果を発表できる。 5. 論文を作成できる。							
成績評価方針 評価方法 および基準	1. 論文 ・期日までに論文を完成させ、提出する。 ・論文の構成を理解し、執筆規定にそって執筆することができる。 ・科学的な論拠に沿った論旨の展開ができる。 ・自分の主張を論旨のとあったわかりやすい文章で表現できる。 2. 発表 ・定められた発表のルールに従って発表できる。 ・わかりやすく発表できる。 ・他の人の発表を理解しようとする態度をもつ。 ・プレゼンテーションの手法を習得する。 3. 学習状況 ・研究課題をこれまでの経験・先行研究・文献等から明確にできる。 ・課題を達成する適切な方法を検討することができる。 ・収集されたデータ等を適切な方法を用いて分析し、結果を導くことができる。 ・導かれた結果を、他の研究や自分の考えから適切に解釈・考察することができる。 ・図書館やインターネット等を利用して、適切な文献検索、情報収集ができる。 ・常に探究心をもち、積極的に研究に取り組むことができる。 ・倫理的な配慮を理解し、取り組むことができる。							
授業計画								
回	日付	授業項目・学習課題	学習内容・学習方法			授業外学習など		担当
	5.12. 1 (金) ～ 5.12. 2 (土)	論文クリティーク 研究計画書の作成 データ収集・分析 結果・考察の記述 論文題名提出 抄録提出 卒業研究発表会 論文執筆の完成 卒業研究論文提出 卒業研究論文集配布	自らの研究課題を明らかにするための 具体的な研究計画書を作成し提出する。 研究計画書を元に研究を進める。 研究内容を正確かつ的確に示すタイトルをつけ、抄録を作成して提出する。 わかりやすいプレゼン資料を作成し、発表をする。 科学的な論拠に沿って論旨を展開し、論文にまとめる。 論文を読んで学ぶ。			自らの研究課題に関連 する文献や論文等の収 集と精読		全員
教科書 参考図書	随時紹介します。							
履修上の注意	各研究指導教員から日程や内容の変更など必要時、連絡をします。 メールや掲示板を注意しておくこと。							
学生への メッセージ	研究指導教員のもとで、主体的に取り組んでください。通年科目ですので、時間配分を考えて進めていってください。							
e-mail・研究室 (連絡先)	齋藤美華：研究室1 misaito@yachts.ac.jp							

授 業 科 目 名	学 科 (科目区分)	担 当 教 員 職・氏名	必修・選 択の別	学年	開講時期	単位 数	先修条件 指定科目	科目等 履修生
終末期看護論	看護学科 (専門科目)	講 師・高橋 直美	選択	4	後期	1	非該当	可
授業概要	終末期にある人やその家族の特徴を踏まえ、多様な場所で療養する人々の QOL の維持向上を図るために看護が果たすべき役割を教授する。また、尊厳ある死に方とは何か、死を迎えた後の家族は何を求めているのかを考え、自己の死生観を深める機会とする。							
一般目標	1. 終末期看護の概念と特徴を理解する。 2. 療養場所別の終末期看護の現状と課題を理解する。 3. 自らの死生観を深める。							
到達目標	1. 終末期看護の概念が説明できる。 2. 終末期にある人とその家族の特徴を理解し、看護が果たすべき役割と課題が考察できる。 3. 終末期の倫理的課題について考察できる。 4. グリーフケアの対象を理解し、看護が担う役割が考察できる。 5. 緩和ケアの概念が説明できる。 6. 異なる療養場所によって看護が果たすべき役割と課題が考察できる。 7. 自らの死生観を深める姿勢を身につけることができる。							
成績評価方針 評 価 方 法 および基準	・課題(80%)：授業毎のミニッツペーパーから評価する。 ・授業参加による学び(20%)：グループワーク等への参加状況から評価する。							
授業計画								
回	日付	授業項目・学習課題	学習内容・学習方法			授業外 学習など	担当	
1	5. 10. 24(火)2-4	・“死”を考える	・“死”とは何か			授 業 項 目 毎 に 指 示 す る	高橋	
2		・終末期の概念 ・終末期における倫理的問題	・終末期とは ・終末期における倫理的問題を考える				高橋	
3		・グリーフケア	・グリーフケアとは ・家族へのグリーフケア ・医療スタッフへのグリーフケア				高橋	
4	5. 10. 31(火)2-4	・緩和ケア	・緩和ケアとは ・終末期にある人への緩和ケアの実際 ・発達段階別にみる終末期看護				外部 講師	
5		・療養場所別にみる終末期看護① ー臨床ー	・入院中の患者・家族への終末期看護の 実際				外部 講師	
6		・療養場所別にみる終末期看護② ー在宅ー	・在宅療養者・家族への終末期看護の 実際				外部 講師	
7	5. 11. 7(火)3-4	・看取り前後の看護ケア	・看取り前後の身体変化 ・エンゼルケア				高橋	
8		・まとめ	・日本の死亡数/死因の年次推移 ・人々が望む人生の最終段階を過ごせる 社会に向けて				高橋	
教 科 書 参 考 図 書	参考図書：随時授業で紹介							
履 修 上 の 注 意	これまでの講義や実習等で学んできたこと・体験してきたこと等を想起しながら、主体的に授業に参加してください。							
学 生 へ の メ ッ セ ー ジ	“死”とは何かを改めて考え、誰もが迎える人生の終焉に向け、看護が果たすべき役割を深く考察する機会にしましょう。							
e-mail・研究室 (連 絡 先)	高橋：研究室 21 ntakahashi@yachts.ac.jp							

授 業 科 目 名		学科 (科目区分)	担 当 教 員 職・氏名	必修・選 択の別	学年	開講時期	単位 数	先修条件 指定科目	科目等 履修生
国際看護論		看護学科 (専門科目)	非常勤講師 金井 Pak 雅子	選択	4	後期	1	非該当	否
授業概要		異文化のなかでの看護実践におけるコミュニケーションの基本、価値観の相違、倫理などについて理解を深める。さらに国際協力における看護の役割について理解するとともに、先進国および途上国におけるヘルスケアの現状と課題について日本との比較ができる。							
一般目標		1. 世界各国の健康問題について理解できる。 2. 国際協力における看護の役割について理解できる。 3. 異文化への理解を深めることができる。							
到達目標		1. グローバルヘルスに関する国際機関の役割と機能が理解できる。 2. 米国、英国、カナダ、台湾、香港、シンガポールなどの医療提供システムについて理解できる。 3. 異文化コミュニケーションの基本が理解できる							
成績評価方針 評 価 方 法 および基準		毎回のリアクションペーパー (70%) 異文化コミュニケーションのプレゼンテーション (30%)							
授業計画%)									
回	日付	授業項目・学習課題	学習内容・学習方法			授業外学習など		担当	
1	後日連絡	オリエンテーション、 「国際」について	国際とは何か、各自事前に「国際」について調べた内容を発表する。			毎回の授業後に、リアクションペーパーを提出する。異文化コミュニケーションのプレゼンの準備を行う。		金井 Pak 雅子	
2		グローバルヘルスに関する国際機関	ICN, WHO, UNICEF, JICA, World Bank などの役割・機能について VTR 視聴、討議						
3		ICN の活動について	ICN の活動に関する講義を受け グローバルヘルスに関する討議をする						
4		米国、カナダ、英国のヘルスケアシステム	各国ヘルスケアシステムの特徴について講義を受け、日本との比較を討議する						
5		台湾、香港、シンガポールのヘルスケアシステム	各国ヘルスケアシステムの特徴について講義を受け、日本との比較を討議する						
6		EPA について	世界規模の看護労働市場について講義を受け、将来展望について討議する						
7		WHO の役割・機能	WHO の役割・機能について講義を受け グローバルな視点におけるヘルスケアについて討議する						
8		異文化コミュニケーション発表会	各自が調べた異文化コミュニケーションの発表を行い、peer Review を行う						
教科書 参 考 図 書		教科書はないが、参考文献などは講義の中で紹介する。							
履修上の注意		集中講義であり、欠席すると単位取得が困難となるので注意すること							
学 生 へ の メ ッ セ ー ジ									
e-mail・研究室 (連絡先)		金井 Pak 雅子：mkanaipak@kanto-gakuin. ac. jp							
連絡調整 担当教員		遠藤和子：研究室 13 kaendo@yachts. ac. jp							

授 業 科 目 名		学 科 (科目区分)	担 当 教 員 職・氏名	必修・選 択の別	学年	開講時期	単位 数	先修条件 指定科目	科目等 履修生
英語論文読解		看護学科 (専門科目)	准教授・梶 理和子	選択	2	後期	1	非該当	否
授業概要		この授業では、研究（何らかの課題に対する考察）をおこなう際に、その考察の手掛かりとなる現代社会のさまざまな概念や思想を学ぶことを目的としています。学生には各自、興味ある課題にかかわる文献を検索し、その内容や自分の考えを紹介したうえで、クラスで意見交換をおこなってもらいます。その過程で、病気と社会（病気の誕生、多様化、位置づけ）、主体と生命（生命の価値、病気との共生）ジェンダー（パフォーマティヴな主体、多様化）といった概念にまつわる政治的、経済的、文化的状況に対する理解を深めていきます。							
一般目標		多様な概念や価値観は、さまざまな文化的状況のなかで構築される（変化する）という認識をもって、卒業研究等の研究課題を（再）評価する。研究を遂行するために収集すべき情報や知識を判断し、整理し、考察・分析をおこなう自分なりの視点を醸成する。							
到達目標		1. 論文の構造を説明できる。 2. さまざまな思想や概念にまつわる知識を学ぶ。 3. 自分なりの問題意識を持って研究（論文）を読解し、考察する。 4. インターネット等を活用し、関連する情報等を収集、整理、分類できる。 5. コミュニケーションを円滑に行う雰囲気作りを心がけ、演習に取り組む。							
成績評価方針 評価方法 および基準		講義内演習（文献等の読解・考察、ディスカッション等）(40) Minute paper（論文の構造、思想や概念等の理解度確認含む）(30) 課題探求（興味のある課題にかかわる文献検索、問題に対する考察）(30)							
授業計画									
回	日付	授業項目・学習課題	学習内容・学習方法	授業外学習など	担当				
1	5. 11. 30（木）1	オリエンテーション	授業概要確認 教材視聴	シラバス確認 配布プリントの確認	梶				
2	5. 12. 7（木）1	論文の読み方	論文の形式と内容の理解	論文の構成確認、課題探求 （文献検索、課題考察）					
3	5. 12. 14（木）1	課題探求（演習）(1) 思想や概念の理解(1)	文献紹介・意見交換（演習） 病気と社会(1)	課題探求、思想や概念に関わ る情報の確認と考察					
4	5. 12. 21（木）1	課題探求（演習）(2) 思想や概念の理解(2)	文献紹介・意見交換（演習） 病気と社会(2)	課題探求、思想や概念に関わ る情報の確認と考察					
5	6. 1. 4（木）1	課題探求（演習）(3) 思想や概念の理解(3)	文献紹介・意見交換（演習） 主体と生命	課題探求、思想や概念に関わ る情報の確認と考察					
6	6. 1. 11（木）1	課題探求（演習）(4) 思想や概念の理解(4)	文献紹介・意見交換（演習） 主体とジェンダー	課題探求、思想や概念に関わ る情報の確認と考察					
7	6. 1. 18（木）1	課題探求（演習）(5) 思想や概念の理解(5)	文献紹介・意見交換（演習） パフォーマティヴィティ	課題探求、思想や概念に関わ る情報の確認と考察					
8	6. 1. 25（木）1	まとめ	授業で取り上げられた課 題、思想や概念の理解確認	論文構造の確認、知識を整理 分類し、活用できる形にする					
教 科 書 参 考 図 書		資料はプリントで配布します							
履 修 上 の 注 意		演習中心の講義ですので、積極的に参加してください。							
学 生 へ の メ ッ セ ー ジ		さまざまな概念や思想、問題に関心を持ちましょう。							
e-mail・研究室 （ 連 絡 先 ）		梶 理和子：研究室 25 rkazi@yachts.ac.jp							

授 業 科 目 名		学 科 (科目区分)	担 当 教 員 職・氏名	必修・選 択の別	学年	開講時期	単 位 数	先修条件 指定科目	科目等 履修生
欧文原著講読		看護学科 (専門科目)	准教授・梶 理和子	選択	4	後期	1	非該当	否
授業概要		この授業では、研究（何らかの課題に対する考察）をおこなう際に、その考察の手掛かりとなる現代社会のさまざまな概念や思想を学ぶことを目的としています。学生には各自、興味ある課題にかかわる文献を検索し、その内容や自分の考えを紹介したうえで、クラスで意見交換をおこなってもらいます。その過程で、TED Talks 等を用いて「病気」や「ジェンダー」といった概念にまつわる政治的、経済的、文化的状況に対する理解を深めていきます。							
一般目標		多様な概念や価値観は、さまざまな文化的状況のなかで構築される（変化する）という認識をもって、卒業研究等の研究課題を（再）評価する。研究を遂行するために収集すべき情報や知識を判断し、整理し、考察・分析をおこなう自分なりの視点を醸成する。							
到達目標		1. 論文の構造を説明できる。 2. さまざまな概念・思想にまつわる知識を学ぶ。 3. 自分なりの問題意識を持って研究（論文）を読解し、考察する。 4. インターネット等を活用し、関連する情報等を収集、整理、分類できる。 5. コミュニケーションを円滑に行う雰囲気作りを心がけ、演習に取り組む。							
成績評価方針 評価方法 および基準		講義内演習（研究等の読解・考察、ディスカッション等）（40） Minute paper（論文の構造、概念・思想等の理解度確認含む）（30） 課題探求（興味のある課題にかかわる文献検索、問題に対する考察）（30）							
授業計画									
回	日付		授業項目・学習課題	学習内容・学習方法		授業外学習など		担当	
1	後日連絡		オリエンテーション(1)	授業概要確認 教材視聴		シラバス確認		梶	
2			オリエンテーション(2)			配布プリントの確認			
3			論文の読み方	TED Talks (1) 論文形式、分析方法		関連情報の収集			
4			病気と社会(1)	TED Talks (2) 病気の誕生・多様化		情報に基づく意見構築			
5			病気と社会(2)	TED Talks (3) 病気の位置づけ		演習に基づく考察			
6			課題探求①	文献検索ほか		関連情報の収集			
7			主体と生命(1)	TED Talks (4) 生命の価値		情報に基づく意見構築			
8			主体と生命(2)	TED Talks (5) 病気との共生		演習に基づく考察			
9			課題探求②	文献検索ほか		関連情報の収集			
10			セックスとジェンダー(1)	TED Talks (6) フェミニズムとの関連		情報に基づく意見構築			
11			セックスとジェンダー(2)	TED Talks (7) パフォーマンス		演習に基づく考察			
12			課題探求③	文献検索ほか		関連情報の収集			
13			課題探求④	文献読解		文献読解・考察			
14			課題探求⑤	文献に基づく意見交換		思想・概念の総復習			
15			まとめ	問題（意識）の再考		卒業研究等への応用			
教 科 書 参 考 図 書			資料はプリントで配布します						
履 修 上 の 注 意			演習中心の講義ですので、積極的に参加してください。						
学 生 へ の メ ッ セ ー ジ			さまざまな概念や思想、問題に関心を持ちましょう。						
e-mail・研究室 (連 絡 先)			梶 理和子：研究室 25 rkazi@yachts.ac.jp						

授 業 科 目 名		学 科 (科目区分)	担 当 教 員 職・氏名	必修・選 択の別	学年	開講時期	単位 数	先修条件 指定科目	科目等 履修生
ジェネラリズム看護論		看護学科 (専門科目)	教 授・遠藤 和子 准教授・丹野 克子 講 師・山田カオル	選択	2	通年	1	非該当	可
授業概要		地域の保健医療水準の向上に貢献できる地元ナースとしての活動の基盤形成につながるように、人々の多様な健康問題及び看護へのニーズの現状を概観し、地方の小規模病院・診療所、高齢者施設等の場において、求められる看護について探求する							
一般目標		①「ジェネラリズム」とはどのようなことか理解できる ②地方に暮らす人々の健康問題と生活をみる視点について理解できる ③ジェネラリストとしての看護が期待される場とニーズについて理解できる ④外来や地方の小規模病院や診療所で求められるジェネラリストとしての看護活動の実際について知る ⑤地元住民が頼りにする看護師像について探求することができる							
到達目標		・ジェネラリズム看護について、用語の意味を説明できる ・地方に暮らす人々の健康問題と生活をみる視点について説明できる ・看護に期待されるジェネラリストとしての役割について説明できる ・その地方の強みと弱みを把握し、多様な健康問題をとらえ、地元住民の力を引き出し、医療福祉と連携するにはどのような方法がとられているか説明できる ・地元住民が頼りにする看護師像について自らの考えを説明できる							
成績評価方針 評 価 方 法 および基準		方針：講義で提示される内容の理解と、自らの地域の情報収集、今後求められるジェネラリズム看護について自ら考えることを重視します。 方法：課題レポート 30%、テーマに対するディスカッションでの発言 20%、最終レポート 50% 基準：到達目標の内容が盛り込まれているかで評価する。							
授業計画									
回	日付	授業項目・学習課題	学習内容・学習方法				授業外学習など		担当
1	5. 6. 15 (木) 2	ジェネラリズム看護論とは	この講義の特徴と進め方 ジェネラリズムとは ジェネラリズム看護論の概観						遠藤和
2	5. 6. 22 (木) 1	地方に暮らす人々の健康問題と看護ニーズ	パネルディスカッション 「生活をみるとは」 看護学、社会学、理学療法学、作業療法学、社会福祉学などを基盤とする専門家による、職種間の視点の類似と相違				地域包括ケアシステムについて調べておく		遠藤和 丹野 山田 スポット
3	5. 6. 22 (木) 2								
4	5. 6. 29 (木) 2		前回を受けて検討会 ・地方に暮らす人々の健康問題と生活をみる看護の視点 ・求められる看護の現状と課題					「生活をみる」とはどのようなことか、自分の考えをまとめてくる	
5	5. 11. 15 (水) 4	看護に期待されているジェネラリストとしての活躍の場とニーズ	ディスカッション 「外来や地方の小規模病院や診療所で求められる看護活動の実際」 (専門性を持つナース、ジェネラリストナース、看護管理者など)				地域の地理的条件、風土、暮らし方などの情報収集をして臨む		遠藤和 山田 スポット
6	5. 11. 30 (木) 3								
7	5. 11. 30 (木) 4								
8	5. 12. 6 (水) 4	ジェネラリズム看護の展望	地元住民が頼りにする看護師像とは				文献、WEB などを活用し意見をまとめる		遠藤和
教 科 書 参 考 図 書		参考図書は、適宜紹介します。そのほか、自分で検索したものも活用してください。							
履 修 上 の 注 意		講義日程をよく確認して出席してください。 図書館の文献検索ガイダンスの受講を修了しておいてください。 議論に参加するには、日ごろから問題意識を持つこと、予習と自分の考えをまとめておくことが重要です。							
学 生 へ の メ ッ セ ー ジ		一部理学療法学の科目とリンクします。 自分の生活経験も反映させて、多様な方向から「生活すること」について考えを深めていきましょう。							
e-mail・研究室 (連 絡 先)		遠藤和： 研究室 13 kaendo@yachts.ac.jp							